

Honeywell

Voyager™ 1470g/1472g シリーズ

エリアイメージングスキャナ

ユーザーズガイド



免責事項

Honeywell International Inc.（以下「ハネウエル社」）は、本書に記載された仕様およびその他の情報を事前に断り無く変更することがあります。何か変更があったかどうかを確認するときは、必ずハネウエル社にお問い合わせください。本書の情報についてハネウエル社では一切の保証をいたしません。

本書に技術的または編集上の誤りや記載漏れがあった場合、また本書の提供、実行、あるいは使用に起因する偶発的または必然的に発生した損害についてハネウエル社では一切の責任を負いません。意図した結果を得るためのソフトウェアやハードウェアの選択と使用についての一切の責任をハネウエル社は負いません。

本書には、著作権で保護された情報が含まれ、著作権法の対象となります。本書のどの部分も、ハネウエル社の文書による事前承諾を得ずにコピー、複製または他言語への翻訳はできません。

Copyright© 2019-2020 Honeywell International Inc. All rights reserved.

ウェブアドレス：www.honeywellaidc.com

登録商標

Microsoft® Windows®およびWindowsロゴはMicrosoft Corporationの商標または登録商標です。

本書に記載されているその他の製品名やマークは各社の商標または登録商標である可能性があり、それぞれ所有者が権利を所有しています。

著作権

著作権については、www.hsmpats.comを参照してください。

目次

はじめに	1
本マニュアルについて	1
製品の開梱	1
接続	1
USBでの接続	1
キーボードウェッジ接続	2
RS232シリアルポート接続	3
RS485接続	4
CCB01-010BT-V1Nチャージベースの設置	5
読み取り方法	5
メニューバーコードセキュリティ設定	6
カスタムデフォルトの設定	6
カスタムデフォルトの再設定	6
インターフェースの設定	7
はじめに	7
インターフェースのプログラム設定 - プラグ & プレイ	7
キーボードウェッジ	7
ノート型PCとの直接接続	7
RS232シリアルポート	7
RS485	8
RS485パケットモード	8
RS485パケットの長さ	8
USB IBM SUREPOS	9
パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード	9
USB HID	9
USBシリアル	9
CTS/RTSエミュレーション	10
ACK/NAKモード	10
USB用REMOTE MASTERMIND™	10
VERIFONE® RUBY端末の初期設定	10
GILBARCO® 端末の初期設定	11
HONEYWELL2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	11
DATALOGIC™ MAGELLAN® 2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	11
NCR2面式カウンタースキャナの補助ポート設定	11
WINCOR NIXDORF 端末の初期設定	12
WINCOR NIXDORF BEETLE™ 端末の初期設定	12
WINCOR NIXDORF RS232モードA	12
国別キーボード	13
キーボードスタイル	20
キーボードの変換	20
制御文字の出力	21
キーボード設定	21
RS232モディファイア	22
RS-232ボーレート	22
RS232ワード長：データビット、ストップビット、パリティ	23
RS232レシーバタイムアウト	24
RS232ハンドシェイク	24
RS232タイムアウト	24
XON/XOFF	25
ACK/NAK	25
スキャナから2面式カウンタースキャナへの通信	25
2面式カウンタースキャナパケットモード	25
2面式カウンタースキャナACK/NAKモード	26
2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウト	26

コードレスシステムの操作.....	27
コードレスチャージベース/アクセスポイントの仕組.....	27
スキャナのチャージベースへの接続.....	27
スキャナとアクセスポイントの接続.....	28
リンクされたスキャナの交換.....	28
コードレスシステムとホストデバイス間の通信.....	28
スキャナとベースユニットまたはアクセスポイントのプログラム.....	29
RF（無線周波数）モジュールの操作.....	29
システム条件.....	29
通信プロセス.....	29
スキャナが通信可能範囲外にあるとき.....	29
スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき.....	29
バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り.....	29
ページ（呼出し）ボタン.....	30
バッテリーについて.....	30
充電について.....	30
バッテリーについての推奨事項.....	30
リチウム電池の安全に関する注意事項.....	30
バッテリーの適切な処分.....	31
ブザーLEDのシーケンスと意味.....	31
スキャナのLEDシーケンスと意味.....	31
ベースユニット/アクセスポイントのLEDシーケンスと意味.....	31
ベースパワー通信インジケータ.....	31
スキャナのリセット.....	32
スキャナをベースに置いた状態での読み取り.....	32
ベースチャージモード.....	32
ページング（スキャナの呼び出し）.....	33
ページングモード（スキャナの呼び出し）.....	33
ページング（呼び出し）音の音程.....	33
エラーインジケータ.....	33
ブザー音の音程：ベースのエラー発生時.....	33
ブザー音の回数：ベースのエラー発生時.....	34
スキャナレポート.....	34
スキャナのアドレス.....	34
ベースまたはアクセスポイントのアドレス.....	34
スキャナモード.....	34
充電限定モード.....	34
通信モード.....	35
スキャナとの通信解除.....	35
通信固定されたスキャナの上書き.....	36
通信範囲外アラーム.....	36
アラーム音の種類.....	36
スキャナパワータイムアウトタイマー.....	37
出力管理.....	37
バッチモード.....	38
バッチモード：ブザー音.....	39
バッチモード：保存形式.....	39
個数の入力.....	39
個数コード.....	40
バッチモード：出力順序.....	41
レコードの合計件数.....	41
最後のコードを削除.....	41
すべてのコードを削除.....	41
保存したデータをホストシステムへ送信.....	41
バッチモード：送信ディレイ（間隔）.....	42
複数スキャナでの操作.....	42
スキャナ名.....	42
アプリケーションワークグループ.....	43

アプリケーションワークグループセレクション	44
初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	44
カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	44
BLUETOOTH対応機器との併用	45
Bluetooth Secure Simple Pairing (SSP)	45
Bluetooth HIDキーボード接続	45
バーチャルキーボード	46
Bluetooth HIDキーボード通信切断	46
Bluetoothシリアルポート：デスクトップ型PC/ノート型PC	47
PDAやモバイルデバイスとのベースなしBT接続	47
スキャナのBluetooth暗証コード変更	47
BLUETOOTH/ISM帯域ネットワーク干渉の最小化	47
自動再接続モード	47
再接続試行最高限度回数	48
再接続タイムアウト	48
Bluetooth/ISMネットワークアクティビティの例	49
ホストコマンドの認知	49
ホストACK	50
ホストACKタイムアウト	50
ホストACKのレスポンス	50

入力・出力設定..... 52

起動ブザー	52
BELブザー	52
トリガークリック音	52
読取成功インジケータ	52
ブザー：読取成功時	53
ブザーの音量：読取成功時	53
ブザーの音程：読取成功時	53
ブザーの音程：読取失敗時およびエラー発生時	53
ブザーの長さ：読取成功時	54
LED：読取成功時	54
ブザーの回数：読取成功時	54
ブザーの回数：読み取り失敗時およびエラー発生時	54
読取成功ディレイ	55
ユーザー定義の読取成功ディレイ	55
マニュアルトリガーモード	55
LED照明：マニュアルトリガーモード	55
シリアルトリガーモード	56
読み取りタイムアウト	56
プレゼンテーションモード	56
アイドル照明：プレゼンテーションモード	56
プレゼンテーションセンタリング	57
スタンド使用時のセンサーモード	58
低品質コード	58
低品質1Dコード	58
低品質PDFコード	58
CODEGATE®	59
携帯端末読み取りモード	59
ハンズフリータイムアウト	59
再読取ディレイ	59
ユーザー定義の再読取ディレイ	60
2D読取ディレイ	60
キャラクタ有効化モード	60
キャラクタ有効化	61
読取成功後の終端文字のアクティベーション	61
キャラクタ有効化タイムアウト	61
キャラクタ無効化モード	61

キャラクタ無効化	62
照明ライト	62
エイマーディレイ	62
ユーザー定義のエイマーディレイ	62
エイマーモード	63
センタリング	63
NO READ	64
ビデオリバース（反転コード）	64
ワーキングオリエンテーション	65
データ編集	66
プレフィックス/サフィックスについて	66
補足	66
プレフィックスまたはサフィックスの追加手順	66
例：タブサフィックスをすべてのシンボルに追加する	67
1つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスの削除	67
キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する	67
プレフィックスの設定	67
サフィックスの設定	68
ファンクションコード送信	68
キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイ	68
キャラクタ間ディレイ	68
ユーザー指定のキャラクタ間ディレイ（間隔）	69
ファンクション間ディレイ（間隔）	69
メッセージ間ディレイ（間隔）	69
データフォーマット	71
データフォーマットエディタについて	71
データフォーマット表示	71
データフォーマットの追加	71
他のプログラミング設定	72
端末IDテーブル	73
データフォーマットエディタコマンド（編集コマンド）	73
送信コマンド	73
移動コマンド	75
検索コマンド	76
その他のコマンド	77
データフォーマッタ	79
基準/代用データフォーマット	80
シンボル	81
すべてのシンボル	81
読取桁数について	82
CODABAR	82
CODE39	83
INTERLEAVED 2 OF 5（ITF）	86
NEC 2 OF 5	87
CODE93	88
STRAIGHT 2 OF 5 INDUSTRIAL（3バースタート/ストップ）	89
STRAIGHT 2 OF 5 IATA（2バースタート/ストップ）	89
MATRIX 2 OF 5	90
CODE11	91
CODE128	91
ISBT128連結機能	92
GS1-128	93
UPC-A	93
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	95
クーポンGS1データバー出力	95
UPC-E0	95
UPC-E1	97

EAN/JAN-13.....	98
ISBN変換.....	99
EAN/JAN-8.....	99
MSI.....	101
GS1データバー標準型（オムニディレクショナル）.....	102
GS1データバー限定型（リミテッド）.....	102
GS1データバー拡張型（エクспанデッド）.....	103
CODABLOCKA.....	103
CODABLOCKF.....	104
PDF417.....	104
MACROPDF417.....	105
MICROPDF417.....	105
GS1コンポジットシンボル.....	105
GS1エミュレーション.....	106
TCIF LINKED CODE39（TLC39）.....	107
QRコード.....	107
DATA MATRIX.....	109
MAXIコード.....	109
AZTECコード.....	110
中国漢信（HAN XIN）コード.....	111
2次元郵便コード.....	112
Postnetチェックデジット.....	114
オーストラリア郵便 判読.....	114
1次元郵便コード.....	115
中国郵便コード（Hong Kong 2 of 5）.....	115
韓国郵便.....	116
インターフェースキー.....	117
キーボードファンクションの関係.....	117
サポートされているインターフェースキー.....	118
ユーティリティ.....	119
テストコードIDプレフィックスを全てのシンボルに追加.....	119
デコーダーリビジョン表示.....	119
スキャンドライバリビジョン表示.....	119
次のバーコードを読み取るとドライバのリビジョンを出力します。読み取りドライバは画像の取り込みを制御します。.....	119
ソフトウェアリビジョン表示.....	119
データフォーマットの表示.....	119
テストメニュー.....	120
EZCONFIGについて.....	120
EZCONFIGの操作.....	120
ウェブサイトからのEZConfigのインストール.....	120
初期設定の再設定.....	121
シリアルプログラミングコマンド.....	122
記述上の語句.....	122
メニューコマンドシンタックス（構文）.....	122
クエリコマンド.....	122
クエリコマンドの例.....	123
トリガーコマンド.....	124
標準の製品初期設定へのリセット.....	124
メニューコマンド.....	125
製品仕様.....	138
VOYAGER1470Gスキャナ製品仕様.....	138
VOYAGER1472Hコードレススキャナ製品仕様.....	139
CCB01-010BT-V1Nチャージャーベース製品仕様.....	140
読取深度（DoFチャート）.....	141

標準ケーブルのピン配列.....	142
キーボードウェッジ.....	142
シリアル出力.....	142
USB.....	142
RS485アウトプット.....	143
必要な安全ラベル.....	143
Voyager 1470g/1472gスキャナ.....	143
CCB01-010BT-V1Nベース.....	144
保守とトラブルシューティング.....	145
修理.....	145
保守.....	145
機器の清掃.....	145
ウィンドウの清掃.....	145
ヘルスケアハウジング（消毒可能筐体モデル）について.....	145
ケーブルとコネクタの点検.....	145
スキャナのインターフェースケーブルの交換.....	146
コード付きスキャナのインターフェースケーブルの交換.....	146
コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換.....	146
ベースユニットのインターフェースケーブルの交換.....	146
スキャナバッテリーの交換.....	146
スキャナのトラブルシューティング.....	147
コードレスシステムのトラブルシューティング.....	147
ベースユニットのトラブルシューティング.....	147
コードレススキャナのトラブルシューティング.....	148
カスタマーサポート.....	149
テクニカルサポート.....	149
製品のサービスと修理.....	149
条件付き保証.....	149
付録チャート.....	151
シンボルチャート.....	151
リニアシンボル.....	151
2次元シンボル.....	152
郵便シンボル.....	152
ASCII変換チャート（コードページ1252）.....	153
下位ASCIIリファレンステーブル.....	154
ISO 2022/ISO 646キャラクタ変換.....	156
キーボードキーマップ.....	158
サンプルシンボル.....	159
プログラミングチャート.....	161

はじめに

本マニュアルについて

本書では、Voyager™ 1470gコード付きエリアイメージングスキャナとVoyager1472gコードレスエリアイメージングスキャナの使用方法和設定の手順について説明しています。また、製品の仕様、外形寸法、保証内容、およびカスタマーサポートに関する情報も含まれています。

注意：ご利用のVoyager147xgモデルに合わせて本書から選択してください。PDFおよび2次元シンボルは147xg2Dモデルでのみ読取可能です。147xg1Dでは読み取れません。

ハネウェル社のバーコードスキャナは、工場出荷時に一般的な端末および通信装置用にプログラム設定されています。設定変更が必要な場合は、本書記載のバーコードを読み取ってプログラム設定してください。

アスタリスク（*）が付いているオプションは工場出荷時の設定を示しています。

製品の開梱

梱包箱を開封後、以下の手順に従ってください。

- 配送中の損傷がないか確認してください。損傷があった場合は、すぐに配送した運送会社に連絡してください。
- 箱の中身に間違いがないか確認してください。
- 返却もしくは保管用に、梱包箱はそのまま保管してください。

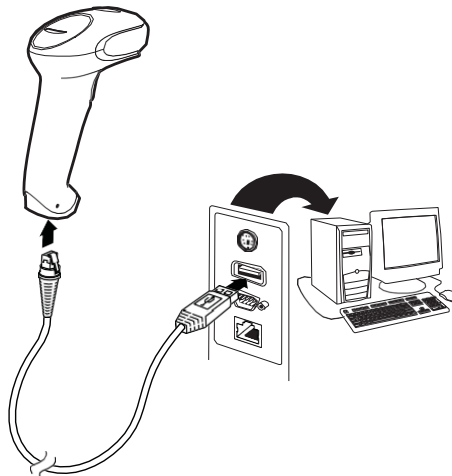
接続

USBでの接続

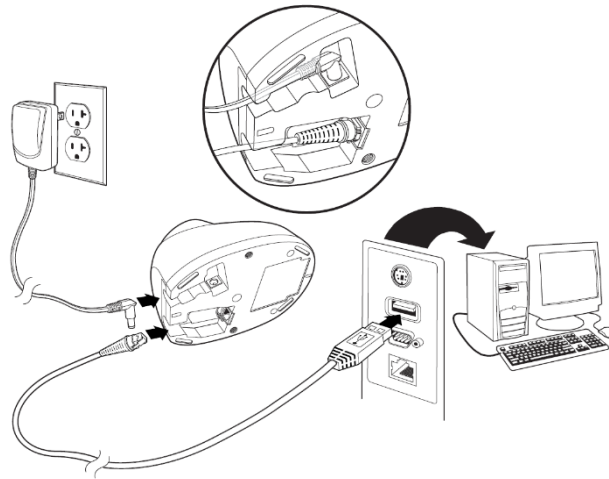
スキャナもしくはベースをホストデバイスのUSBポートに接続します。

1. まず、適切なインターフェースケーブルとスキャナを接続し、次にホストデバイスと接続します。

Voyager1470gコード付きスキャナのUSB接続



CCB01-010BT-V1NベースのUSB接続



注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

2. CCB01-010BT-V1Nベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上に乗すぐ置かれているか確認します。
3. スキャナからピーツという起動音がします。
4. 本書に記載の[サンプルシンボル](#)からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。

この機器はPCのUSBキーボード用に初期設定されています。その他のUSB端末との接続については、[パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード](#)のページを参照してください。

その他のUSBのプログラム設定と技術情報については、ウェブサイトwww.honeywellaidc.comの「USB Application Note」(USBアプリケーションノート)をご参照ください。

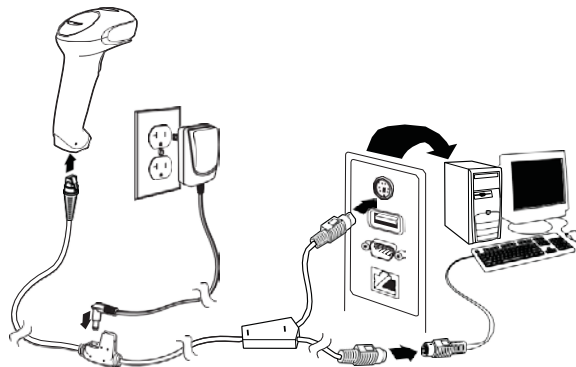
キーボードウェッジ接続

スキャナまたはコードレスベースは、キーボードとPC間をキーボードウェッジとして接続できます。キーボード入力と同様のデータ出力を提供します。

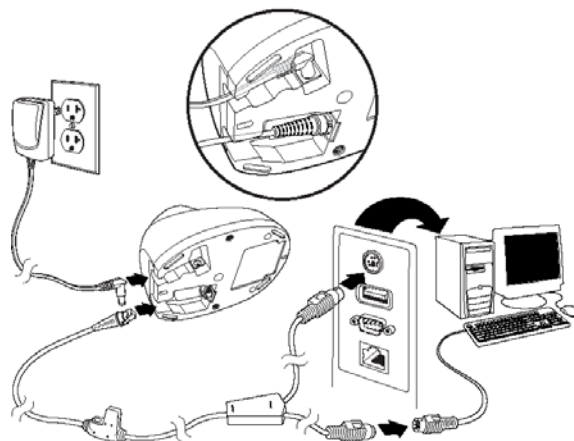
以下は、キーボードウェッジ接続の一例です。

1. ホストデバイスの電源をオフにし、裏側のキーボードケーブル接続をはずします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナおよびホストデバイスに接続します。

Voyager1470gコード付きスキャナのキーボードウェッジ接続



CCB01-010BT-V1Nベースのキーボードウェッジ接続



注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

3. CCB01-010BT-V1Nベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上に乗っすぐ置かれているか確認します。
4. 端末/コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという起動音がします。
5. 本書の裏表紙に記載の[サンプルシンボル](#)からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。スキャナから1回ビープ音が鳴ります。

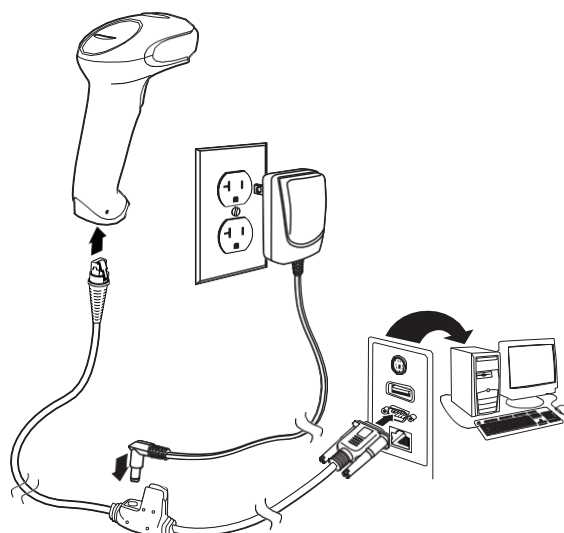
お使いのスキャナもしくはベースは、IBM PC ATでのUSキーボードウェッジインターフェース用に設定されています。バーコードデータにはキャリッジリターン（CR）サフィックスが追加されます。

RS232シリアルポート接続

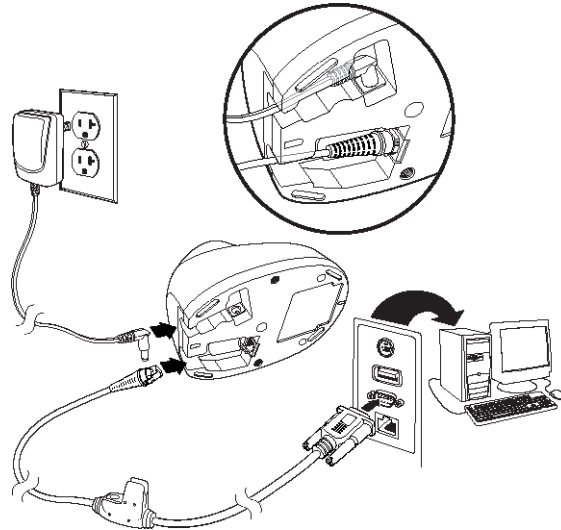
1. 端末/コンピュータの電源をオフにします。
2. 適切なインターフェースケーブルをスキャナに接続します。

注意：スキャナもしくはコードレスベースが正常に動作するようにお使いのホストデバイスに適したケーブルをご用意ください。

Voyager1470gコード付きスキャナのRS232シリアルポート接続



CCB01-010BT-V1NベースRS232シリアルポート接続



注意：必要な場合、電源を別途購入してください。

3. CCB01-010BT-V1Nベースに接続する場合、ケーブルがベースの底部にある配線部に固定され、コードレスベースが水平な台の上にならずに置かれているか確認します。
4. シリアルコネクタをコンピュータのシリアルポートに差し込みます。2本のネジを締めてコネクタをポートに固定します。
5. スキャナもしくはコードレスベースの接続が完了したら、コンピュータの電源を入れます。

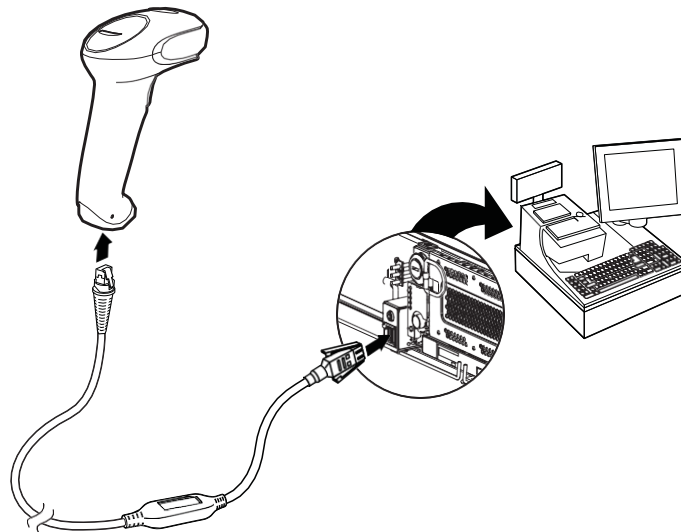
このインターフェースはボーレート115,200、8データバイト、パリティなし、1ストップビットに設定されています。

RS485接続

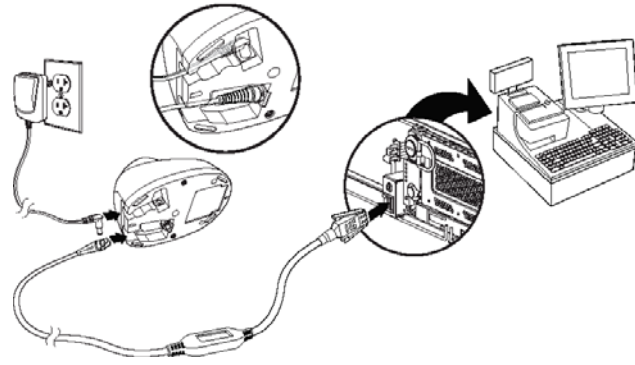
スキャナまたはコードレスベースをIBM POS端末と接続します。

1. まず、適切なインターフェースケーブルをスキャナ/コードレスベースに接続した後、ホストデバイスに接続します。

Voyager1470gコード付きスキャナのRS485接続



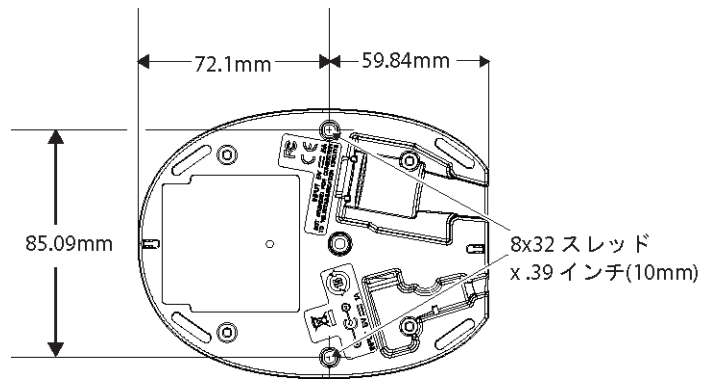
CCB01-010BT-V1NベースのRS485接続



2. 端末/コンピュータの電源をオンにします。スキャナからピーツという起動音がします。
3. 本書の裏表紙に記載の**サンプルシンボル**からバーコードを読み取り、スキャナまたはコードレスベースの動作を確認してください。スキャナから1回ピーブ音が鳴ります。

詳しいRS485の設定については、[RS485](#)ページを参照してください。

CCB01-010BT-V1Nチャージベースの設置



読み取り方法

スキャナにはスキャナの横方向の視界に相当する明るい赤のエイミングドットを投射するビューファインダがあります。エイミングドットは、バーコードの中央に合わせてください。ただし、読み取りやすくするためにどの方向にしてもかまいません。

Linear barcode

2D Matrix symbol



エイミングドットは、スキャナがバーコードに近づくと小さくなり、遠ざかると大きくなります。バーまたはエレメント（ミルサイズ/分解能）が小さいシンボルは、スキャナの近くで読み取り、バーまたはエレメント（ミルサイズ/分解能）が大きなシンボルは離して読み取ってください。（ページ上またはオブジェクト上の）1つまたは複数のシンボルを読み取るには、スキャナを目標から適切な距離に保ち、トリガーを引いてエイミングドットをシンボルの中心に合わせます。読み取るバーコードの反射率が高い場合（ラミネートされている場合など）、不要な反射を防ぐためにバーコードを15度から18度傾ける必要があります。

メニューバーコードセキュリティ設定

ハネウェル社のスキャナ製品はメニューバーコードを読み取るか、シリアルコマンドをスキャナに送るよう設計されています。メニューバーコード読み取りを規制したい場合は、メニューバーコードのセキュリティ設定を利用可能です。詳しくは、お近くのテクニカルサポートオフィス（[カスタマーサポート](#) ページ参照）にご連絡ください。

カスタムデフォルトの設定

お客様独自のカスタムデフォルトのメニューコマンドを作成することができます。そのためには、以下の保存したいメニューコマンドもしくはシーケンスの前に**カスタムデフォルトの設定**バーコードを読み取ってください。コマンドで[プログラミングチャート](#)から数字コードを読み取る必要がある場合は、そのあとに保存のバーコードを読み取ればシーケンス全体がカスタムデフォルトとして保存されます。カスタムデフォルト用に保存するすべてのコマンドを入力したら、**カスタムデフォルトの保存**バーコードをスキャンします。



注意：コードレスシステムを使用する場合、カスタムデフォルト設定はすべてのワークグループに適用されます。コードレスシステムを使用している場合、**カスタムデフォルトの保存**バーコードをスキャンすることでスキャナとベースの両方、またはアクセスポイントにリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。リンクを再確立するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。詳細は[コードレスシステムの操作](#)を参照してください。

複数のカスタムデフォルトがあり、そのうち1つの設定を変えたい場合は、古い設定を上書きするだけです。例えば、ブザーの音量をカスタムデフォルトでは「低」に設定していて、「高」に変更しようとする場合、**カスタムデフォルトの設定**バーコードを読み取り、それからブザー音量大バーコードを読み取った後に**カスタムデフォルトの保存**を読み取るだけです。他のカスタムデフォルトは残りますが、ブザー音量の設定は更新されます。

カスタムデフォルトの再設定

ご使用のスキャナでカスタムデフォルト設定を復元したい場合、以下の**カスタムデフォルトの起動**バーコードを読み取ってください。これは多くのユーザーに推奨するデフォルトバーコードです。スキャナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



注意：コードレスシステムをご使用の場合、このバーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。リンクを再確立するには、セットアップコードが入力される前にスキャナをベースに置かれなければなりません。コードを入力する前にリンクを再確立するために、スキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。詳細は、[コードレスシステムの操作](#)を参照してください。

インターフェースの設定

はじめに

この章では、目的のインターフェースに合わせてシステムを設定する方法について説明します。

インターフェースのプログラム設定 - プラグ&プレイ

プラグ&プレイのバーコードで、一般的に使用されているインターフェース用にスキャナを簡単に設定することができます。

注意：コードの1つを読み取った後、ホスト端末インターフェースを有効にするために再起動する必要があります。

キーボードウェッジ

ご使用のシステムをIBM PC AT互換機やUSキーボードと互換性のあるキーボードウェッジインターフェースで設定される場合は、以下のバーコードを読み取ってください。キーボードウェッジは初期設定のインターフェースです。

注意：以下のバーコードを読み取ると、キャリッジリターン (CR) サフィックスも有効になります。



PAP_AT.

IBM PC AT互換機、CRサフィックスつき

ノート型PCとの直接接続

ほとんどのノート型PCの場合、ノート型PCとの直接接続のバーコードを読み取ることで、内蔵キーボードとの同時操作が可能になります。以下のノート型PCとの直接接続バーコードもまたキャリッジリターン (CR) サフィックスの設定を行い、外付けキーボードの使用 (20ページ) を有効にします。



PAPLTD.

ノート型PCとの直接接続、CRサフィックスつき

RS232シリアルポート

RS232インターフェースバーコードはパソコンもしくは端末のシリアルポートとの接続に用います。以下のRS232インターフェースバーコードもキャリッジリターン (CR) やラインフィード (LF) サフィックス、ならびに以下で示されるようなボーレートやデータフォーマット設定を行います。またトリガーモードもマニュアルに変換します。

オプション	設定
ボーレート	115,200bps
データフォーマット	8データビット、パリティビットなし、1ストップビット



PAP232.

RS232インターフェース

RS485

IBM POSの端末インターフェースへスキャナを接続する場合は、以下のいずれかの設定バーコードを読み取ってください。

注意：これらのバーコードの1つを読み取った後は、必ずキャッシュレジスタを再起動してください。



PAPP5B.

IBMポート5Bインターフェース



PAPP17.

IBMポート17インターフェース



PAP9B1.

IBMポート9B HHBCR-1インターフェース



PAP9B2.

IBMポート9B HHBCR-2インターフェース

前述の各バーコードは以下のそれぞれのシンボルへのサフィックスを設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code128 *	00 0A 0B
UPC E	0A	Code128 **	00 18 0B
		MaxiCode	00 2F 0B

*サフィックスはIBM4683ポート5B、IBM4683ポート9B、HHBCR-1、ならびにIBM4683ポート17インターフェースでCode128用に設定されています。

**サフィックスはIBM4683ポートHHBCR-2インターフェースでCode128用に設定されています。

RS485パケットモード

以下を選択すると、IBM POS 端末上で大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割することができます。大きいバーコードデータを小さいパケットへと分割するには、以下の**パケットモード有効**バーコードを読み取ってください。大きいバーコードデータを1つのかたまりとしてホストへ送りたい場合は、**パケットモード無効**バーコードを読み取ってください。初期設定はパケットモード無効です。



RTLPDF0.

パケットモード無効



RTLPDF1.

パケットモード有効

RS485パケットの長さ

パケットモードを使用している場合は、ホストに送信されるデータ「パケット」のサイズを指定できます。パケット長バーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)からパケットサイズ（20～256）をスキャンして、保存します。初期設定は40です。



RTLMPS.

パケット長

USB IBM SurePos

以下の「プラグ&プレイ」バーコードのうち1つを読み取り、IBM SurePos（USBハンドヘルドスキャナ）もしくはIBM SurePos（USB卓上スキャナ）インターフェースの設定を行ってください。

注意：これらのバーコードの1つを読み取った後は、必ずキャッシュレジスタを再起動してください。



上記の各バーコードでは、シンボルごとに以下のサフィックスもプログラム設定します。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
EAN 8	0C	Code39	00 0A 0B
EAN 13	16	Interleaved 2 of 5	00 0D 0B
UPC A	0D	Code128	00 18 0B
UPC E	0A	Code39	00 0A 0B

パソコンもしくはマッキントッシュのUSBキーボード

以下のコードのうち1つを読み取り、パソコンのUSBキーボードもしくはマッキントッシュのUSBキーボードの設定を行ってください。これらのコードを読み取ると、CRおよびLFも追加されます。ただし、TRMUSB134 で設定する場合は、CRLFは付きません。



USB HID

以下のコードのうち1つを読み取り、USB HIDバーコードスキャナのスクャナ設定を行ってください。



USBシリアル

以下のコードを読み取り、標準のRS232ベースのCOMポートにエミュレートするようスキャナを設定してください。お客様がMicrosoft® Windows®のパソコンをお使いの場合は当社ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) からドライバをダウンロードしていただく必要がございます。ドライバは次に空いているCOMポートに接続します。Apple®マッキントッシュコンピュータの場合は、スキャナをUSB CDCクラスデバイスとして認識し、自動でクラスドライバを使用します。



TRMUSB130.

USBシリアル

注意：他の設定（ボーレートなど）は不要です。

CTS/RTSエミュレーション



USBCTS1.

CTS/RTSエミュレーション有効



USBCTS0.

*CTS/RTSエミュレーション無効

ACK/NAKモード



USBACK1.

ACK/NAKモード有効



USBACK0.

*ACK/NAKモード無効

USB用Remote MasterMind™

USBインターフェースを使用する場合、Remote MasterMindスキャナ管理ソフトウェア（ReM）と通信するようにスキャナを設定することができます。ReM有効バーコードをスキャンして、ReMと通信します。この機能を無効にするには、ReM無効をスキャンします。初期設定はReM有効です。

注意：Remote MasterMind設定はVoyager1470gのみに対応しています。Voyager1472gには対応していません。



REMIFC0.

ReM無効



REMIFC1.

*ReM有効

Verifone® Ruby端末の初期設定

Verifone Ruby端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを1200bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。また、ラインフィード（LF）サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPRBY.
Verifone Ruby設定

Gilbarco® 端末の初期設定

Gilbarco端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを2400bpsに、データフォーマットを7データビット、偶数パリティビット、2ストップビットにします。また、キャリッジリターン（CR）サフィックスならびに各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	プレフィックス
UPC-A	A
UPC-E	A
EAN-8	FF
EAN-13	F



PAPGLB.
Gilbarco設定

Honeywell2面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Honeywell2面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを38400bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。



PAPBIO.
Honeywell2面式カウンタースキャナ設定

Datalogic™ Magellan®2面式カウンタースキャナの補助ポート設定

Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナの補助ポート構成の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットにします。



PAPMAG.
Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナ設定

NCR2面式カウンタースキャナの補助ポート設定

次のプラグアンドプレイコードをスキャンして、NCR2面式カウンタースキャナの補助ポート設定用にスキャナを設定してください。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定を行います。

シンボル	サフィックス	シンボル	サフィックス
UPC-A	A	Interleaved 2 of 5	b
UPC-E	E0	Code128	f
		GS1 DataBar Omnidirectional	r
EAN-8	FF	GS1 DataBar 拡張型	r
EAN-13	F	Codabar	N

Code39	a	Code32 Pharmaceutical	a
		(PARAF)	



PAPNCR.

NCR2面式カウンタースキャナの設定

Wincor Nixdorf 端末の初期設定

Wincor Nixdorf 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットに設定します。



PAPWNX.

Wincor Nixdorf 端末設定

Wincor Nixdorf Beetle™ 端末の初期設定

Wincor Nixdorf Beetle 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを115200bps、データフォーマットを8データビット、パリティビット無し、1ストップビットに設定します。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定も行います。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
Aztec Code	V	Interleaved 2 of 5	I
Codabar	N	MaxiCode	T
Code93	L	MicroPDF417	S
Code128	K	PDF417	Q
Data Matrix	R	QR Code	U
EAN-8	B	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-13	A	UPC-A	A0
GS1 DataBar	E	UPC-E	C
GS1-128	P	その他すべてのバーコード	M



PAPBTL.

Wincor Nixdorf Beetle 設定

Wincor Nixdorf RS232 モードA

Wincor Nixdorf RS232モードA 端末の場合は、以下のプラグ&プレイコードを読み取ってスキャナを設定してください。このバーコードはボーレートを9600bps、データフォーマットを8データビット、パリティビットなし、1ストップビットに設定します。各シンボル用に以下のようなプレフィックス設定も行います。

シンボル	プレフィックス	シンボル	プレフィックス
Code128	K	EAN-13	A
Code93	L	GS1-128	K
Codabar	N	Interleaved 2 of 5	I
UPC-A	A0	Plessey	O
UPC-E	C	Straight 2 of 5 IATA	H
EAN-8	B	GS1 DataBar	E
その他すべてのバーコード	M		



PAPWMA.

Wincor Nixdorf RS232モードA 設定

国別キーボード

インターフェースがUSBキーボードまたはキーボードウェッジの場合、キーボードはUSキーボードに初期設定されています。以下から該当する国コードを読み取り、自国もしくは自言語用のキーボードを設定します。原則として、以下の記号をサポートしますが、アメリカ以外の国では特別な留意が必要です。初期設定では「# \$ @ [\] ^ ' { | } ~」には国別文字置換が使用されます。各国のキャラクタ変換を見るには「[ISO 2022/ISO 646 キャラクタ変換](#)」ページを参照してください。



KBDCTY0.

*アメリカ



KBDCTY35.

アルバニア



KBDCTY81.

アゼリー (キリル文字)



KBDCTY80.

アゼリー (ラテン)



KBDCTY82.

ベラルーシ



KBDCTY1.

ベルギー



KBDCTY33.

ボスニア



KBDCTY16.

ブラジル



KBDCTY59.

ブラジル (MS)



KBDCTY52.

ブルガリア (キリル文字)

国別キーボード (つづき)



KBDCTY53.
ブルガリア (ラテン語)



KBDCTY18.
カナダ (フランス語)



KBDCTY32.
クロアチア



KBDCTY40.
チェコ (プログラマ)



KBDCTY38.
チェコ (QWERTZ)



KBDCTY11.
オランダ



KBDCTY54.
カナダ (フランス語レガシー)



KBDCTY55.
カナダ (多言語)



KBDCTY15.
チェコ



KBDCTY39.
チェコ (QWERTY)



KBDCTY8.
デンマーク



KBDCTY41.
エストニア

国別キーボード (つづき)



KBDCTY83.
フェロー語島



KBDCTY3.
フランス



KBDCTY4.
ドイツ



KBDCTY64.
ギリシャ (220ラテン語)



KBDCTY65.
ギリシャ (319ラテン語)



KBDCTY63.
ギリシャ (ラテン)



KBDCTY2.
フィンランド



KBDCTY84.
ゲール



KBDCTY17.
ギリシャ



KBDCTY61.
ギリシャ (220)



KBDCTY62.
ギリシャ (319)



KBDCTY66.
ギリシャ (MS)

国別キーボード (つづき)



KBDCTY60.
ギリシャ (ポルトニック)



KBDCTY50.
ハンガリー語 (101キー)



KBDCTY75.
アイスランド



KBDCTY56.
イタリア語 (142)



KBDCTY28.
日本語ASCII



KBDCTY79.
キルギスタン (キリル)



KBDCTY12.
ヘブライ語



KBDCTY19.
ハンガリー



KBDCTY73.
アイルランド



KBDCTY5.
イタリア



KBDCTY78.
カザフスタン



KBDCTY14.
ラテンアメリカ

国別キーボード (つづき)



KBDCTY42.
ラトビア



KBDCTY44.
リトアニア



KBDCTY34.
マケドニア



KBDCTY86.
モンゴル (キリル)



KBDCTY20.
ポーランド



KBDCTY58.
ポーランド語 (プログラマ)



KBDCTY43.
ラトビア (QWERTY)



KBDCTY45.
リトアニア (IBM)



KBDCTY74.
マルタ



KBDCTY9.
ノルウェー



KBDCTY57.
ポーランド語 (214)



KBDCTY13.
ポルトガル語

国別キーボード (つづき)



KBDCTY25.

ルーマニア



KBDCTY67.

ロシア (MS)



KBDCTY21.

SCS



KBDCTY36.

セルビア (ラテン)



KBDCTY49.

スロヴァキア (QWERTY)



KBDCTY31.

スロヴェニア



KBDCTY26.

ロシア



KBDCTY68.

ロシア (タイプライター)



KBDCTY37.

セルビア (キリル)



KBDCTY22.

スロヴァキア



KBDCTY48.

スロヴァキア (QWERTZ)



KBDCTY10.

スペイン

国別キーボード (つづき)



KBDCTY51.
スペイン語 (バリエーション)



KBDCTY29.
スイス (フランス語)



KBDCTY85.
タタール語



KBDCTY24.
トルコQ



KBDCTY7.
イギリス



KBDCTY88.
アメリカ (左手用Dvorak)



KBDCTY30.
アメリカ (インターナショナル)



KBDCTY23.
スウェーデン



KBDCTY6.
スイス (ドイツ語)



KBDCTY27.
トルコF



KBDCTY76.
ウクライナ



KBDCTY87.
アメリカ (Dvorak)



KBDCTY89.
アメリカ (右手用Dvorak)



KBDCTY77.
ウズベク語 (キリル文字)

キーボードスタイル

Caps LockやShift Lockなどのキーボードスタイルを設定します。[キーボードの変換](#)設定を行った場合は、以下のキーボードスタイル設定すべてを上書きします。初期設定はレギュラーです。

通常、Caps Lockキーがオフの場合は、レギュラーを使用します。



通常、Caps Lockキーがオンの場合は、Caps Lockを使用します。



通常、Shift Lockキーがオンの場合は、Shift Lockを使用します。（USキーボードでは通常不使用。）



Caps Lockキーのオン/オフを切り換える場合に、**自動Caps Lock**を使用します。Caps Lockのオン/オフを追跡して自動で反映します。この設定を使用できるのは、Caps Lockステータスを通知するLEDがあるシステム（ATキーボード）の場合のみです。



Caps Lockの切り換えにCaps Lockキーを使用できない国（ドイツ、フランスなど）では**Autocaps via NumLock**のバーコードを読み取ります。NumLockオプションは、通常のAutocapsと同じ働きをしますが、Caps Lockの現在の状態を確認するには、NumLockを使用します。



外付けキーボード（IBM ATまたは相当品）を使用していない場合は、**外付けキーボードのエミュレート**を読み取ります。



注意：外付けキーボードのエミュレートのバーコードを読み取った後は、コンピュータを必ず再起動してください。

キーボードの変換

アルファベットのキーボード文字を強制的にすべて大文字またはすべて小文字にできます。例えば、「abc569GK」というバーコードの場合、**すべての文字を大文字に変換**バーコードを読み取ると、「ABC569GK」と出力させることができます。また、**すべての文字を小文字に変換**バーコードを読み取ると、「abc569gk」と出力します。

この設定は[キーボードスタイル](#)の設定を上書きします。

注意：お使いのインターフェースがキーボードウェッジの場合は、自動Caps Lockをまず読み取ってください。そうでない場合は出力が期待通りにならないことがあります。

初期設定はキーボードの変換無効です。



KBDENV0.

*キーボード変換無効



KBDENV1.

すべての文字を大文字に変換



KBDENV2.

すべての文字を小文字に変換

制御文字の出力

この機能を選択すると、制御文字の代わりにテキスト文字列を送信します。例えば、キャリッジリターンの制御文字が必要な場合、ASCIIコードの0Dの代わりに、「CR」と出力表示されます。[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。00から1Fまでが変換されます（チャートの最初の列）。初期設定は無効です。

注意：Control + ASCIIモードはこのモードを上書きします。



KBDNPE1.

制御文字出力有効



KBDNPE0.

*制御文字出力無効

キーボード設定

ここでは、CTRL+ASCIIコードやターボモードといった特別なキーボードの機能調節を行います。

Control + ASCIIモード有効：00～1Fの値のASCII制御文字キーを組み合わせて送信します。

Windowsは推奨モードです。すべてのキーボードの国別コードがサポートされています。DOSモードはレガシーモードであり、すべてのキーボードの国別コードに対応しているわけではありません。新規ユーザーはWindowsモードをお使いください。CTRL+ASCIIの値については、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。

WindowsモードPrefix/Suffix無効：00～1Fの値のASCII制御文字キーを組み合わせて送信しますが、プレフィックスならびにサフィックスの情報転送は一切行いません。

初期設定はControl + Xモード無効です。



KBDCAS2.

WindowsモードのControl + Xモード有効



KBDCAS0.

*Control + Xモード無効



KBDCAS1.

DOSモードのControl + Xモード有効



KBDCAS3.

WindowsモードPrefix/Suffix無効

ターボモード：端末へのキャラクタ送信を高速化します。端末でキャラクタの読み落としがある場合は使用しないでください。初期設定は無効です。



KBDTMD1.
ターボモード有効



KBDTMD0.
*ターボモード無効

数字キーパッドモード：テンキーで入力したように数字を送信します。初期設定は無効です。



KBDNPS1.
数字キーパッドモード有効



KBDNPS0.
*数字キーパッドモード無効

自動直接接続モード：IBM AT型の端末を使用し、システムでキャラクタの読み落としがある場合に使用できます。初期設定は無効です。



KBDADC1.
自動直接接続モード有効



KBDADC0.
*自動直接接続モード無効

RS232モディファイア

RS-232ボーレート

スキャナから端末に指定の速度でデータを送信します。ホスト端末は、スキャナと必ず同じボーレートに設定してください。初期設定は9,600です。



232BAD0.
300



232BAD1.
600



232BAD2.
1200



232BAD3.
2400



232BAD4.
4800



232BAD6.

19200



232BAD8.

57600



232BAD5.

*9600



232BAD7.

38400



232BAD9.

115200

RS232ワード長：データビット、ストップビット、パリティ

データビットはワード長を1文字あたり7または8データビットに設定します。アプリケーションでASCII16進数文字の0~7Fの10進数（文字、数値、句読点）のみが必要な場合は、7データビットを選択してください。フルセットのASCII文字を使用するアプリケーションでは、1文字あたり8データビットを選択します。初期設定は8です。

ストップビットは1または2に設定します。初期設定は1です。

パリティはキャラクタビットパターンが適正かどうかをチェックします。

初期設定はパリティなしです。



232WRD3.

7データビット、1ストップビット、パリティ偶数



232WRD6.

7データビット、1ストップビット、パリティ奇数



232WRD1.

7データビット、2ストップビット、パリティなし



232WRD0.

7データビット、1ストップビット、パリティなし



232WRD4.

7データビット、2ストップビット、パリティ偶数



232WRD7.

7データビット、2ストップビット、パリティ奇数



232WRD5.

8データビット、1ストップビット、パリティ偶数



232WRD2.

*8データビット、1ストップビット、パリティなし



232WRD8.

8データビット、1ストップビット、パリティ奇数

RS232 レシーバタイムアウト

スキャナはRS232レシーバタイムアウトが切れるまで、データを受信するために待機しています。マニュアルまたはシリアルトリガーでタイムアウトをリセットします。RS232レシーバがスリープ中の場合、キャラクタを送信してレシーバを起動し、タイムアウトをリセットすることができます。CTSライン上のトランザクションでも、レシーバを起動します。レシーバが完全に起動するには300ミリ秒かかります。次のバーコードを読み取って**RS232レシーバタイムアウト**を変更し、本書の[プログラミングチャート](#)から数字を読み取り、次に**保存**を読み取ります。設定範囲は0~300秒です。初期設定は0秒（タイムアウトなし=常時オン）です。



232LPT.

RS232レシーバタイムアウト

RS232ハンドシェイク

RS232ハンドシェイクとは、ホストデバイスから送信されるソフトウェアコマンドを利用して、スキャナからのデータ送信を制御するものです。RTS/CTSを無効にすると、データのフロー制御はできません。

フロー制御、タイムアウトなし：送信するデータがある場合、スキャナはRTSをアサートし、無期限にホストからCTSが送信されるまで無期限に待機します。

二方向フロー制御：スキャナはホストへの送信が可能な場合、RTSをアサートし、ホストはデバイスへの送信が可能な場合、CTSをアサートします。

タイムアウトつきフロー制御：スキャナは送信するデータがある場合、RTSをアサートし、ホストにアサートされたCTSをディレイ（遅延）分（[RS232タイムアウト](#)を参照）待ちます。もしディレイタイムが過ぎてもCTSがアサートされていない場合、デバイスが送るバッファは取り消され、読み取りを再開します。初期設定はRTS/CTS無効です。



232CTS1.

フロー制御、タイムアウトなし



232CTS2.

二方向フロー制御



232CTS3.

フロー制御、タイムアウトあり



232CTS0.

*RTS/CTS無効

RS232タイムアウト

タイムアウトつきのフロー制御を用いる場合は、ホストからのCTS待機時間の長さを設定しなければなりません。以下のバーコードを読み取り、タイムアウトの長さ（ミリ秒単位）を設定し、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取ってタイムアウト（1～5100ミリ秒）を設定し、**保存**を読み取ってください。



232DEL

フロー制御、タイムアウトなし

XON/XOFF

スキャナへデータ送信（XON/XOFF有効）や送信中止（XON/XOFF無効）を行わせる際には標準ASCII制御文字が用いられます。ホストデバイスがXOFFキャラクタ（DC3、16進数13）をスキャナに送信することで送信を一時中断します。送信を再開するには、ホストからXONキャラクタ（DC1、16進数11）を送信します。データ送信は、XOFF送信によって停止されたところから続行されます。初期設定はXON/XOFF無効です。



232XON1

XON/XOFF有効



232XON0

*XON/XOFF無効

ACK/NAK

データ送信の後、スキャナはホストからのACKキャラクタ（16進数の06）もしくはNAKキャラクタ（16進数の15）レスポンスを待ちます。ACKを受け取ると、通信は完成し、スキャナはさらなるバーコードを探します。NAKを受け取ると、最後のバーコードが送信され、スキャナはACKやNAKを再度待ち受けします。ACK/NAKプロトコルを有効にする場合は、以下の**ACK/NAK有効**バーコードを読み取ってください。ACK/NAKプロトコルをオフにする場合は**ACK/NAK無効**を読み取ります。初期設定はACK/NAK無効です。



232ACK1

ACK/NAK有効



232ACK0

*ACK/NAK無効

スキャナから2面式カウンタースキャナへの通信

以下の設定はハネウエル社製スキャナと2面式カウンタースキャナとの通信の接続に用います。

注意：2面式カウンタースキャナとの通信には、ボーレートを38400に、RS232タイムアウトを3000に設定しなければなりません。詳細はRS232ボーレートと[RS232タイムアウト](#)を参照してください。

2面式カウンタースキャナパケットモード

パケットモード有効は2面式カウンタースキャナとの互換性のために、スキャナのフォーマットを設定するときに読み取りません。初期設定はパケットモード無効です。



232PKT0

パケットモード無効



232PKT2

パケットモード有効

2面式カウンタースキャナACK/NAKモード

各パケットが送信された後、スキャナが2面式カウンタースキャナからのACKもしくはNAKを待つ場合には**2面式カウンタースキャナACK/NAK有効**を読み取ります。下記の2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウトはスキャナがレスポンスに対しどの程度待つかを制御するものです。*初期設定は2面式スキャナACK/NAK無効*です。



232NAK0.

*2面式カウンタースキャナACK/NAK無効



232NAK1.

2面式カウンタースキャナACK/NAK有効

2面式カウンタースキャナACK/NAKタイムアウト

2面式カウンタースキャナからのACK/NAKレスポンスに対するタイムアウト時間（ミリ秒単位）を設定するものです。以下のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取り、タイムアウト時間（1～30,000ミリ秒）を設定した後、**保存**を読み取ります。*初期設定は5100*です。



232DLK.

ACK/NAKタイムアウト

コードレスシステムの操作

注意：本章はコードレススキャナのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんのでご注意ください。

コードレスチャージベース/アクセスポイントの仕組み

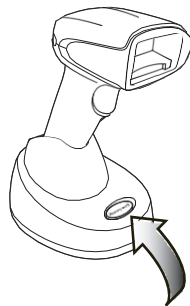
コードレスチャージベースまたはアクセスポイントはコードレススキャナとホストシステム間の通信を行います。ベースまたはアクセスポイントはインターフェースアセンブリとRF通信モジュールが含まれています。RF通信モジュールは、コードレススキャナとインターフェースアセンブリ間のデータ交換を行います。制御アセンブリは中枢インターフェースの動作を調整します。それには、ホストシステムとの間で行われるコマンドやデータの送受信、ソフトウェアの実行（パラメータのメニュー化、ビジュアルインジケータのサポート、パワーオン診断）、ホストシステムのために必要なデータ変換を含みます。

コードレスチャージベースはスキャナの充電器でもあります。

スキャナのチャージベースへの接続

ベースを接続する前に電源をオフにし、ベースが完全に接続された時点でホストデバイスを起動してください。ベースが接続され、ホストデバイスが起動してからスキャナをベースに差しこみ通信します。ベースの緑色LEDが点滅すると、スキャナのバッテリーが充電中であることを示します。

スキャナとベースが以前に通信していた場合は、反応はありません。スキャナとベースが今回初めて通信接続された場合、双方の無線が通信した時点でスキャナとベースの両方から音が鳴ります。これでこの一台のスキャナが一台のベースに接続されたこととなります。

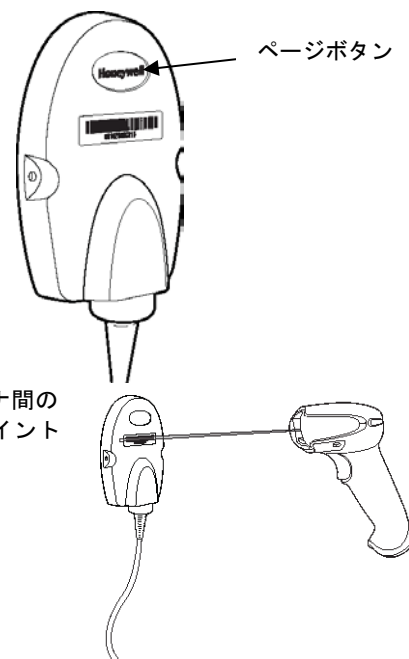


CCB01-010BT-V1Nチャージベースユニット

コードレスシステムが正しく設定されているか判断するには、本書の終わりにあるサンプルバーコードの1つを読み取ってみてください。スキャナから読み取り有効を示すピーツという音が一回発せられ、緑のLEDが点灯した場合、スキャナとベースは正常にリンクしています。エラーブザーが鳴り赤いLEDが点灯した場合、スキャナはベースに接続されていません。トラブルシューティング情報は[147](#)ページを参照してください。

スキャナとアクセスポイントの接続

コンピュータ（ノートPC/デスクトップ）を起動します。はじめにインターフェースケーブルをアクセスポイントに接続し、次にコンピュータのポートへ接続します。ホストへの接続が確立するとページボタンが点灯します。



アクセスポイントの上部にあるリンクバーコードを読み取り、アクセスポイントとスキャナ間の接続を確立します。スキャナは短いピープ音を発し、緑のLEDが点滅してアクセスポイントの接続が確認できます。アクセスポイントのページボタンは青色のままです。

リンクされたスキャナの交換

チャージベースまたはアクセスポイントにリンクされた故障または紛失したスキャナを交換する必要がある場合、新しいスキャナで以下のロックスキャナの上書きバーコードを読み取り、スキャナをベースユニットに置くか、アクセスポイントのリンクバーコードを読み取ります。ロックされたリンクは上書きされ、故障または紛失したスキャナのベースユニットまたはアクセスポイントとのリンクが削除され、新しいスキャナがリンクされます。



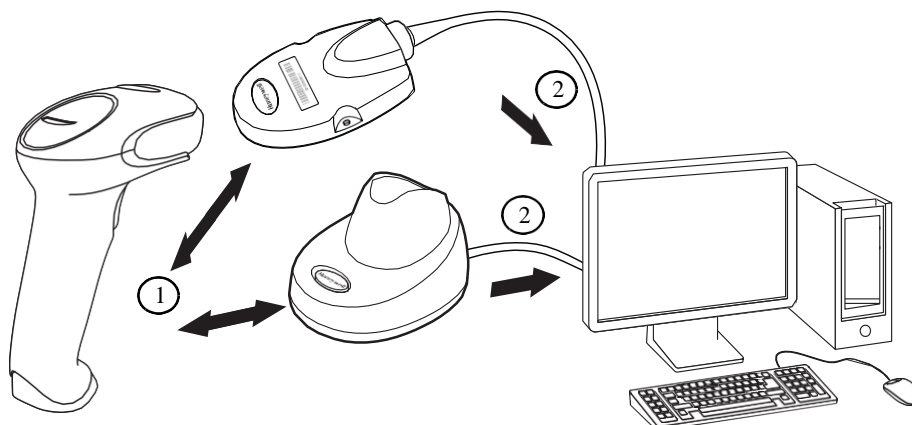
BT_RPL1.

ロックスキャナの上書き
(シングルスキャナ)

コードレスシステムとホストデバイス間の通信

バーコードが正しく読み取られてベースがデータの受信を認知すると、コードレススキャナは「読取成功」を視覚的かつ聴覚的（スキャナ上部の緑色LEDが点灯し、ピーツという音が鳴る）に表示します。バーコードが正しくスキャンされ、ベースユニットまたはアクセスポイントからデータ受信確認がされたことを示します。コードレスシステムはスキャナとベースまたはアクセスポイントの間で双方向通信するため、このようなことが可能になります。

データが読み取られると、データはベースまたはアクセスポイントを介してホストシステムへ送られます。コードレススキャナはベースまたはアクセスポイントからのデータの認知（ACK）を認識します。データがベースまたはアクセスポイントへ正しく送信されたか否か判定できない場合は、スキャナはエラーを表示します。その際には、スキャンされたデータがホストシステムによって受信されたかをチェックしなければなりません。



1. 読取が成功するとベースユニットまたはアクセスポイントからACKを受信します。
2. ベースユニットまたはアクセスポイントがホストシステムヘデータを送信します。

スキャナとベースユニットまたはアクセスポイントのプログラム

システムとしてスキャナとベースまたはアクセスポイントと一緒に使用する場合、メニューパラメータと設定がチャージベースまたはアクセスポイントに保存されます。それゆえ、メニュー設定をプログラムする場合、スキャナはチャージベースまたはアクセスポイントにリンクしている必要があります。

注意：スキャナがチャージベースまたはアクセスポイントにリンクされている場合のみ適用されます。スキャナがノンベースモードの場合、設定はスキャナに保存されます。

RF（無線周波数）モジュールの操作

コードレスシステムは二方向Bluetooth®無線を利用して、スキャナおよびベースまたはアクセスポイント間におけるデータの送受信を行ないます。ライセンス不要なISM帯域を使用することで、周波数がランダムに変化する無線信号に比較的小さいデータパケットを載せて高速なデータレートで送信しています。それゆえに、当コードレスシステムを多様なデータ収集アプリケーションに対応でき、かつノイズの多い無線周波数環境に対して強い耐性のある製品にしています。CGB01-010BT-V1N（Bluetoothクラス2）は環境によりますが、スキャナとベースまたはアクセスポイント間の通信距離はおおよそ10m程度になります。この範囲のコントロールについては[出力管理](#)の項目をご覧ください。

システム条件

スキャナをベースまたはアクセスポイントに連動させたり、スキャナを通信可能範囲外へ持ち出したり、再び範囲内へ持ち込んだり、2つのコードレスシステムの間でスキャナを交換したりする際、コードレスシステムの構成部分は、特定の相互作用を起こします。下記はコードレスシステムの動作条件について説明したものです。

通信プロセス

スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれると、スキャナのバッテリー残量がチェックされ、ソフトウェアは自動的にスキャナを検知します。選択された接続モードに合わせてスキャナをベースに接続します。

アクセスポイントへの接続に関する情報は[スキャナとアクセスポイントの接続](#)ページを参照してください。

スキャナが通信可能範囲外にあるとき

コードレススキャナはバーコードデータを送信していないときも、ベースまたはアクセスポイントと通信しています。スキャナが数秒にわたってベースまたはアクセスポイントと通信できないときは、スキャナが通信可能範囲外にあることになります。スキャナが通信可能範囲外にあるときにバーコードを読み取ると、スキャナはエラーブザーを発してベースまたはアクセスポイントと通信していないことを示します。コードレスチャージベースもアラーム音を鳴らすことができます。[通信範囲外アラーム](#)ページを参照してください。

スキャナが通信可能範囲内へ戻ったとき

スキャナ、ベースまたはアクセスポイントがリセットされたか、スキャナが通信可能範囲内に戻ったとき、スキャナは再度通信を開始します。スキャナが通信を再度確立する際、通信再確立プロセス（パラメータテーブルのアップロード）が完了すると、音が一回鳴ります。[通信範囲外アラーム](#)ページを参照してください。

バッチモード有効時での通信可能範囲への出入り

スキャナは通信可能範囲外において多くのシンボル（UPCシンボル約500個、その他のシンボルは異なる場合があります）を保存し、通信可能範囲内に戻った時点でベースへ送信することができます。

このモードでは、通信エラーブザーは聞こえませんが、無線通信が機能していない場合、トリガーを引いたときに短いブザー音が聞こえます。無線接続が確率されてデータがベースまたはアクセスポイントに送信されている間、スキャナは一連のピーブ音

を発します。

ページ（呼出し）ボタン

ベースまたはアクセスポイントのページボタンを押すと、そのベースまたはアクセスポイントに接続しているスキャナがピーツという音（短いビープ音3回と長いビープ音1回）を鳴らし始めます。呼び出しに応じて鳴っているスキャナのトリガーを引くか、ベースまたはアクセスポイントのページボタンをもう一回押すと、接続しているすべてのスキャナが鳴り止みます。ページボタンの設定に関する詳細は[ページング](#)の項を参照してください。

バッテリーについて



警告：バッテリー交換を誤ると、爆発する危険があります。ハネウェルが推奨するバッテリーのみに交換してください。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

コードレススキャナの電源は、スキャナハンドル内に組み込まれた充電式バッテリーから供給されます。出荷時には、約30%から60%程度バッテリーを充電してありますが、充電容量最大限まで完全に充電することを推奨致します。最初に使用する際、最適な性能を確保する為に最低4時間の充電を行なってください。

充電について

バッテリーは、スキャナがコードレスチャージベースに差し込まれている間に充電される設計になっています。充電状態を現すインジケータの説明については、[ベースユニット/アクセスポイントのLEDシーケンスと意味](#)をご参照ください。スキャナをベースに接続することなく充電する必要がある場合は、充電限定モードページの[充電限定モード](#)の項目をご覧ください。

適切な電源がベースに接続されていることを確認し、スキャナをベースに差し込んでください。定格出力5~5.2Vdc、1Aの Limited Power Source（LPS）カクラス2タイプの電源のみをご使用ください。

*注意：*外部電源をチャージベースの補助ポートに差し込まず、インターフェースケーブル（例えばUSBケーブル）を介してホストデバイスからベースへ電力を供給する場合、充電に使える電力が減ってしまいますので、充電時間がより長くなります。

バッテリーについての推奨事項

- バッテリーはリチウムイオン電池で、完全に充電せずに使用でき、耐用寿命に悪影響を及ぼすことなく、完全に放電せずに充電できます。この種のバッテリーについては、充電/放電調整をする必要がありません。
- ホストデバイスを使用していないときは、ベースを電源に接続しておいてください。
- 欠陥のあるバッテリーはスキャナ破損の原因になりますので、直ちに交換してください。
- バッテリーは何回も充電できますが、最終的には消耗してしまいます。十分に充電できなくなった場合、バッテリーを交換してください。
- バッテリーや充電器が正常に機能しているか判らないときには、ハネウェルが正規サービスセンターへ送って点検してください。詳細については[カスタマーサポート](#)ページを参照してください。



注意：当装置にはBAT-SCN01、定格3.7Vdc、7.4Whrのハネウェル社製リチウムイオン電池パックのみをご使用ください。ハネウェル社提供以外のバッテリーを使用して故障した場合、保証の対象外です。

リチウム電池の安全に関する注意事項

- バッテリーを燃やしたり、加熱したりしないこと。
- 火気・高温の場所を避けて保管すること。
- 金属製品とともにバッテリーを保管したり、所持したりしないこと。
- 水気を避け、バッテリーを濡らさないようにすること。
- 金属製品を使ってバッテリーの陽極と陰極を接続（ショート）しないこと。
- バッテリーに穴を開けたり、たたいたり、踏んだり、強い衝撃を与えたりしないこと。
- バッテリーを解体・改造しないこと。



注意：バッテリー交換を誤ると、爆発するおそれがあります。使用済みバッテリーは、それを廃棄する国の所轄省庁が指定したリサイクル方法に従って処分してください。

バッテリーの適切な処分



バッテリーが耐用年数の終わりに達したときは、資格を持つリサイクル業者ないし危険物取扱業者によって処分してください。バッテリーを一般廃棄物と一緒に焼却したり、処分したりしないでください。スキャナのバッテリーを弊社に返却いただくことも可能です。（送料ご負担いただきます。）使用済みバッテリーの梱包、表示、明細書作成、輸送に関するすべての国・連邦・州・自治体法規の遵守は輸送業者の責任です。リサイクル・処分に関しては、製品サービス部門にお問い合わせください。

バッテリーをご返送いただく費用が高額な場合、地元のリサイクル処理業者にて処分された方が経費を抑えられる場合もありますので、まずは御問い合わせください。

ブザーLEDのシーケンスと意味

スキャナ上部にはLEDが組み込まれており、通電・通信・電池残量を表示します。ベース上部にLEDがあり、起動・通信・充電状態を表示します。赤色LEDはエラー、緑色LEDはあらゆる種類の正常な完了を意味します。スキャナとCCB01-010BTV1Nベースユニットにも音による表示もあります。エラーブザー1回はエラー、2回ピーツはメニュー変更、1回ピーツはそれ以外のすべての正常な完了です。

下記の表にスキャナのLED点灯・ブザーによる表示とその原因をまとめてあります。

スキャナのLEDシーケンスと意味

LED表示	ブザー表示	原因
正常な操作		
赤色点灯	なし	バッテリー残量少
緑色点灯	1回ビーブ音	通信またはリンクに成功
赤色点滅	Razzまたはエラーブザー	通信失敗
メニュー操作		
緑色点灯	2回ビーブ音	メニュー変更成功
赤色点滅	Razzまたはエラーブザー	メニュー変更失敗

ベースユニット/アクセスポイントのLEDシーケンスと意味

ベースについている赤色LEDとアクセスポイントについている青いLEDが本体の状態を表し、ホストシステムとの通信状態を確認することができます。またベースユニットの緑色LEDはスキャナのバッテリー充電状況を表します。

赤色もしくは青色LED：ホストとの通信	
赤色もしくは青色LED	通信状態
オフ	USB保留
継続してオン	電源オン、システムアイドル
複数回にわたり短く点滅。無線モジュールまたはホストポートとの間のデータ通信中点滅	データ受信

緑色LED - スキャナバッテリー (ベースのみ、アクセスポイントは対象外)	
緑色LED	充電状態
オフ	バッテリーが検出されないか、充電が中止されたとき
ゆっくり点滅（1秒点灯、1秒消灯）	充電前と充電中
継続して点灯	充電完了
速く点滅（300ミリ秒点灯、300ミリ秒消灯）	充電エラー

ベースパワー通信インジケータ

ベースのパワーインジケータを表示するには、**ベースパワー通信インジケータ有効**バーコードを読み取ってください。パワーインジケータを無効にするには、**無効**バーコードを読み取ってください。**初期設定は有効**です。



*:BASRED1.

*ベースパワー通信インジケータ有効



BASREDO.

ベースパワー通信インジケータ無効

スキャナのリセット

下のバーコードを読み取ることによって、スキャナは再起動され、ベースまたはアクセスポイントと再接続します。



RESET.

スキャナのリセット

スキャナをベースに置いた状態での読み取り

注意：CCB01-010BTベースユニットのみの機能です。

スキャナをベースに置いた状態でバーコードを読み取ることができるようにしたい場合は、下記のベースに置いた状態で読み取り有効バーコードを読み取ってください。スキャナがベースに置かれていない状態でのみ読み取りを行うようにしたい場合は、ベースに置いた状態での読み取り無効を読み取ってください。スキャナをベースに置いてシャットダウンしたい場合は、ベースに置いてスキャナをシャットダウンを読み取ってください。初期設定はベースに置いた状態での読み取り有効です。



BT_SIC0.

ベースに置いた状態での読み取り無効



BT_SIC1.

*ベースに置いた状態での読み取り有効



BT_SIC2.

ベースに置いてスキャナをシャットダウン

ベースチャージモード

ベースが外部電源（補助電源ポートに接続）とホストインターフェースケーブルの両方に接続されている場合、外部電源から電源を取ります。ベースに外部電源がない場合、インターフェースケーブルから電源が供給されます。しかし、スキャナのバッテリーは補助外部電源よりホストインターフェースケーブルからのほうがゆっくり充電されます。以下を使用し、スキャナを電源またはホストインターフェースケーブルから充電するか選択できます。

ベースチャージオフが選択されると、スキャナバッテリーはベースに置かれている場合も充電されません。

外部またはインターフェースケーブル電源が選択されている場合、スキャナバッテリーはベースの外部電源から充電されます。外部電源が接続されていない場合、スキャナバッテリーはインターフェースケーブルから充電されます。

外部電源のみの場合、スキャナバッテリーは外部電源からのみ充電されます。外部電源が接続されていない場合、スキャナバッテリーは充電されません。

注意：[プレゼンテーションモード](#)でコードレスチャージベースを使用している場合、**外部電源のみ**の設定だけが利用可能です。

初期設定は、外部またはインターフェースケーブル電源です。



BASCHG0.

ベースチャージオフ



ページング（スキャナの呼び出し）

ページングモード（スキャナの呼び出し）

初期設定では、ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信を確立しているスキャナを呼び出します。ベースのページングボタンを無効にしたい場合は、下記のページングモード無効バーコードを読み取ってください。ページングモードが無効のときは、ボタンを押してもベースまたはアクセスポイントはスキャナを呼び出さなくなります。ベースの赤色LEDは点灯したままになり、ページングモードが無効であることを示します。（LEDはボタンを押すと消え、ボタンが解除されると再度点灯します）初期設定はページングモード有効です。



ページング（呼び出し）音の音程

ベースのページングボタンを押すと、そのベースと通信しているスキャナがピーツと鳴り始めます。（[ページ（呼び出し）ボタン](#)参照）下記のバーコードの1つを読み取ることによってスキャナのページング音の高さを設定することができます。初期設定は低（1000Hz）です。



エラーインジケータ

ブザー音の音程：ベースのエラー発生時

CCB01-010BT-V1Nベースをホストシステムへの通信上の問題などエラーが発生した際に特定のピッチでピーツと鳴るように設定することができます。以下のバーコードによって、エラー発生時にベースが発するエラーブザー音の音程を変更できます。初期設定は低です。





BASFQ23250.

中 (3250Hz)



BASFQ24200.

高 (4200Hz)

ブザー音の回数：ベースのエラー発生時

エラー発生時にCCB01-010BT-V1Nベースから発せられるブザー音やLEDの点滅回数を1~9回まで設定することができます。例えば、このオプションをエラーブザー音5回と設定すると、エラーに反応してエラーブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。エラーブザーの回数を変更するには、下記のバーコードを読み取ったのち、本書の[プログラミングチャート](#)から数値（1~9）バーコードを読み取り、次に**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



BASERR.

ベース：エラー発生時のブザー回数およびLED点滅

スキャナレポート

下記のバーコードを読み取ることで、接続されたスキャナについてのレポートを生成することができます。レポートには、ポート、ワークグループ、スキャナ名、アドレスが表示されます。スキャナに名前を割り当てるには[メニューコマンドシンタックス](#)ページを参照してください。



RPTSCN.

スキャナレポート

スキャナのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のスキャナのアドレスを決定することができます。



BT_LDA.

スキャナのアドレス

ベースまたはアクセスポイントのアドレス

下記のバーコードを読み取ることによって、ご使用のベースまたはアクセスポイントのアドレスを決定することができます。



BASLDA.

ベースアドレス

スキャナモード

スキャナはスキャナ1台または複数台のモードや、チャージベースやアクセスポイント以外のBluetooth対応機器とあわせて機能することができます。

充電限定モード

スキャナを充電したいが、ベースと通信させたくない場合があるかもしれません。例えば、スキャナがアクセスポイントや他のBluetooth対応機器と通信しており、スキャナを充電する必要があるが、既存の通信を維持したい場合などです。

ベースを充電限定モードに設定するには、そのベースにスキャナを1台接続しなければなりません。ベースにスキャナを接続したら、**充電限定モード**バーコードを読み取ってください。その後、そのベースに置かれたスキャナはベースと通信せずに充電できます。設定のために使用したスキャナは、ベースに接続したままとなります。そのスキャナとの通信を切断するには、[スキャナとの解除](#)を読み取ってください。



注意：充電限定モード時、スキャナは定期的に起動し、ピーツとブザーを鳴らします。この設定を変更するには、[起動ブザー](#)を参照してください。

スキャナを充電し、ベースと通信を接続したい場合は、**充電および通信モード**を使用してください。ベースが充電限定モードに設定されている場合、充電および通信モードに設定しなおすためには、まずスキャナ1台をそのベースと接続しなければなりません。ベースのバーコードを読み取って、スキャナを接続してから**充電および通信モード**を読み取ります。初期設定は充電および通信モードです。



通信モード

通信固定モードと通信オープンモードは、各々異なるアプリケーションに対応するモードです。これらモードを切り換えるには、下記の説明にある該当バーコードを読み取ってください。初期設定は通信オープンモードです。

通信固定モード：スキャナ1台の場合

通信固定モードを使うと、スキャナをベース1台と通信させている時に誤って他のスキャナをそのベースと通信を確立しないように阻止できます。他のスキャナをベースに差し込んだ場合、スキャナは充電されますが通信はできません。



異なるスキャナを使用する場合は、[スキャナとの通信解除](#)のバーコードを読み取って元のスキャナとの通信を切断します。

通信オープンモード

納品されたばかりのときや初期設定に戻された場合、スキャナはベースまたはアクセスポイントと接続していません。スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くと通信が確立されます。通信オープンモードの場合、新しいスキャナをベースに置くかアクセスポイント通信バーコードを読み取ると新しい通信を確立します。スキャナを1台ベースに置くかアクセスポイント通信バーコードをスキャンするたびにそのスキャナはベースまたはアクセスポイントに接続し、以前に接続していたスキャナとの通信は解除されます。



スキャナとの通信解除

ベースまたはアクセスポイントとスキャナが通信している場合、まずスキャナの通信を解除しなければ次の新しいスキャナと接続することができません。元のスキャナとの通信解除を行うと、ベースまたはアクセスポイントは通信を切断します。ベースまたはアクセスポイントとスキャナの通信を解除するには、下記の[スキャナとの通信解除](#)バーコードを読み取ってください。



BT_RMV.
 スキャナとの通信解除

通信固定されたスキャナの上書き

チャージベースまたはアクセスポイントにリンクされた故障または紛失したスキャナを交換する必要がある場合、新しいスキャナで以下の通信固定されたスキャナの上書きバーコードを読み取り、スキャナをベースユニットに置くか、アクセスポイントのリンクバーコードを読み取ります。ロックされたリンクが無効化され、故障または紛失したスキャナのベースユニットまたはアクセスポイントとのリンクが削除され、新しいスキャナがリンクされます。



BT_RPL1.
 通信固定されたスキャナの上書き
 (シングルスキャナ)

通信範囲外アラーム

ベースの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、ベースとスキャナの両方からアラーム音が鳴ります。アクセスポイントの通信可能範囲外にスキャナがあるとき、スキャナからアラーム音が鳴ります。そのスキャナがベースまたはアクセスポイントに近づくか、ベースまたはアクセスポイントが別のスキャナと接続するか、もしくはアラーム音継続の設定時間が経過すると、アラームは止まります。スキャナまたはベースのアラームを有効にし、アラームが鳴る時間を設定するには下記の該当するバーコードを読み取り、その後、裏表紙の内側にある[プログラミングチャート](#)から数値を読み取り、タイムアウト時間（0～3000秒の間）を設定し、保存を読み取ります。初期設定は0秒（アラームなし）です。



BASORD.
 ベースアラームの鳴動時間

注意：アクセスポイントにはベースアラームがありません。



BT_ORD.
 スキャナアラームの鳴動時間

注意：バーコード読み取り時に通信範囲外にいる場合、アラームを設定していなくても、エラーブザーが鳴ります。ベース、アクセスポイントまたはホストヘータを送信することができない場合でも、同じくエラーブザーが鳴るようになっています。

アラーム音の種類

下記から該当するバーコードを読み取り、裏表紙の内側にある[プログラミングチャート](#)から数値（0～7）のバーコードと保存を読み取ることで、スキャナやCCB01-010BT-V1Nベースのアラーム音の種類を変更することができます。初期設定は0です。

アラーム音の種類：

設定	音
0	3回長くピーツという音、音程 - 中
1	3回長くピーツという音、音程 - 高
2	4回短くピーツという音、音程 - 中
3	4回短くピーツという音、音程 - 高
4	1回鳥のさえずりのような音、音程 - 中
5	鳥のさえずりのような音が 2回 + 1回、音程 - 中
6	1回鳥のさえずりのような音、音程 - 高
7	鳥のさえずりのような音が 2回 + 1回、音程 - 高



BASORW.
 ベースアラームの種類



BT_ORW.
スキャナアラームの種類

スキャナパワータイムアウトタイマー

注意：スキャナパワータイムアウトタイマーは、コードレスシステムのみ適用されます。有線スキャナには適用できませんので、ご注意ください。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。

指定時間内に動作がない場合、スキャナは低電力モードに入ります。適切なスキャナパワータイムアウトバーコードを読み取って、タイムアウトの長さを秒単位で変更してください。

注意：タイムアウトの長さを「0」にすると、タイムアウトがない状態になります。

タイムアウト時間内にスキャナのトリガーを引かなかった場合、スキャナはパワーダウンモードに入ります。トリガーが有効・無効に関わらず、タイマーはリセットされます。スキャナがベースユニットに置かれていて、かつバッテリーが充電中の場合は、パワーダウンモードにはなりません。初期設定は3,600秒です。



BT_LPT0.
0秒



BT_LPT200.
200秒



BT_LPT400.
400秒



BT_LPT900.
900秒



BT_LPT3600.
*3600秒

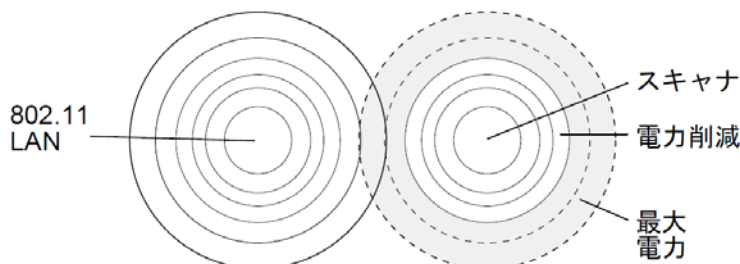


BT_LPT7200.
7200秒

注意：スキャナがパワーダウンモードに入っている時にトリガーを引くと、電力が戻ります。起動ブザーが鳴り、無線通信に入るまで数秒の遅れが発生します。その後、スキャナを使用できます。

出力管理

ネットワーク性能に問題があり、スキャナが他の装置と混線していると思われる場合は、スキャナの出力を下げるができます。これにより下記の図に示されるとおり、スキャナまたはアクセスポイントとベース間の通信可能範囲が狭くなります。



下記のバーコードの1つを読み込むことで、以下のいずれかの出力を選択して設定することができます。フルパワー（100%）、出力-中（35%）、出力-中低（5%）、出力-低（1%）初期設定はフルパワーです。



BT_TXP100.
*フルパワー



BT_TXP35.
出力-中



BT_TXP5.
出力-中低



BT_TXP1.
出力-低

バッチモード

注意：バッチモードはハネウェルチャージ通信ベース（CCB）およびハネウェルアクセスポイント（AP）のみサポートしています。

バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの通信範囲外にあるとき、または棚卸をするときのバーコードデータ保存に使用します。スキャナが通信範囲内に戻ったとき、あるいは記録が手作業で送信されたとき、データはベースまたはアクセスポイントへ送信されます。

注意：1台のベースまたはアクセスポイントに対して複数のスキャナを使用する際、バッチモードには制限があります。マルチリンクモードを使用すれば、最大3台のスキャナを1台のベースまたはアクセスポイントに接続することが可能です。ただし、スキャナが通信範囲エリアを常に出入りしている場合、蓄積されたデータ、もしくはバッチ処理された読み取りデータが失われる可能性があります。

自動バッチモードは、スキャナがベースまたはアクセスポイントの通信範囲外にあるとき、バーコードデータを保存します。スキャナが通信範囲内に戻ると、データはベースへ自動的に送信されます。スキャナのバッファスペースがいっぱいになると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、スキャナをベースまたはアクセスポイントの通信範囲内に戻し、データが送信できるようにする必要があります。

インベントリバッチモードは、ベースまたはアクセスポイントの通信範囲内にいるかどうかに関わらず、バーコードデータを保存します。保存されたデータをベースへ送信するには、スキャナをベースに置るか、[インベントリレコードの送信](#)を読み取ります。スキャナのバッファスペースがいっぱいになると、バーコード読み取り時にエラーブザーを鳴らします。バーコードを再度読み取るには、データをベースまたはアクセスポイントへ送信しなければなりません。一旦データを送信すると、スキャナ内のデータはクリアされます。

持続バッチモードは、データがベースまたはアクセスポイントに送信してもスキャナに保持されること以外、インベントリバッチモードと同じです。複数回送信したい場合は、このモードを使用してください。スキャナのバッファをクリアするには、[すべてのコードを削除](#)のバーコードをスキャンしてください。

初期設定はバッチモード無効です。



BATENA0.
*バッチモード無効



BATENA1.
自動バッチモード



BATENA2.
インベントリバッチモード



BATENA3.
持続バッチモード

バッチモード：ブザー音

バッチモード使用時に[インベントリバッチモード](#)を読み取ると、各バーコードを読み、そして保存するたびにスキヤナがカチッと鳴るように設定できます。バッチモードブザーが有効の場合、各バーコードがホストに送信されるとクリック音が鳴ります。この音を無効にするには、バッチモードブザー無効をスキャンしてください。初期設定はバッチモードブザー有効です。



BATBEP0.

バッチモードブザー無効



BATBEP1.

バッチモードブザー有効

バッチモード：保存形式

バッチモードにおいて、スキヤナがデータを保存する際、フラッシュメモリに保存するかRAMに保存するかを選択できます。

フラッシュ保存：スキヤナが低出力になる前に、まだ送信していないデータをすべてフラッシュメモリに書き込みます。スキヤナが再起動した際もデータはまだ残っています。しかし、スキヤナのパワーダウンタイムアウトに達した場合やバッテリー残量が非常に少なくなると、未送信のデータがあってもスキヤナは低出力になります。

RAM保存：未送信データがスキヤナに入っているとき、スキヤナはパワーダウンタイムアウトに達しても低出力になりません。しかし、バッテリー切れになった場合、スキヤナは低出力になりデータは失われます。

初期設定はフラッシュメモリに保存です。



BATNVS1.

フラッシュメモリに保存



BATNVS0.

RAMメモリに保存

バッチモード：個数

バッチモードにおいて、同一のバーコードを何個も送信するのではなく、読み取った複数のバーコードを送信したいことがあるかもしれません。例えば、バッチモードの個数無効の状態ではXYZという3つのバーコードを読み取ったとすると、そのデータを送信したときには、XYZが3個表示されます。バッチモードの個数有効と[個数コード](#)を使えば代わりに「XYZ、00003」と出力することができます。

注意：出力した内容をフォーマットしたい場合、例えばバーコードデータと数量の間にCRやTabを挿入したいときは、[データフォーマット](#)ページのデータフォーマットの項を参照してください。

初期設定はバッチモードの個数無効です。



BATQTY0.

バッチモードの個数無効



BATQTY1.

バッチモードの個数有効

個数の入力

個数コードを用いれば、最後に読み取ったバーコードについて、最大9999の個数（初期設定は1）を入力できます。個数の数字

は右から左へ移動しますので、5桁目の数字が読み込まれると既に読み込んだ1桁目の数字は破棄され、2・3・4桁目の数字が左へずれて、新たな1桁を迎え入れます。

例えば、個数が1234に設定されたあとで、個数5のバーコードを読み取ると、1が脱落し、個数は2345になります。

例：最後に読み取ったアイテムに5という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. 個数5のバーコードを読み取ってください。

例：最後に読み取ったアイテムに1,500という個数を付与する場合

1. 当該アイテムのバーコードを読み取ります。
2. 個数1のバーコードを読み取ってください。
3. 個数5のバーコードを読み取ってください。
4. 個数0のバーコードを読み取ってください。
5. 個数0のバーコードを読み取ってください。

例：個数を103から10に変更する場合

間違った個数を訂正するには、個数0のバーコードを読み取り、間違った数字を置き換えます。その後、正しい数量コードを読み取ります。

1. 個数0バーコードを読み取って個数を1030に変更します。
2. 個数0バーコードを読み取って個数を0300に変更します。
3. 個数1バーコードを読み取って個数を3001に変更します。
4. 個数0バーコードを読み取って個数を0010に変更します。

初期設定は1です。

個数コード





BATNUM6.

6



BATNUM7.

7



BATNUM8.

8



BATNUM9.

9

バッチモード：出力順序

バッチモードでデータを送信する際には、データをFIFO（先入先出）で送信するか、LIFO（後入先出）で送信するかを選択してください。初期設定は先入先出です。



BATLIFO.

*バッチモード先入先出



BATLIF1.

バッチモード後入先出

レコードの合計件数

バッチモードの間に読み取ったバーコードの数量を出力したい場合は、レコードの合計件数を読み取ってください。



BATNRC.

レコードの合計件数

最後のコードを削除

バッチモードにおいて、最後に読み取ったバーコードを削除したい場合は最後のコード削除を読み取ってください。



BATUND.

最後のコード削除

すべてのコードを削除

スキャナのバッファからバッチモードで蓄積されたすべてのデータを消去したい場合は、すべてのコード削除を読み取ってください。



BATCLR.

すべてのコード削除

保存したデータをホストシステムへ送信

インベントリバッチモード ([インベントリバッチモード](#)) において、保存されたすべてのデータをホストシステムへ送信するには、下記のバーコードを読み取ってください。



バッチモード：送信ディレイ（間隔）

蓄積されたスキャンデータをホストシステムへ送信する際、送信が速すぎてアプリケーションが処理しきれないことがあります。蓄積されたスキャンデータ間にディレイ（間隔）を設定するには、下記のディレイのいずれかを読み取ってください。初期設定は無効です。

注意：ほとんどの場合、ディレイは短い（250ミリ秒）ことが理想です。しかし、より長いディレイを設定することもできます。詳細については、[テクニカルサポート](#)にご連絡ください。



複数スキャナでの操作

注意：複数スキャナ操作モードでは、1台のベースまたはアクセスポイントにスキャナを最多7台まで接続することができます。その7台のスキャナのうち、1台の通信を解除するか、通信可能範囲の外へ持ち出さなければ、8番目のスキャナを追加することはできません。

スキャナを複数スキャナ操作モードに追加するには、以下のバーコードを読み取ってください。このバーコードを読み取ると、スキャナはベースまたはアクセスポイントとの通信から解除されるため、再度接続するには、そのスキャナをベースに置るか、アクセスポイント通信バーコードをスキャンしなければなりません。



スキャナ名

ご使用の各スキャナを識別できるように、それぞれに名前をつけることができます。例えば、ベースまたはアクセスポイントから送信された画像コマンドを受信するスキャナに独自の識別名称をつけたいときなどです。

初期設定名は「ScannerName_Model_SN_XXXXXXXXXX」です。ベースに複数のスキャナが接続されており、それらすべてに同一の初期設定名が付いている場合、ベースに最初に接続されたスキャナがコマンドを受信します。同一の初期設定名が付いている一連のスキャナの名前を変更する場合は、1台を残してすべてのスキャナをベースとの通信からリンク解除してください。

名称変更操作は[スキャナ名](#)のバーコードを読み取るか、シリアルコマンド「ScannerName:BT_NAMNEWname」を送信します。（NewNameは新しいスキャナの名前）他のスキャナの名称も変更したい場合は、1台ずつ接続し、各スキャナに「ScannerName:BT_NAMname」というコマンドを繰り返します。

スキャナに順序だった番号で名称変更するには、下記のバーコードを読み取ってください。名称を変更するたびに、リセットコードを読み取り、スキャナがベースまたはアクセスポイントと再度接続するまで待ってから、次のスキャナを名称変更するためのバーコードを読み取ってください。



下記のスキャナ名バーコードを読み取り、その後スキャナ名として数字を読み取ることも可能です。例えば、通信済のスキャナを「312」と名称変更したい場合、下記のバーコードを読み取り、本書の[プログラミングチャート](#)から3、1、2のバーコードを読み取り、**保存**を読み取ってください。リセットバーコードを読み取り、スキャナがベースに再度接続されるまで待ってください。



アプリケーションワークグループ

ご使用のコードレスシステムでは、1台のベースに対し最多7台までスキャナを接続することができます。また、最高7つまでワークグループを設定できます。すべてのスキャナを同一の設定にしたい場合は、複数のワークグループを使用する必要はありません。一方、各スキャナに独特な設定（ブザー音量、プレフィックス/サフィックス、データフォーマットなど）を設定する場合は、各スキャナが独自のワークグループを持つように設定し、各スキャナを独立させることができます。例えば、小売/倉庫のアプリケーションでは、倉庫と小売店舗内でそれぞれ異なったデータをバーコードに付して使用したいことがあるかもしれません。その場合、小売店舗内のスキャナをすべて1つのワークグループに割り当て、倉庫内のスキャナをすべてもう1つのワークグループに割り当てることが可能です。これにより、小売店舗内であれ倉庫であれ、変更点は該当するワークグループ内のスキャナすべてに適用されます。ハネウエルの設定ツール、EZConfig ([120](#)ページ) では、複数のスキャナ、複数のワークグループへの設定変更が容易にできるようになっています。

スキャナは、自らが使用しているメニュー設定を保存しています。スキャナがベースまたはアクセスポイントに接続または再接続するたびにベースまたはアクセスポイントからスキャナにそのワークグループの最新設定が送信され、そして更新されます。また、スキャナはベースまたはアクセスポイントによって処理されたメニュー設定変更も受信します。スキャナがベースまたはアクセスポイントから外されて別のベースまたはアクセスポイントに差し込まれたりすると、そのスキャナに元々割り当てられていたワークグループの新しい設定で更新されます。例えば、最初にベースと接続した際はワークグループ1だったスキャナは、2台目のベースでもワークグループ1となり、関連の設定が付与されます。

アプリケーションワークグループセレクション

ここでは、下記のバーコードを読み取ることによってスキャナを特定のワークグループに割り当てることができます。その後、ご使用のアプリケーションが必要とする設定（ブザー音量、プレフィックス/サフィックス、データフォーマットなど）を設定することができます。初期設定はグループ0です。



GRPSEL0.
グループ0



GRPSEL1.
グループ1



GRPSEL2.
グループ2



GRPSEL3.
グループ3



GRPSEL4.
グループ4



GRPSEL5.
グループ5



GRPSEL6.
グループ6

初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

下記のバーコードを読み取ると、すべてのワークグループを工場出荷時設定に戻します。



PAPDFT&

工場出荷時設定にリセット：すべてのワークグループ

工場出荷時設定の詳細については、[メニューコマンド](#)ページのメニューコマンドの表を参照してください。標準製品の各コマンド初期設定は「*」で示されています。

注意：このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに置かなければなりません。詳細は、スキャナモードページの[スキャナモード](#)を参照してください。

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴り続けます。

カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ

すべてのワークグループをカスタムデフォルト設定に戻したい場合は、下記の**カスタムデフォルト設定**バーコードを読み取ってください。カスタムデフォルトがない場合は、初期設定へリセットされます。カスタムデフォルトについての詳細は、[カスタムデフォルトの設定](#)を参照してください。



カスタムデフォルト設定：すべてのワークグループ

注意：このバーコードを読み取ると、スキャナとベースの設定がリセットされ、通信が解除されます。通信を再確立するためには、スキャナをベースに置かなければなりません。詳細は、スキャナモードページの[スキャナモード](#)を参照してください。

ご使用のスキャナが複数スキャナ操作モードになっている場合は、すべてのスキャナがベースに再接続されて、設定が変更されるまで、30秒間ブザー音が鳴り続けます。

Bluetooth対応機器との併用

スキャナはチャージベースまたはアクセスポイントや他のBluetooth対応機器とも併せて使用することが可能です。他のBluetooth対応機器には、PC、ノート型PC、PDA/ハンディターミナルなどを含まれます。

Bluetooth Secure Simple Pairing (SSP)

Secure Simple Pairing (SSPモード)はPINコードを入力せずに他のBluetooth機器と簡単に安全に接続できます(以下で[Bluetooth HIDキーボード接続](#)手順で説明されています)。SSPモードはBluetoothバージョン2.1以降で利用できます。SSPモードではPINコードはペアリングに必要ありません。互換性のあるBluetoothバージョンを使用していない場合、SSPモードを無効にしてください。初期設定はBluetooth SSP有効です。



*BluetoothSSP有効



BluetoothSSP無効

Bluetooth HIDキーボード接続

お使いのスキャナは、iPadやスマートフォン、ノート型PCなどBluetooth対応機器と接続することが可能です。キーボードによるデータ入力と同じように、読み取ったデータが画面に表示されます。Bluetooth機器と通信を確立するには、以下の手順に沿ってください。

1. Bluetooth HIDキーボード接続を読み取ります。



Bluetooth HIDキーボード接続



Bluetooth HID日本語キーボード接続

2. Bluetooth対応ホストデバイスを立ち上げて、他のBluetooth機器を検索します。(ホストデバイスのユーザーズガイドを参照してください)
3. パーソナルコンピュータ、ラップトップ、またはタブレットがスキャナを見つけたら、スキャナ名を選択します。一部のパーソナルコンピュータ、ラップトップ、またはタブレットは、スキャナと自動的にペアリングします。デバイスがスキャナと自動的にペアリングする場合、ペアリングが成功したことを示すメッセージが表示されるので、次の手順に進む必要はありません。
4. パーソナルコンピュータ、ラップトップ、またはタブレットがスキャナと自動的にペアリングされない場合、PINが表示されます。このPINは60秒以内にスキャンする必要があります。下記の**Bluetooth PINコード**を素早く読み取って、下からページの番号バーコードを読み取ってください。最後に**保存**を読み取ってください。



BT_PIN.
Bluetooth PINコード



K1K
1



K3K
3



K5K
5



K7K
7



K9K
9



K0K
0



K2K
2



K4K
4



K6K
6



K8K
8



MNUSAV.
保存

これで、パーソナルコンピュータ、ラップトップ、またはタブレットがスキャナとペアリングされるはずです。スキャナのバッテリーが充電され、ペアリングが完了すると、バーコードのスキャンを開始できます。このマニュアルの裏面にある[サンプルシンプール](#)からバーコードをスキャンして、スキャナの動作を確認します。

バーチャルキーボード

スキャナがiPadやスマートフォン、ノート型PCなど接続されると、スキャナのトリガーを2回素早く引くことでバーチャルキーボード入力ができます。

Bluetooth HIDキーボード通信切断

お使いのスキャナが、[Bluetooth HIDキーボード接続](#)によってiPadやスマートフォン、ノート型PCのようなホストデバイスに直

再接続されている場合、ベースユニットに再接続するためにはBluetooth接続を一旦切断する必要があります。**Bluetooth HIDキーボード通信切断**を読み取って、ホストデバイスとスキャナ間の通信を切断してください。ベースユニットまたはアクセスポイント上の接続バーコードを読み取って、スキャナを再接続してください。



Bluetoothシリアルポート：デスクトップ型PC/ノート型PC

下記のベースなしBT接続バーコードを読み取ると、スキャナを他のBluetooth対応機器（PC/ノート型PCなど）と併せて使用できるようになります。この設定を有効にすると、スキャナはRS232Cインターフェースのスキャナと同様の動作を行い、読み取ったデータを出力する為にPC上のCOMポートを開く必要があります。

下記のバーコードを読み取った後、ご使用のBluetooth対応機器添付の取扱説明書に従い、スキャナを認識し接続してください。スキャナを持って通信可能範囲の外に出て、通信可能範囲内に戻ってきたとしてもBluetooth対応機器に接続しませんので、ご注意ください。チャージベースに再接続したい場合は、通信固定された上書きページを参照してください。

注意：スキャナをチャージベースまたはアクセスポイント以外のBluetooth対応機器と併せて使用している場合、複数のワークグループのオプションは使用できません。



PDAやモバイルデバイスとのベースなしBT接続

スキャナをPDAやハネウェルのハンディターミナルと併せて使用することもできます。下記のバーコードを読み取り、ご使用のBluetooth対応機器に添付されていた取扱説明に従って、スキャナを認識し接続してください。



スキャナのBluetooth暗証コード変更

一部の機器には、Bluetoothセキュリティ機能の一環として暗証コードが必要です。スキャナの初期設定の暗証記号は1234で、ご使用のPDAまたはPCに初めて接続する際、入力が必要かもしれません。暗証コードは1～16文字である必要があります。暗証コードを変更するには下記のバーコードを読み取り、その後本書の[プログラミングチャート](#)から該当の数値バーコードを読み取ります。**保存**を読み取って設定した内容を保存してください。



Bluetooth/ISM帯域ネットワーク干渉の最小化

この設定は、コードレスエリアイメージングシステムの再接続時の動作をカスタマイズし、利便性を確保しながら、干渉を低く抑えるための最適な妥協点を見出すのに役立ちます。

注意：ISM帯域とは、無線ネットワーク、コードレス電話、Bluetoothが使用する2.4GHzから2.48GHzの周波数帯域を指します。

自動再接続モード

自動再接続は、接続の切断が検出されたときにスキャナが自動的に再接続のプロセスを開始するか否かを制御するものです。**自動再接続有効**のバーコードを読み取ると、スキャナはユーザーの介入なしにただちに再接続のプロセスを開始します。**初期設定**

は自動再接続有効です。



BT_ACM1.

*自動再接続有効



BT_ACM0.

自動再接続無効

注意：Bluetoothのインターフェースモジュールに接続している場合には、**自動再接続無効**に設定してください。

下の表は、自動再接続が有効および無効設定時の結果です。

事象	自動再接続有効	自動再接続無効
スキャナが通信範囲外にあるとき	自動的に再接続されます。再接続を最高限度回数まで試行しても成功しない場合は、トリガーを引くか、スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くか、接続バーコードを読み取るかのいずれかによってスキャナの再接続を行ってください。 再接続試行最高限度回数 を参照	スキャナはトリガーを引くか、アクセスポイント接続バーコードを読み取ることによって再度接続されます。
(ファームウェアのアップグレードもしくは電源再起動により) ベースまたはアクセスポイントがリセットされたとき	スキャナは通信範囲外にあるかのように動作します。	ベースまたはアクセスポイントがオフの間は、再接続を試行しません。再接続を始めるためには、トリガーを引いてください。
スキャナパワータイムアウト の設定によりスキャナの電源がオフのとき参照	再接続を行うには、トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースに置くかのいずれかを行います。 (注意：スキャナは起動時に再接続しますが、起動するには上記の操作いずれかを行なう必要があります。)	
ファームウェアのアップグレードによりスキャナがリセットされたとき	自動的に再接続されます。	
バッテリー交換により、スキャナがリセットされたとき	自動的に再接続されます。	
スキャナが別のベースユニットに置かれたとき	自動的に新しいベースと接続します。	

再接続試行最高限度回数

再接続試行最高限度回数は、スキャナがベースまたはアクセスポイントとの接続を試みる回数を制御します。接続セットアッププロセスの間、スキャナはベースまたはアクセスポイントを検索し、接続するために発信を行います。発信をし続けることによって、ISM帯域の他のユーザーに影響するのを避けるため、この設定によって接続試行回数が制限されています。再接続試行最高限度回数に達すると、スキャナはベースまたはアクセスポイントへの再接続を断念します。トリガーを引くか、接続バーコードを読み込むか、スキャナをベースまたはアクセスポイントに置くかのいずれかを行うことで試行回数がリセットされ、スキャナは再度接続を試みるようになります。

再接続試行最高回数バーコードを読み取り、その後[プログラミングチャート](#)から設定試行回数（0～100）を読み取ってください。**保存**を読み取って、設定を保存します。**初期設定は0**です。



BT_MLA.

再接続試行最高限度回数

注意：自動再接続モードが有効のとき、再接続試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナは[スキャナパワータイムアウト](#)設定時間が経過するまで通信を試みます。自動再接続モードが無効のとき、再接続試行最高限度回数を0に設定すると、スキャナはトリガーが引かれたあと1回だけ再接続を試みます。

再接続タイムアウト

再接続タイムアウトは、再接続試行中のアイドル時間を制御します。ベースまたはアクセスポイントとの接続を再試行するには、一般に最大5秒ほどかかります。これはスキャナが実際にコンタクトしようと試みている時間です。再接続タイムアウトは1回接続を試み終わってから次に試み始めるまでの経過時間を秒単位で制御します。

注意：試行時の所要時間は、1台のベースユニットまたはアクセスポイントに接続されているスキャナの台数によって異なります。接続に成功したときには、さらに7秒かかることもあります。

再接続タイムアウトバーコードを読み取り、その後[プログラミングチャート](#)から設定秒数（0～100）を読み取ってください。**保存**を読み取って設定を保存します。初期設定は3秒です。



Bluetooth/ISMネットワークアクティビティの例

初期設定

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を繰り返し試みます。1回の試行にはアクティブタイム約5秒と、それに続くアイドルタイム約3秒がかかります。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

再接続試行最高限度回数15、他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信範囲外に出ると、ベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を15回試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル（ $8 \times 15 = 120$ ）すなわち、約2分後に、スキャナはベースユニットまたはアクセスポイントへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたバーコードは保存されています。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。

自動再接続モードを0に設定、再接続試行最高限度回数15、他の値は初期設定値の場合

スキャナが通信範囲外に出ても、再接続を一切試みません。トリガーを引くと、ベースユニットまたはアクセスポイントへのリンクを15回試みます。1回の試行には、アクティブタイム約5秒と、アイドルタイム約3秒がかかります。15サイクル（ $8 \times 15 = 120$ ）すなわち、約2分後に、スキャナはベースユニットまたはアクセスポイントへの接続試行を止めますが、バッチモードで保存されたバーコードは保存されています。1時間経つとスキャナの電源が切れ、バッチモードのデータは失われます。他にごのような事象によって再接続プロセスが始まるか、[自動再接続モード](#)を参照してください。

自動再接続モードを1に設定、再接続試行最高限度回数0、再接続タイムアウトを10、スキャナパワータイムアウトを1800に設定した場合

注意：[スキャナパワータイムアウトタイマー](#)ページを参照してください。

スキャナは1回の試行開始から次の試行開始まで、15秒の間隔でベースユニットまたはアクセスポイントへの接続を試みます。30分経過すると、スキャナの電源がオフになります。

ホストコマンドの認知

一部のアプリケーションでは、送信されてきたバーコードをホスト端末（ないしサーバー）が承認するか、または却下することを要求し、この処理をユーザーに知らせよう要求します。ホストACKモードでは、スキャナは各スキャン後に応答を待ちます。視覚的および聴覚的レスポンスでオペレーターはフィードバックを得られます。ホストACKを有効にすることによってスキャナはホストシステムからのコマンドに反応する状態になります。

注意：ホストACKを9600未満のボーレートで使用すると、システム性能が低下しますのでご注意ください。

ホストACKを正常に動作させるためには、下記の条件を満たす必要があります。

- コードレスシステムはホストのポートRS232（端末ID=000）もしくはUSB COMエミュレーション（端末ID=130）に設定してください。
- RTS/CTSの初期設定は無効です。ホストシステムがRTS/CTSを必要としている場合は、有効にしなければなりません。
- ホストACKを有効にしてください（[50ページ](#)）。
- 区切り文字にはカンマが必要です。
- ホスト端末のソフトウェアには、バーコードデータを解釈し、かつデータの内容によって決定を行い、スキャナへ適切なエスケープコマンドを送信する能力が必要です。

エスケープコマンドは「アプリケーションワークグループ」を介してスキャナへ送信されます。コマンドが送信されると、そ

のグループ内のスキャナすべてがコマンドに応答します。そのため、各スキャナにホストACKモードで自分専用のグループを割り当てることを推奨します。

スキャナが応答するコマンドは、[50ページ](#)にリストされています。[ESC]は16進数での1Bです。典型的なコマンドストリングはy<ESC>xで、「y」はアプリケーションワークグループ番号、「<ESC>x」はエスケープコマンド、コンマは終止符が必要です。（「y」を指定していない場合、コマンドは初期設定のアプリケーションワークグループ0に送信されます。）

例：コマンドを組み合わせて、カスタム応答シーケンスを作成することもできます。以下はコマンドストリングの一例です。

0[ESC]4,[ESC]5,[ESC]6,

上記の例では、アプリケーションワークグループにあるスキャナのピープ音が、始めは小さい音でピーッと、その後中位の音でピーッと、さらにその後大きな音でピーッと鳴ります。

例：ファイルのどのアイテムにもピープ音が必要ですが、ファイルにアイテムがない場合、エラーブザーが必要です。この場合、オンファイル製品用に[ESC]7がホストからスキャナへ送信されます。

非オンファイル製品用に[ESC]8、[ESC]8がホストからスキャナへ送信されます。

バーコードがスキャンされると、スキャナはホストACKシーケンスまたはタイムアウト（初期設定10秒）になるまでのタイムアウト期間に入ります。

ホストACKが有効なとき、システムは次のように機能します。

- スキャナはバーコードを読み、ホストシステムに送信すべく、ベースユニットまたはアクセスポイントにデータを送ります。スキャナがエスケープコマンドを受信するまで音や視覚表示は送信されません。読み取りに成功すると、スキャナの読み取り用ライトが消えます。
- 以下のいずれかになるまで、スキャナの操作は中止されます。1) ベースユニットを介して、ホストシステムからの有効なエスケープ文字を受信するか、2) スキャナがタイムアウトになる。
- 上記の1) ないし2) の条件が満たされると、スキャナは再び読み取る準備が整い、プロセスが繰り返されます。

スキャナが10秒以内に有効なエスケープコマンドを受信しなければ、タイムアウトが発生します。タイムアウトはエラーブザーで示されます。タイムアウトが発生した場合、ユーザーはホストシステムをチェックしてスキャナへの応答がなぜ受信されなかったのかを確認してください。

ホストACK



HSTACK1.

ホストACK有効



HSTACK0.

*ホストACK無効

ホストACKタイムアウト

ホストACKモード使用時、スキャナが有効なエスケープコマンドを待機する時間の長さにタイムアウトを設定する事が出来ます。以下のバーコードをスキャンして、タイムアウトの長さ（秒単位）を設定し、[プログラミングチャート](#)から数字をスキャンしてタイムアウトを設定（1~90秒）してから**保存**をスキャンします。



HSTAT0.

ホストACKタイムアウト

ホストACKのレスポンス

コマンド	動作
[ESC] a,	2回ピーッと鳴り、設定変更に成功したことを示します。
[ESC] b,	エラーブザーが鳴り、設定変更が成功しなかったことを示します。
[ESC] 1,	緑のLEDが135秒間点灯し、その後小休止します。
[ESC] 2,	緑のLEDが2秒間点灯し、その後小休止します。
[ESC] 3,	緑のLEDが5秒間点灯し、その後小休止します。
[ESC] 4,	小さい音で1回ピーッと鳴ります。
[ESC] 5,	中位の音で1回ピーッと鳴ります。
[ESC] 6,	大きい音で1回ピーッと鳴ります。

[ESC] 7,	連続音で、デコードとホストへの通信が成功したことを示します。
ESC 8, ESC J	ホストへのデコードまたは通信が失敗したことを表すエラーブザーが鳴ります。

入力・出力設定

起動ブザー

スキャナは、電源が入るとブザーが鳴るようになっています。コードレスシステムをご使用の場合は、電源を入れるとベースが鳴るようになっています。起動ブザーをお使いにならない場合は、**無効**バーコードを読み取ってください。**初期設定はスキャナ、起動ブザー有効**です。



BEPPWR0.

スキャナ、起動ブザー無効



BEPPWR1.

*スキャナ、起動ブザー有効



BASPWR0.

コードレスベース、起動ブザー無効



BASPWR1.

*コードレスベース、起動ブザー有効

BEL ブザー

ホストからのコマンドに対してブザーを鳴らしたい場合は、下の**BELブザー有効**バーコードを読み取ってください。スキャナがホストからBELキャラクタを受信するたびにブザーが鳴ります。**初期設定はBELブザー無効**です。



BELBEP0.

*BELブザー無効



BELBEP1.

BELブザー有効

トリガークリック音

トリガーを引くたびにクリック音が聞こえるようにしたい場合は、下の**トリガークリック音有効**バーコードを読み取ってください。クリック音が聞こえないようにするには、**トリガークリック音無効**コードを読み取ります。（シリアルトリガーモードもしくは自動読み取りモードには影響しません。）**初期設定はトリガークリック音無効**です。



BEPTRG0.

*トリガークリック音無効



BEPTRG1.

トリガークリック音有効

読取成功インジケータ

ブザー：読取成功時

読み取りに成功した場合のブザーを有効または無効に設定できます。この設定を無効にすると、読取成功時のインジケータの中でもブザーだけを無効にします。エラー発生時や設定変更時のブザーはすべて鳴動します。初期設定は読取成功のブザー有効です。



BEPBEP0.

読取成功のブザー無効



BEPBEP1.

*読取成功のブザー有効

ブザーの音量：読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザーの音量を変更します。初期設定は大です。



BEPLVL1.

小



BEPLVL2.

中



BEPLVL3.

*大



BEPLVL0.

なし

ブザーの音程：読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザー音の音程（周波数）を変更します。初期設定は中です。



BEPFQ11600.

低 (1600Hz)



BEPFQ12400.

*中 (2400Hz)



BEPFQ14200.

高 (4200Hz)

ブザーの音程：読取失敗時およびエラー発生時

エラー発生時にスキャナが発するエラーブザー音の音程を変更できます。初期設定は低 (Razz) です。



BEPFQ2250.

*低 (Razz) (250Hz)



BEPFQ23250.

中 (3250Hz)



BEPFQ24200.

高 (4200Hz)

ブザーの長さ : 読取成功時

読取成功時にスキャナが鳴らすブザー音の長さを変更します。初期設定は**通常**です。



BEPBIP0.

*通常



BEPBIP1.

短いピープ音

LED : 読取成功時

読取成功時に点灯するLEDを有効または無効に設定できます。初期設定は**有効**です。



BEPLED1.

*読取成功時のLED有効



BEPLED0.

読取成功時のLED無効

ブザーの回数 : 読取成功時

読取成功時のブザー回数を1~9に設定できます。読取成功時のブザー回数を設定すると、その回数が読取成功時のブザーとLEDの回数として適用されます。例えば、この設定をブザー5回に設定すると、読取成功に反応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザーとLEDの点滅は互いに同期しています。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に[プログラミングチャート](#)の数字(1~9)バーコードと**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



BEPRPT.

読取成功時ブザー/LED点滅回数

ブザーの回数 : 読み取り失敗時およびエラー発生時

読み取り失敗時およびエラー発生時にスキャナが鳴らすブザーやLEDの点滅回数を1~9に設定できます。例えば、この設定をブザー5回に設定すると、エラーに反応してブザーが5回鳴り、LEDが5回点滅します。ブザー回数を変更するときは、次のバーコードを読み取り、次に[プログラミングチャート](#)の数字(1~9)バーコードを読み取り、次に**保存**バーコードを読み取ります。初期設定は1です。



BEPERR.

エラー発生時ブザー/LED点滅回数

読取成功ディレイ

読み取り成功後、次のバーコードを読み取るまでの最短時間を設定します。初期設定は0ミリ秒（ディレイなし）です。



DLYGRD0.

*ディレイなし



DLYGRD500.

短いディレイ (500ms)



DLYGRD1000.

中位のディレイ (1,000ms)



DLYGRD1500.

長いディレイ (1,500ms)

ユーザー定義の読取成功ディレイ

読取成功ディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取ってディレイ（0～30,000ミリ秒）を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



DLYGRD.

ユーザー定義の読取成功ディレイ

マニュアルトリガーモード

マニュアルトリガーモードの場合、バーコードが読み取られるまで、もしくはトリガーを放すまで読み取りを行います。初期設定はマニュアルトリガーモード標準です。



PAPHHF.

*マニュアルトリガー標準

LED照明：マニュアルトリガーモード

LED照明の明るさを調節したい場合は、下記のいずれかのバーコードを読み取ってください。トリガーを引いた時のスキヤナのLED照明を設定することができます。初期設定は高です。

注意：LEDはカメラのフラッシュのようなものです。部屋の照明が暗い場合、スキヤナがバーコードを確認できるようLED照明もより明るくしなければなりません。



PWRNOL100.

低



PWRNOL120.

中



PWRNOL150.

*高

シリアルトリガーモード

トリガーを引くか、シリアルトリガーコマンドを用いることで、スキャナを動作させることができます。[トリガーコマンドページ](#)を参照。シリアルトリガーモードでは、バーコードを読み取るか、停止コマンドが送信されるまで読み取り動作を継続します。指定時間が過ぎた後に自動的にオフになるようにスキャナを設定することもできます（次の[読み取りタイムアウト](#)を参照）。

読み取りタイムアウト

スキャナをシリアルコマンドで動作させる場合、この設定でトリガーのタイムアウト（ミリ秒単位）を設定します。スキャナがタイムアウトになった後はトリガーを引くかシリアルトリガーコマンドを用いて動作させることができます。[読み取りタイムアウト](#)のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取って、タイムアウト時間（0～300,000ミリ秒）を設定し、次に**保存**を読み取ります。初期設定は30,000ms（ミリ秒）です。



TRGSTO.
読み取りタイムアウト

プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでは、周囲の照明を使ってバーコードを検知します。プレゼンテーションモードで動作するように設定すると、LEDはバーコードがスキャナに提示されるまで消灯されており、バーコードが提示されると、自動的に点灯して読み取ります。室内の照明が暗いと正常に機能しないことがあります。

注意：プレゼンテーションモードでコードレスチャージベースユニットをご使用の場合、ベースユニットの補助電源ポートに電源がつながれるまでは、バッテリーは充電を行いません。

以下のバーコードをスキャンして、プレゼンテーションモードに設定します。



PAPTPR.
プレゼンテーションモード

アイドル照明：プレゼンテーションモード

プレゼンテーションモードでアイドル状態にある場合、以下のバーコードの1つを読み取って、LED照明の設定を行います。初期設定は高です。

注意：アイドル照明設定の低モードを行っていて、十分な照明が周囲にない場合、バーコードの検知が上手くいかない場合があります。バーコードを読み取るためにスキャナが読み取れにくい場合、アイドル照明を明るく設定してください。



PWRIDL7.
低



PWRIDL15.
中



PWRIDL50.
高

プレゼンテーション感度

プレゼンテーション感度とは、提示されたバーコードに対するスキャナの反応時間を増減させる数値範囲です。感度を設定するには、[感度](#)バーコードを読み取り、裏表紙の内側から感度（0～20）を読み取り、次に**保存**を読み取ります。最も感度の高い設

定が0で、最も低い設定が20です。初期設定は1です。



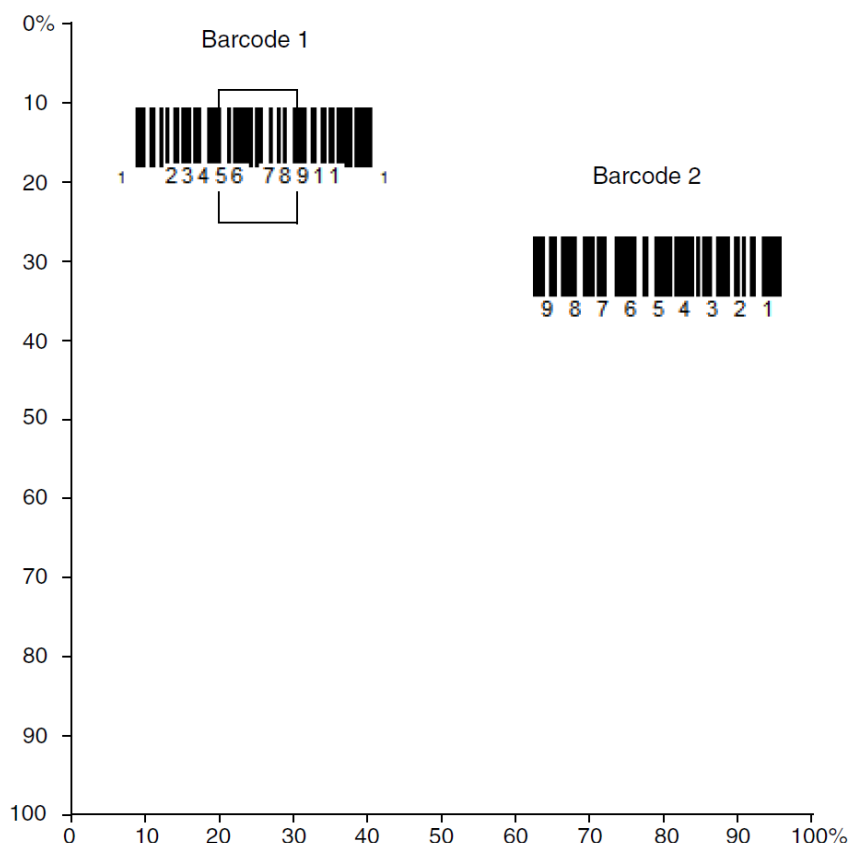
プレゼンテーションセンタリング

ここでは、スキャナがスタンドに設置された際にスキャナの視野を狭め、ユーザーが読み取りを意図したバーコードだけをスキャナに読み込ませる設定です。例えば、複数のバーコードが密接して印刷されている場合、特定のバーコードだけが読み取られるようになります。

注意：スタンドを使用せず、スキャナを手で持った状態でセンタリングを調節したい場合は、[センタリング](#)のページを参照してください。

事前に設定されたウィンドウにバーコードが触れられなかった場合、バーコードのデコードも出力を行われません。プレゼンテーションセンタリング有効を読み取って設定を有効にすると、プレゼンテーションウィンドウ上下、プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左右によってユーザーが指定したセンタリングウィンドウを通過するバーコードだけを読み取ります。

次の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは20%左、30%右、8%上、25%下に設定されています。バーコード1は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード2はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコードはある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありません。

プレゼンテーションセンタリング有効を読み取った後、以下のバーコードを読み取ってセンタリングウィンドウの上、下、左、右を変更してください。[プログラミングチャート](#)からセンタリングウィンドウを移動する割合の数字を読み取り、その後保存を読み取ります。初期設定は上および左に40%、下および右に60%です。



PDCWIN1.

プレゼンテーションセンタリング有効



PDCWIN0.

*プレゼンテーションセンタリング無効



PDCTOP.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ上



PDCBOT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ
下



PDCLFT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ左



PDCRGT.

プレゼンテーションセンタリングウィンドウ
右

スタンド使用時のセンサーモード

この機能は、スキャナがスタンドから離れた場合にマニュアルトリガーによって読み取り実行をスキャナへ指示するものです。センサーが有効なとき、スタンド使用時のスキャナはストリーミングプレゼンテーションモードをデフォルトとし、スタンド不使用時の場合は、マニュアルトリガーモードをデフォルトとします。初期設定はセンサー有効です。



TRGSSW1.

*センサー有効



TRGSSW0.

センサー無効

低品質コード

低品質1Dコード

この設定により、画像の劣化などにより品質の低いバーコードの読取機能を向上させます。低品質1D読取有効を読取ると、低品質リニアバーコードの読取りは改善しますが、スキャナのスナップ速度が低下するため高品質のバーコードを読み取る場合に比べ低下します。この設定は2Dコードの読取りには影響しません。初期設定は低品質1D読取無効です。



DECLD1.

低品質1D読取有効



DECLD0.

*低品質1D読取無効

低品質PDFコード

この設定により、複数の画像からの情報を組み合わせることにより、画像の劣化などにより品質の低いPDFコードの読取機能を向上させます。バーコードが1つの画像で完全に表示出来ない場合に有効となります。この設定は1Dコードの読取りには影響しません。初期設定は低品質PDF読取有効です。



PDFXPR10.

*低品質PDF読取有効



PDFXPR0.

低品質PDF読取無効

CodeGate®

CodeGateを有効にすると、デコードされたデータをホストシステムへ送信させるためにトリガーを使用します。スキャナは読み取りもデコードも行いますが、トリガーが引かれるまでデコードされたデータを送信しません。CodeGateが無効になっていると、バーコードのデータはデコードされて直ぐにホストシステムに送信されます。初期設定はスタンド不使用時CodeGate無効です。



AOSCGD0.

*スタンド不使用時CodeGate無効



AOSCGD1.

スタンド不使用時CodeGate有効

携帯端末読み取りモード

このモードを選択すると、スキャナを携帯端末やその他のLEDデバイスのバーコード読み取りに最適化します。ただし、このモードを有効にすると印刷されたバーコードの読取速度は少し遅くなる場合があります。



PAPHHC.

携帯端末手持ち読み取り

注意：携帯端末読み取りモードを無効にするには、[マニュアルトリガーモード](#)のバーコードを読み取ります。

ハンズフリータイムアウト

スキャンスタンド、またはプレゼンテーションモードは「ハンズフリー」モードと呼ばれます。ハンズフリーモードを使用中にトリガーを引くと、マニュアルトリガーモードに変わります。ハンズフリータイムアウトを設定することで、スキャナがマニュアルトリガーモードのままにしておく時間を設定できます。タイムアウト値に達すると（さらにトリガーが引かれなければ）元のハンズフリーモードに戻ります。

以下のハンズフリータイムアウトのバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)からタイムアウト時間（0～300,000ミリ秒）を読み取り、次に**保存**を読み取ります。初期設定は5,000ms（ミリ秒）です。



TRGPT0.

ハンズフリータイムアウト

再読取ディレイ

同一バーコードを2回目に読み取るまでの間隔を秒単位で設定します。再読取ディレイを設定することで、同一バーコードを誤って再読み取りするのを防ぎます。ディレイを長くすると、再読み取りエラーを最小限にするのに効果的です。バーコードの繰り返し読み取りが必要な場合は、ディレイを短くします。再読取ディレイが動作するのは、[プレゼンテーションモード](#)の

ときだけです。初期設定は中です。



DLYRRD500.

短 (500ms)



DLYRRD750.

*中 (750ms)



DLYRRD1000.

長 (1000ms)



DLYRRD2000.

エクストラロング (2000ms)

ユーザー定義の再読取ディレイ

再読取ディレイに独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字を読み取ってディレイ (0~30,000ミリ秒) を設定し、最後に**保存**を読み取ります。



DLYRRD.

ユーザー定義の再読取ディレイ

2D読取ディレイ

2次元シンボルは他のバーコードと比べて、読み取りに時間が掛かることがあります。2次元シンボルに再読取ディレイを設定したい場合、以下の設定バーコードを読み取ってください。**2D再読取ディレイ無効**は再読取ディレイが設定された1次元・2次元バーコードの両方に使用できます。初期設定は2D再読取ディレイ無効です。



DLY2RR0.

*2D再読取ディレイ無効



DLY2RR1000.

短 (1000ms)



DLY2RR2000.

中 (2000ms)



DLY2RR3000.

長 (3000ms)



DLY2RR4000.

エクストラロング (4000ms)

キャラクタ有効化モード

ホストからキャラクタを送信してスキャナの読取を開始します。有効キャラクタを受信すると、スキャナはキャラクタ有効化タイムアウトになるか、無効キャラクタを受信するか、またはバーコードを送信するまでスキャンし続けます。キャラクタ有効化を使用するには、以下の**有効**バーコードを読み取り、ホストから送信してスキャンを始めるキャラクタを以下のアクティベーションキャラクタを使用します。初期設定は無効です。



HSTCEN0.

*無効



HSTCEN1.

有効

キャラクタ有効化

キャラクタ有効化モードを使用している場合、読み取りに使用するキャラクタを設定します。スキャンを開始するための文字を、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#)にある16進数から選択してください。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)のASCIIキャラクタに対応した英数字を使用してください。保存を読み取終了します。



HSTACH.

キャラクタ有効化

読取成功後の終端文字のアクティベーション

スキャナがバーコードの検出・読取に成功後、スキャンするために照明をそのままにするか消灯するか設定できます。読取成功後の終端文字アクティベーションを有効にすると、読み取り成功後に照明を消灯し、読取を停止します。読取成功後の終端文字アクティベーション無効をスキャンすると、読み取り成功後も照明はそのままになります。初期設定は読取成功後の終端文字アクティベーション有効です。



HSTCGD0.

読取成功後の終端文字アクティベーション無効



HSTCGD1.

*読取成功後の終端文字アクティベーション有効

キャラクタ有効化タイムアウト

キャラクタ有効化モードを使用している場合、照明が点灯している時間の長さやバーコードのデコード試行する時間を設定できます。以下のバーコードを読み取ってタイムアウトの時間(ミリ秒)を設定し、[プログラミングチャート](#)にある数字を読み取って保存タイムアウト時間(1~65,535ミリ秒)を設定してください。初期設定は5000ms(ミリ秒)です。



HSTCDT.

キャラクタ有効化タイムアウト

キャラクタ無効化モード

スキャン開始のためのキャラクタをホストから送信する場合、スキャン停止のためのキャラクタを送ることも出来ます。キャラクタ無効化を使用するには、以下の有効バーコードを読み取り、ホストから送信してスキャンを始めるキャラクタを以下の無効化文字を使用します。初期設定は無効です。



HSTDEN0.

*無効



HSTDEN1.

有効

キャラクタ無効化

キャラクタ無効化モードを使用している場合、読み取りに使用するキャラクタを設定します。スキャンを停止するための文字を、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#)にある16進数から選択してください。以下のバーコードをスキャンし、[プログラミングチャート](#)のASCIIキャラクタに対応した英数字を使用してください。



HSTDCH.

キャラクタ無効化

照明ライト

バーコードの読み取り中に照明ライトをオンにしたい場合は、次の**ライトオン**のバーコードを読み取ります。逆にライトをオフにしたい場合は、**ライトオフ**のバーコードを読み取ります。初期設定はライトオンです。

注意：この設定は、エイマーライトには無効です。エイミングライトは、[エイマーモード](#)で設定できます。



SCNLED1.

ライトオン



SCNLED0.

ライトオフ

エイマーディレイ

ユーザーがスキャナの狙いを定めて画像を取り込むまでのディレイ（間隔）を設定します。これらのコードで、トリガーを引いてから画像を取り込むまでの時間を設定します。ディレイ時間の間はエイミングライトが照射されますが、ディレイ時間を過ぎるまでLEDは点灯しません。初期設定はエイマーディレイ無効です。



SCNDLY200.

200ミリ秒



SCNDLY400.

400ミリ秒



SCNDLY0.

無効

ユーザー定義のエイマーディレイ

ディレイ時間に独自の長さを設定したい場合は、次のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)から数字（0～4,000ミリ秒）を読み取ってタイムアウト時間を設定し、**保存**を読み取ります。



SCNDLY.

ディレイ時間

エイマーモード

この機能を使用すると、エイマーを常に有効、常に無効、またはパルスモードにすることができます。パルスモードが一番適したパフォーマンスを提供します。初期設定はパルスモードです。



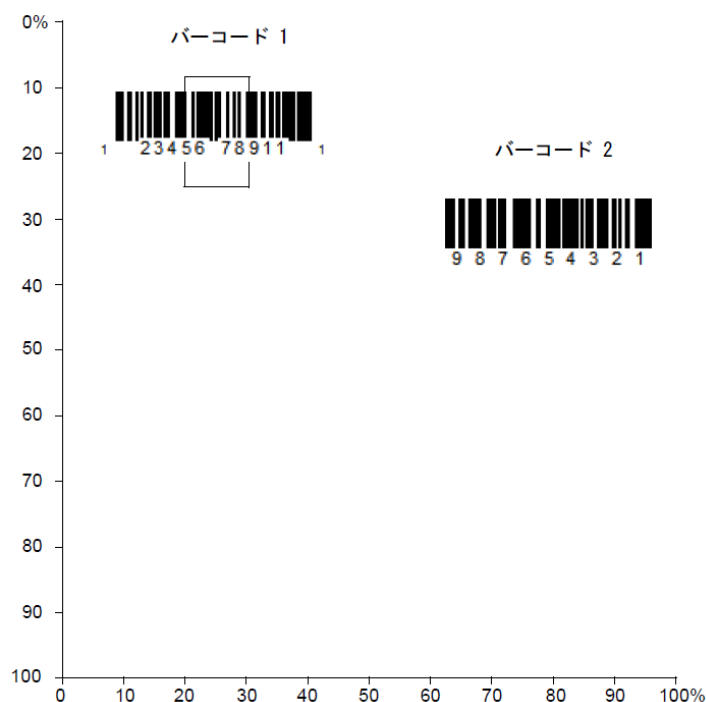
センタリング

希望のバーコードだけを確実に読み取るようにするには、センタリングを使用してスキャナの視界を狭めます。例えば、複数のバーコードが接近している場合は、センタリングで希望のバーコードだけを確実に読み取ります。

注意：スタンドを使用せず、スキャナを手で持った状態でセンタリングを調節したい場合は、[プレゼンテーションセンタリング](#)ページの「センタリング」を参照してください。

事前に設定されたウィンドウにバーコードが触れられなかった場合、バーコードのデコードも出力を行われません。プレゼンテーションセンタリング有効を読み取って設定を有効にすると、センタリングウィンドウ上、プレゼンテーションウィンドウ下、プレゼンテーションセンタリングウィンドウの左右によってユーザーが指定したセンタリングウィンドウを通ったバーコードだけを読み取ります。

次の例では、白いボックスがセンタリングウィンドウを示します。センタリングウィンドウは20%左、30%右、8%上、25%下に設定されています。バーコード1は、センタリングウィンドウを通過したので、正常に読み取られます。一方、バーコード2はセンタリングウィンドウを通過していないので、読み取られていません。



注意：バーコードはある程度センタリングウィンドウを通過しなければなりません。バーコード全体が完全にセンタリングウィンドウに入るように読み取る必要はありません。

センタリング有効を読み取り、次のバーコードをどれか読み取ってセンタリングウィンドウの上下左右いずれかを変更します。

次に[プログラミングチャート](#)から数字を用いて、センタリングウィンドウを移動するパーセンテージを読み取ります。その後**保存**を読み取ります。初期設定センタリング=上と左が40%、下と右が60%です。



No Read

No Readを有効にすると、スキャナはコードを読み取れない場合に通知します。EZConfig Tool Scan Data Windowを使用すると、コードを読み取れないNo Readの時に「NR」を表示します。無効にすると「NR」は表示されません。初期設定は無効です。



例えば「Error」や「Bad Code」など「NR」以外を表示したい場合は、[データフォーマット](#)で出力メッセージを編集できます。No Readシンボルの16進数値は9Cです。

ビデオリバーズ（反転コード）

ビデオリバーズを使用すると、反転したバーコードを読み取ることができます。反転コード無効はこのバーコードの例です。色が反転したバーコードのみを読み込む際には、反転コードのみ有効を読み取ってください。どちらのタイプのコードも読み込む場合は、反転および標準コード有効を読み取ってください。

注意：反転コードのみ有効を読み取った後は、メニューバーコードの読み取りができません。メニューバーコードを読み取るには、反転コード無効もしくは反転および標準バーコードを読み込んでください。

注意：画像は反転されません。これは、バーコードのデコード専用設定です。





VIDREV2

反転および標準コード有効

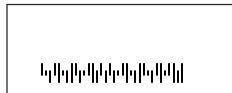


*反転バーコード無効

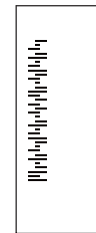
ワーキングオリエンテーション

バーコードによっては、方向に敏感なものがあります。例えば、KIXコードのように横から、または上下逆さに読み取ると誤読してしまうものもあります。このようなコードが常にスキャナの正面で読み取られない場合、この機能を使用してください。初期設定は正面です。

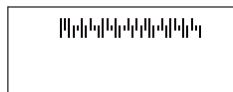
正面



垂直、上から下へ
(CW 90° 回転)



上下逆さ



垂直、下から上へ
(CW 90° 回転)



ROTATND.

*正面



ROTATN1.

垂直、下から上



ROTATN2.

上下逆さ



ROTATN3.

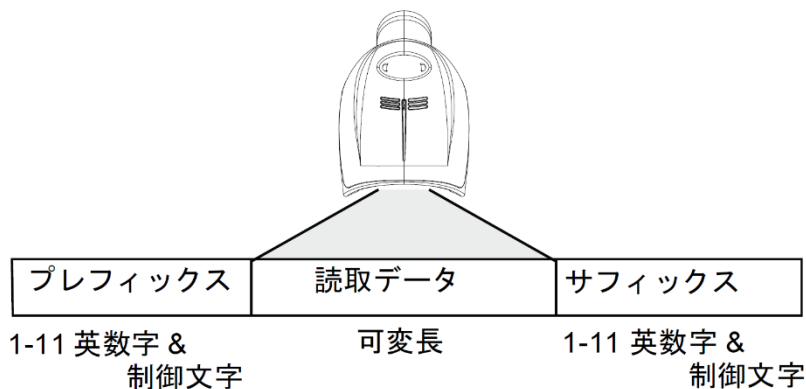
垂直、上から下

データ編集

プレフィックス/サフィックスについて

バーコードを読み取ると、追加情報がバーコードデータと一緒にホストコンピュータに送信されます。バーコードデータと追加のユーザー定義データを合わせて「メッセージストリング」と呼びます。この章の設定は、ユーザー定義データをメッセージストリングに組み込むときに使用します。

プレフィックスとサフィックスのキャラクタは、読み取ったデータの前後に送信できるデータキャラクタです。全シンボルに適用するか、特定シンボルにだけ適用するかを指定できます。次の図は、メッセージストリングの中身を示します。



補足

- 常にメッセージストリングを作る必要はありません。この章の設定を使用するのは、初期設定を変更したいときだけです。初期設定プレフィックスはなし、初期設定サフィックスはなしです。
- プレフィックスやサフィックスは、1シンボルまたは全シンボルに追加/削除できます。
- [ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページで、プレフィックスやサフィックスは、どれでもコードIDやAIM IDと一緒に追加できます。
- 1回の動作で複数のシンボルに対して複数の設定を結合できます。
- 出力で表示したい順にプレフィックスとサフィックスを入力してください。
- すべてのシンボルではなく、特定のシンボルを設定するとき、そのコードID値は、追加されたプレフィックスまたはサフィックス文字としてカウントされます。
- プレフィックス/サフィックスは、ヘッダー情報を含めて最大200文字（桁）まで追加可能です。

プレフィックスまたはサフィックスの追加手順

Step 1. プレフィックスの追加またはサフィックスの追加のバーコードを読み取ります。

Step 2. [シンボルチャート](#) からプレフィックスまたはサフィックスを適用したいシンボルの2桁の16進数値を確認します。例えば、Code128の場合、コードIDは「j」、16進数IDは「6A」です。

Step 3. [プログラミングチャート](#) から2桁の数字を読み取ります。全シンボルの場合は9、9と読み取ります。

Step 4. [ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページから、入力したいプレフィックスまたはサフィックスの16進数値を確認します。

Step 5. [プログラミングチャート](#) から、確認した2桁の16進数値を読み取ります。

Step 6. プレフィックスまたはサフィックスのキャラクタごとにStep 4とStep 5を繰り返します。

Step 7. コードIDを追加するときは、5、C、8、0を読み取ります。

AIM IDを追加するときは、5、C、8、1を読み取ります。

シリアル番号を追加するときは、5、C、8、8を読み取ります。

バックスラッシュ (\) を追加するときは、5、C、5、Cを読み取ります。

注意：Step 7でバックスラッシュ (\) を追加するときは、5Cを2回読み取ってください。1回目で先行バックスラッシュを作成し、次にバックスラッシュ自体を作成します。

Step 8. 保存を読み取って保存して終了するか、破棄を読み取って保存せずに終了します。

別のシンボルにプレフィックスまたはサフィックスを追加するときは、Step1~6を繰り返します。

例：タブサフィックスをすべてのシンボルに追加する

Step 1. サフィックス追加を読み取ります。

Step 2. [プログラミングチャート](#)すべてのシンボルに適用するために9、9を読み取ります。

Step 3. [プログラミングチャート](#)から0、9を読み取ります。これは[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページの水平タブの16進数値と一致します。

Step 4. 保存を読み取って保存して終了するか、破棄を読み取って保存せずに終了します。

1つまたはすべてのプレフィックスまたはサフィックスの削除

シンボルのプレフィックスまたはサフィックスを1つまたはすべて削除できます。1つのシンボルにプレフィックスやサフィックスを追加したことがある場合、**プレフィックス1つ削除**または**サフィックス1つ削除**で特定のキャラクタをシンボルから消去します。また、**すべてのプレフィックス削除**または**すべてのサフィックスを削除**を選択すると、すべてのプレフィックスまたはサフィックスが削除されます。

Step 1. **プレフィックス1つ削除**または**サフィックス1つ削除**のバーコードを読み取ります。

Step 2. [シンボルチャート](#)から、プレフィックスまたはサフィックスを削除したいシンボルの2桁の16進数値を確認します。

Step 3. [プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。全シンボルの場合は9、9を読み取ります。

変更内容は自動的に保存されます。

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加する

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに一度に追加したい場合は、次のバーコードを読み取ります。この操作では、まず現在のサフィックスをすべて削除し、次にすべてのシンボルに対してキャリッジリターンサフィックスを設定します。



VSUFQR.

キャリッジリターンサフィックスをすべてのシンボルに追加

プレフィックスの設定



PREBK2.

プレフィックス追加



サフィックスの設定



ファンクションコード送信

この設定を有効にすると、読み取ったデータにファンクションコードが含まれている場合、スキャナがそのファンクションコードをホストシステムに送信します。これらのファンクションコードは、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#)に記載されています。キーボードウェッジモードのとき、読み取りコードはキーコードに変換されてから送信されます。初期設定は有効です。



キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイ

データ送信が速すぎると、端末によっては情報（キャラクタ）を読み落とすことがあります。キャラクタ間、ファンクション間、およびメッセージ間ディレイはデータ送信を遅くすることで、より確実にデータを送信します。

キャラクタ間ディレイ

読み取ったデータの各キャラクタを送信する間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のキャラクタ間ディレイを設定できます。次のキャラクタ間ディレイのバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と保存のバーコードを読み取ります。





DLYCHR.
キャラクタ間ディレイ

このディレイを削除するときは、**キャラクタ間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

注意：キャラクタ間ディレイは、USBのシリアルエミュレーションではサポートされていません。

ユーザー指定のキャラクタ間ディレイ（間隔）

読み取ったデータの特定のキャラクタを送信した後に、最大5000ミリ秒（5ms単位）のキャラクタ間ディレイを設定できます。次の**ディレイ長**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）を読み取ってから**保存**のバーコードを読み取ります。b

次に、**ディレイトリガー文字**のバーコードを読み取り、[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変換](#)で、ディレイをトリガーするASCIIキャラクタの2桁の16進数値を読み取ります。



DLYCRX.
ディレイ長

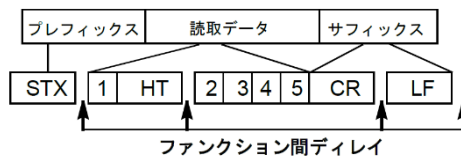


DLY_XX.
ディレイトリガー文字

このディレイを削除するときは、**ディレイ長**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

ファンクション間ディレイ（間隔）

メッセージストリングの各セグメントを送信する間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のファンクション間ディレイを設定できます。次の**ファンクション間ディレイ**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と**保存**のバーコードを読み取ります。

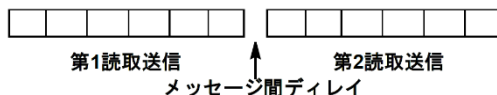


DLYFNC.
ファンクション間ディレイ

このディレイを削除するときは、**ファンクション間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

メッセージ間ディレイ（間隔）

読み取り送信の間に最大5000ミリ秒（5ms単位）のメッセージ間ディレイを設定できます。次の**メッセージ間ディレイ**のバーコードを読み取り、[プログラミングチャート](#)で5ミリ秒単位の数字（0～99）と**保存**のバーコードを読み取ります。



DLYMSG.
メッセージ間ディレイ

このディレイを削除するときは、**メッセージ間ディレイ**のバーコードを読み取り、次にディレイ数を0に設定します。[プログラムミングチャート](#)から、**保存**のバーコードを読み取ります。

データフォーマット

データフォーマットエディタについて

データフォーマットエディタを使ってスキヤナの出力を変更できます。例えば、バーコードデータを読み取りながら特定個所にキャラクタを挿入できます。ここに記載された設定は、出力を変更したい場合だけに使用してください。データフォーマットの初期設定はなしです。

通常、バーコードを読み取ると自動的にデータが出力されますが、フォーマットを使用する場合は、フォーマットプログラムの中で「送信」コマンドでデータを出力する必要があります。

スキヤナには複数のフォーマットのプログラム設定が可能です。入力された順にスタックされます。ただし、次の一覧はフォーマットが適用される順序を示しています。

1. 特定の端末ID、実際のコードID、実際の長さ
2. 特定の端末ID、実際のコードID、汎用の長さ
3. 特定の端末ID、汎用のコードID、実際の長さ
4. 特定の端末ID、汎用のコードID、汎用の長さ
5. 汎用の端末ID、実際のコードID、実際の長さ
6. 汎用の端末ID、実際のコードID、汎用の長さ
7. 汎用の端末ID、汎用のコードID、実際の長さ
8. 汎用の端末ID、汎用のコードID、汎用の長さ

データフォーマットの構成はヘッダー情報を含め、2000バイトが最大サイズです。

最初のデータフォーマットに失敗し、次にデータフォーマットがある場合、そちらがバーコードデータに使用されます。他のデータフォーマットがない場合、そのままのデータが出力されます。

データフォーマットの設定の変更を行ったものの、フォーマットをすべて削除して工場初期設定に戻したい場合は、下のデータフォーマット初期設定コードを読み取ってください。



データフォーマット表示

以下のバーコードを読み取ると現在のデータフォーマット設定が表示されます。



データフォーマットの追加

Step 1. データフォーマットの入力のシンボルを読み取ります。

Step 2. 基準/代用フォーマットを選択します。

基準のデータフォーマットにするか、または3つある代用フォーマットの1つにするかを決定します。全部で4つの異なるデータフォーマットの方法を保存することができます。基準フォーマットを設定するときは、[プログラミングチャート](#)で0を読み取ります。代用フォーマットをプログラム設定する場合は、設定する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。

Step 3. 端末の種類

端末IDテーブルを参照し、お使いのコンピュータの端末IDナンバーを確認します。プログラムにある3つの数字バーコードを

読み取り、その端末IDでスキャナをプログラム設定します。（数字を3つ入力してください。）例えば、ATウェッジの場合は0、0、3を読み取ります。

注意：すべての端末に適用する場合は、099と入力してください。

Step 4. コードID

[シンボルチャート](#)でデータフォーマットを適用するシンボルを確認します。そのシンボルの16進数値を確認し、[プログラミングチャート](#)から2桁の16進数値を読み取ります。

注意：バッチモード数量のデータフォーマットを作成するには、コードIDの35を使用します。

Step 5. コードの長さ

このシンボルで可能なデータの長さ（最大9,999キャラクタ）を指定します。[プログラミングチャート](#)から4桁のデータ長を読み取ります。例えば、50キャラクタ（桁）は0050と入力します。

注意：コードの長さを問わず設定を適用したい場合は、9999と入力してください。

Step 6. 編集コマンド

[データフォーマットエディタコマンド（編集コマンド）](#)を参照してください。入力したいコマンドを表すシンボルを読み取ります。

Step 7. データフォーマットの保存には、**保存**を読み取ってください。保存しない場合は**破棄**を読み取ります。



他のプログラミング設定

• データフォーマット1つ削除

1つのシンボルに対してデータフォーマットを1つ削除します。基準フォーマットを削除する場合は、[プログラミングチャート](#)から0を読み取ります。代用フォーマットを削除する場合は、削除する代用フォーマットによって1、2、または3を読み取ります。その後、削除したい特定のデータフォーマットの端末の種類、コードID（[シンボルチャート](#)参照）、およびバーコードデータ桁数を読み取ります。他のフォーマットは全く影響を受けません。

• データフォーマットすべて削除

すべてのデータフォーマットを削除します。

保存：データフォーマットを保存します。

破棄：データフォーマットの設定を中止し、破棄します。



端末IDテーブル

モデル		端末ID
USB	PC キーボード	124
	Mac キーボード	125
	PC 日本語キーボード	134
	シリアル (COM ドライバ必要)	130
	HID POS	131
	USB SurePOS ハンドヘルドスキャナ	128
	USB SurePOS テーブルトップスキャナ	129
シリアル	RS232 TTL	000
	RS232 True	000
キーボード	PS2 互換機	003

データフォーマットエディタコマンド (編集コマンド)

データフォーマットエディタを使用する場合、仮想カーソルが入力データにそって移動します。次のコマンドを使用して、カーソルを違う位置に移動し、データの選択、変換、および最終出力に挿入を行います。

送信コマンド

すべてのキャラクタを送信する

F1 入力メッセージ (読み取ったデータ) のすべてのキャラクタが出力メッセージに含まれます。現在のカーソル位置から始まり、最後にキャラクタを挿入します。Syntax=F1xx (xxは、挿入するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。) 10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

複数のキャラクタを送信する

F2 入力メッセージ (読み取ったデータ) から指定した桁数のデータだけを送信します。現在のカーソル位置から「nn」個のキャラクタまで、もしくは入力メッセージの最後のキャラクタまで、最後にキャラクタを挿入して送信します。Syntax=F2nnxx (nnはキャラクタの数を示す数字 (00~99) で、xxは、挿入するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

F2の例：複数のキャラクタを送信する



上記のバーコードから最初の10キャラクタにキャリッジリターンを挿入して送信します。

コマンド：F2100D

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

10は送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：1234567890

F2とF1の例：キャラクタを2行に分割

上記のバーコードから最初の10キャラクタにキャリッジリターンを挿入し、残りのキャラクタを送信します。

コマンド：F2100DF10D

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

10は最初の行に送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

```
1234567890
ABCDEFGHIJ
<CR>
```

特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する

F3 現在のカーソル位置のキャラクタから始まり、検索キャラクタ「ss」の手前までのデータを送信します。続いて、指定したキャラクタを挿入します。カーソルは「ss」キャラクタへと移動します。Syntax=F3ssxx（nnは検索するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示し、xxは、挿入したいキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています）。

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。

F3の例：特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する



上記のバーコードを使用して、「D」までのすべての文字とキャリッジリターンを送信します。

コマンド：F3440D

F3は「特定のキャラクタまでのキャラクタすべてを送信する」コマンドです。

44は「D」の16進数値です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

```
1234567890ABC
<CR>
```

最後のキャラクタ以外を送信する

E9 現在のカーソル位置から、最後の「nn」キャラクタを除くすべてを出力メッセージに含めて送信します。カーソルは最後の入力メッセージキャラクタが含まれる位置を過ぎたところへ移動します。Syntax=E9nn（nnは、メッセージの最後で送られないキャラクタの数の数値（00～99）を示しています）。

キャラクタを複数回挿入する

F4 現在のカーソル位置はそのまま、「xx」キャラクタを「nn」回、出力メッセージで送信します。Syntax=F4xxnn（xxは、挿入したいキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示し、nnは、送信する回数の数値（00～99）を示しています）。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#)を参照してください。

E9とF4の例：最後のキャラクタ以外にタブを2つ付加し送信する



上記のバーコードから最後の8桁を除いたすべてのキャラクタにタブを2つ追加して送信します。

コマンド：E908F40902

E9は「最後のキャラクタ以外にタブを2つ付加し送信する」コマンドです。

08は無視するキャラクタ数です。

F4は「キャラクタを複数回挿入する」コマンドです。

09は「水平タブ」の16進数値です。

02は挿入するタブの数です。

データ出力は：1234567890AB<tab><tab>

移動コマンド

前方キャラクタへ移動する

F5 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ分、先へと移動させます。

Syntax=F5nn (nnは、カーソルを前に移動させるキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

F5の例：カーソルを前に移動し、データを送信します。



上記のバーコードのカーソルを3文字前に移動し、それ以降のバーコードデータを送信します。キャリッジリターンで終わります。

コマンド：F503F10D

F5は「前方キャラクタへ移動する」コマンドです。

03はカーソルを移動するキャラクタ数です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

4567890ABCDEFGHIJ
<CR>

後方キャラクタへ移動する

F6 カーソルを現在の位置から「nn」キャラクタ分、後ろへ移動させます。

Syntax=F6nn (nnは、カーソルを後ろに移動させるキャラクタ数 (00~99) を示しています。)

カーソルを先頭に移動する

F7 カーソルを入力メッセージの先頭キャラクタに移動させます。Syntax=F7

FEとF7の例：1で始まるバーコードを処理します。



1で始まるバーコードを検索します。バーコードが一致した場合、カーソルはデータの先頭に移動し、6文字にキャリッジリターンを付加し送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド：FE31F7F2060D

FEは「キャラクタの比較」コマンドです。

31は1の16進数値です。

F7は「カーソルを先頭に移動する」コマンドです。

F2は「複数のキャラクタを送信する」コマンドです。

06は送信するキャラクタ数です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

123456

<CR>

カーソルを末尾に移動する

EA カーソルを入力メッセージの最終キャラクタに移動します。Syntax=EA

検索コマンド

前方のキャラクタを検索する

F8 現在のカーソル位置より前方にある「xx」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax=F8xx (xxは、検索するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。)

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

F8の例：特定のキャラクタの後に始まるバーコードデータを送信する



バーコードにある「D」を検索し、「D」を含むその後のすべてのデータを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド：F844F10D

F8は「前方のキャラクタを検索する」コマンドです。

44は「D」の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。データ出力は：

DEFGHIJ

<CR>

後方のキャラクタを検索する

F9 現在のカーソル位置より後方にある「xx」キャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルは「xx」キャラクタに移動します。Syntax=F9xx (xxは、検索するキャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています。)

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

合致しないキャラクタの前方を検索する

E6 現在のカーソル位置より前方にある「xx」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルを「xx」ではないキャラクタに移動させます。Syntax=E6xx。xxは、検索キャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

E6の例：バーコードデータのはじめにある0を削除する



0があるバーコードの例です。0を無視し、それ以降のすべてのデータを送信する場合、E6は0ではない最初の文字を検索し、その後のデータすべてとキャリッジリターンを送信します。上記のバーコードを使用します。

コマンド : **E630F10D**

E6は「合致しないキャラクタの前方を検索する」コマンドです。

30は0の16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は :

```
37692
<CR>
```

合致しないキャラクタの後方を検索する

E7 現在のカーソル位置より後ろ方にある「xx」以外のキャラクタを入力メッセージから検索し、カーソルを「xx」ではないキャラクタに移動させます。Syntax=E7xx。xxは、検索キャラクタのASCIIコードにコードに対する16進数値を示しています。10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート \(コードページ1252\)](#) ページを参照してください。

その他のコマンド

キャラクタを無効にする

FBカーソルを他のコマンドで進めると、現在のカーソル位置から最大15の別のキャラクタをすべて無効にします。FCコマンドを実行することで、この機能を停止することができます。FBコマンドではカーソルが移動しませんので、ご注意ください

Syntax = FBnnxxyy..zzは、リストにある無効キャラクタの数、xxyy..zzは、無効にするキャラクタのリストです。

FBの例 : バーコードデータのスペースを削除します。



スペースがあるバーコードの例です。データ送信の前にスペースを削除します。上記のバーコードを使用します。

コマンド : **FB0120F10D**

FBは「キャラクタを無効にする」コマンドです。

01は無効にするキャラクタタイプです。

20はスペースの16進数値です。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は :

```
34567890
<CR>
```

キャラクタの無効を停止する

FC キャラクタの無効を停止し、無効になったキャラクタをすべて削除します。Syntax=FC

キャラクタを置き換える

E4 出力メッセージにある最大15桁のキャラクタをカーソルを移動せずに変更します。変更は、E5コマンドを実行するまで続きます。Syntax =E4nnxx1xx2yy1yy2...zz1zz2。nnは (変更前のキャラクタと変更後) のキャラクタの合計です。xx1は、

変更前のキャラクタを、xx2は変更後のキャラクタを定義します。zz1とzz2まで同様です。

E4の例：バーコードの0をキャリッジリターンに置き換えます。



ホストアプリケーションで含めたくないキャラクタを持つバーコードがある場合、E4コマンドを使用してそれらのキャラクタを別のものに置き換えられます。この例では、上記のバーコードの0をキャリッジリターンに置きかえます。

コマンド：**E402300DF10D**

E4は「キャラクタを置き換える」コマンドです。

02は置き換えるキャラクタの合計数と置き換えるキャラクタ（0をキャリッジリターンに置き換えるので、合計キャラクタ数は2）です。

30は0の16進数値です。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。（0に置き換わるキャラクタ）

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。

データ出力は：

```
1234
5678
ABC
<CR>
```

キャラクタの置き換えを停止する

E5 キャラクタの変更を停止します。Syntax=E5。

キャラクタを比較する

FE 現在のカーソル位置にあるキャラクタをキャラクタ「xx」と比較します。キャラクタが同じ場合は、カーソルを1つ進めます。Syntax=FExx（xxは、比較するキャラクタのASCIIコードに対する16進数値を示しています。）

10進数値、16進数値、キャラクタコードについては、[ASCII変換チャート（コードページ1252）](#) ページを参照してください。

数字をチェックする

EC 現在のカーソル位置にASCII数字があることを確認します。ASCII数字でない場合は、フォーマットを中止します。

ECの例：バーコードが数字で始まる場合のみデータを出力します。

数字で始まるバーコードからデータのみがほしい場合、ECコマンドを使用します。

コマンド：**ECF10D**

ECは「数字をチェックする」コマンドです。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。



このバーコードが読まれると、 AB1234 次にデータフォーマットがある場合、このデータに使用されます。他のフォーマットがない場合、そのままのデータ **AB1234** が出力されます。



このバーコードが読まれると： 1234AB データ出力は：

1234AB
<CR>

数字以外のキャラクタをチェックする

ED 現在のカーソル位置にASCII 数字以外のキャラクタがあることを確認します。キャラクタが数字の場合は、フォーマットを中止します。

EDの例：バーコードが文字で始まる場合のみデータを出力します。

文字で始まるバーコードからデータのみがほしい場合、ECコマンドを使用します。

コマンド：**EDF10D**

EDは「数字以外のキャラクタをチェックする」コマンドです。

F1は「すべてのキャラクタを送信する」コマンドです。

0Dはキャリッジリターンの16進数値です。



このバーコードが読まれると、**1234AB** 次にデータフォーマットがある場合、このデータに使用されます。他のフォーマットがない場合、そのままのデータ**1234AB**が出力されます。



このバーコードが読まれると：**AB1234** データ出力は：

AB1234
<CR>

ディレイを挿入する

EF 現在のカーソル位置から49,995ミリ秒までの（5ミリ秒単位）ディレイを挿入します。Syntax=Efnnnn。nnnnは5ミリ秒単位でのディレイを示し、最大9999です。このコマンドはキーボードウェッジインターフェースの場合にのみ使用可能です。

データフォーマット

データフォーマットを無効にすると、プレフィックスとサフィックスを含め、バーコードデータは読み取ったままホストに出力されます。



DFM_END.

データフォーマット無効

読み取ったデータをユーザーが作成・保存したデータフォーマットに合致させたい場合、以下の設定をデータフォーマットに適用することができます。

データフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスあり

読み取ったデータはユーザーのデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスも送信されます。

データフォーマット要求するプレフィックス/サフィックスあり

読み取ったデータはユーザーのデータフォーマットに合わせて調整され、プレフィックス、サフィックスも送信されます。ユーザーのデータフォーマットに合わない場合、すべてに対してエラーブザーが鳴らされ、そのバーコードのデータは送信されません。

初期設定はデータフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスありです。



DFM_EN1.

*データフォーマット有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスあり



DFM_EN2.

データフォーマット要求するプレフィックス/サフィックスあり

基準/代用データフォーマット

データフォーマットは4種類保存することができ、それらのフォーマットを切り換えることができます。基準データフォーマットの場合は、0で保存してください。それ以外のフォーマットは1、2、3のどれかで保存してください。フォーマットを使用するには、以下のバーコードのいずれか1つを読み取ってください。



ALTFNM0.

基準データフォーマット



ALTFNM1.

データフォーマット1



ALTFNM2.

データフォーマット2



ALTFNM3.

データフォーマット3

シンボル

この章では、以下のメニュー項目について説明します。設定と初期設定については、[シリアルプログラミングコマンドの章](#)を参照してください。

- [すべてのシンボル](#)
- [Aztecコード](#)
- [中国郵便コード \(Hong Kong 2 of 5\)](#)
- [中国漢信 \(Han Xin\) コード](#)
- [Codabar](#)
- [CodablockA](#)
- [CodablockF](#)
- [Code11](#)
- [Code128](#)
- [Code32 Pharmaceutical \(PARAF\)](#)
- [Code39](#)
- [Code93](#)
- [Data Matrix](#)
- [EAN/JAN-13](#)
- [EAN/JAN-8](#)
- [GS1コンポジットシンボル](#)
- [GS1データバー拡張型 \(エクспанデッド\)](#)
- [GS1データバー限定型 \(リミテッド\)](#)
- [GS1データバー標準型 \(オムニディレクショナル\)](#)
- [GS1エミュレーション](#)
- [GS1-128](#)
- [Interleaved 2 of 5 \(ITF\)](#)
- [韓国郵便](#)
- [ラベルコード](#)
- [Matrix 2 of 5](#)
- [Maxiコード](#)
- [MicroPDF417](#)
- [MSI](#)
- [NEC 2 of 5](#)
- [2次元郵便コード](#)
- [1次元郵便コード](#)
- [PDF417](#)
- [QRコード](#)
- [Straight 2 of 5 IATA \(2バースタートストップ\)](#)
- [Straight 2 of 5 Industrial \(3バースタートストップ\)](#)
- [TCIF Linked Code39 \(TLC39\)](#)
- [Telepen](#)
- [Triopticコード](#)
- [UPC-A](#)
- [拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13](#)
- [UPC-E0](#)
- [UPC-E1](#)

すべてのシンボル

スキャナのパフォーマンスを最適にするには、必要なシンボルのみを有効にすることをお勧めします。すべてのシンボル無効をスキャンしてすべてのシンボルを無効にしてから、必要なシンボルだけを有効にして使用することを推奨します。

お使いのスキャナで可能なシンボルをすべてデコードしたい場合は、**すべてのシンボル有効**のバーコードを読み取ります。一方、特定のシンボルだけを読み取りたい場合は、**すべてのシンボル無効**を読み取り、その後、特定のシンボルに対して**有効**バーコードを読み取ります。



ALLENAD.

すべてのシンボル有効



ALLENAD.

すべてのシンボル無効

注意：すべてのシンボル有効を読み取っても、2次元郵便コードの読み取りは有効になりません。2次元郵便コードについては、別に設定してください。

読取桁数について

バーコードシンボルによっては、読取桁数を設定できます。読み取ったバーコードのデータ桁数が指定した読取桁数と一致しない場合、エラーブザーが鳴ります。スキャナに強制的に固定長のバーコードデータを読み取らせるため、最小と最大を同じ値に設定することも可能です。これによって読み取りエラーの削減に役立ちます。

例： 桁数が9～20のバーコードだけをデコードします。

最小：09、最大：20

例： 桁数が15のバーコードだけをデコードします。

最小：15、最大：15

初期設定の最小および最大の読取桁数以外の値にする場合は、そのシンボルの説明に含まれているバーコード読み取り、次に[プログラミングチャート](#)から読取桁数の数値と保存のバーコードを読み取ります。最小と最大、および初期設定は、それぞれのシンボル別設定に記載されていますので、そちらを参照してください。

Codabar

【Codabar設定をすべて初期化】



Codabar有効/無効



*有効



無効

Codabarスタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。初期設定は送信なしです。



送信する



*送信なし

Codabarチェックキャラクタ

Codabarチェックキャラクタは、いろいろな「モジュラス」を用いて作成します。モジュラス16チェックキャラクタを用いたCodabarのバーコードだけを読み取るよう、スキャナを設定できます。初期設定値はチェックキャラクタなしです。

チェックキャラクタなしは、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

モジュラス16有効および送信に設定すると、スキャナはチェックキャラクタが印刷されたCodabarのみ読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

モジュラス16有効、送信なしに設定すると、チェックキャラクタと共に印刷されたCodabarバーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは、読み取ったデータと一緒に送信されません。



CBRCK20.

*チェックキャラクタなし



CBRCK21.

モジュラス16有効、送信なし



CBRCK22.

モジュラス16有効、送信

Codabarの連結機能

Codabarには、連結サポート機能があります。連結機能を有効にすると、「D」のスタートキャラクタがあるバーコードと、「D」のストップキャラクタがあるバーコードに隣接するCodabarを検索します。この場合、2つのデータは1つに連結され、「D」キャラクタは省略されます。



A 1 2 3 4 D D 5 6 7 8 A

連結されていない単独の「D」Codabarをデコードしないようにするには、**要求する**を選択します。この選択をしても、「D」のスタート/ストップキャラクタがないCodabarには影響ありません。



CBRCCT1.

有効



CBRCCT0.

*無効



CBRCCT2.

要求する

Codabarの読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2~60、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は60です。



CBRMIN.

最小読取桁数



CBRMAX.

最大読取桁数

Code39

【Code39設定をすべて初期化】



C39DFT.

Code39有効/無効



Code39スタート/ストップキャラクタ

スタート/ストップキャラクタは、バーコードの先頭と末尾を識別します。送信の有無を選択できます。初期設定は送信なしです。



Code39チェックキャラクタ

チェックキャラクタなしは、チェックキャラクタの有無に関係なくバーコードを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックキャラクタが印刷されたCode39バーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタと読み取ったデータと一緒に送信しません。

有効、送信するに設定すると、チェックキャラクタが印刷されたCode39バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。初期設定値はチェックキャラクタなしです。



Code39読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0~48、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は48です。



Code39の連結機能

この機能により、複数のCode39バーコードのデータを付加してからホストシステムに送信できます。この機能を有効にすると、スキャナはスペースで始まるCode39バーコード（スタートおよびストップシンボルを除く）を保存し、すぐにはデータを送りません。バーコードを読み取った順にデータを保存し、それぞれから最初のスペースを削除します。スペース以外のキャラクタで始まるCode39バーコードを読み取ると、保存したデータを読み取った順で送信します（FIFO）。初期設定は無効です。



C39APP1.

有効



C39APP0.

*無効

Code32 Pharmaceutical (PARAF)

Code32 Pharmaceuticalは、イタリアの薬局で使用されているCode39の一種です。PARAFとも呼ばれます。



C39B321.

有効



C39B320.

*無効

Full ASCII

フルASCII Code39デコーディングを有効にすると、バーコードシンボル内のある一定のキャラクタペアが単独のキャラクタとして解釈されます。例えば、「\$V」はASCIIキャラクタの「SYN」として、「/C」は「#」としてデコードされます。初期設定は無効です。

NUL	%U	DLE	\$P	SP	SPACE	0	0	@	%V	P	P	'	%W	p	+P
SOH	\$A	DC1	\$Q	!	/A	1	1	A	A	Q	Q	a	+A	q	+Q
STX	\$B	DC2	\$R	"	/B	2	2	B	B	R	R	b	+B	r	+R
ETX	\$C	DC3	\$S	#	/C	3	3	C	C	S	S	c	+C	s	+S
EOT	\$D	DC4	\$T	\$	/D	4	4	D	D	T	T	d	+D	t	+T
ENQ	\$E	NAK	\$U	%	/E	5	5	E	E	U	U	e	+E	u	+U
ACK	\$F	SYN	\$V	&	/F	6	6	F	F	V	V	f	+F	v	+V
BEL	\$G	ETB	\$W	'	/G	7	7	G	G	W	W	g	+G	w	+W
BS	\$H	CAN	\$X	(/H	8	8	H	H	X	X	h	+H	x	+X
HT	\$I	EM	\$Y)	/I	9	9	I	I	Y	Y	i	+I	y	+Y
LF	\$J	SUB	\$Z	*	/J	:	/Z	J	J	Z	Z	j	+J	z	+Z
VT	\$K	ESC	%A	+	/K	;	%F	K	K	[%K	k	+K	{	%P
FF	\$L	FS	%B	,	/L	<	%G	L	L	\	%L	l	+L		%Q
CR	\$M	GS	%C	-	-	=	%H	M	M]	%M	m	+M	}	%R
SO	\$N	RS	%D	.	.	>	%I	N	N	^	%N	n	+N	~	%S
SI	\$O	US	%E	/	/O	?	%J	O	O	_	%O	o	+O	DEL	%T

キャラクタペアの「/M」と「/N」は、それぞれマイナス記号とピリオドになります。

「/P」から「/Y」までは、「0」～「9」になります。



C39ASC1.

FullASCII有効



Code39コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



Interleaved 2 of 5 (ITF)

【Interleaved 2 of 5設定をすべて初期化】



Interleaved 2 of 5 (ITF) の有効/無効



Interleaved 2 of 5 (ITF) チェックデジット

チェックデジット無効は、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックデジットが印刷されたITFバーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

有効、送信するに設定すると、チェックデジットが印刷されたITFバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。初期設定値はチェックデジット無効です。



Interleaved 2 of 5 (ITF) の読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2～80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



I25MIN.
最小読取桁数



I25MAX.
最大読取桁数

NEC 2 of 5

【NEC 2 of 5設定をすべて初期化】



N25DFT.

NEC 2 of 5 有効無効



N25ENA1.
*有効



N25ENA0.
無効

チェックデジット

チェックデジット無効は、チェックデジットの有無に関係なくスキャナがバーコードデータを読み取って送信することを示します。

有効、送信なしに設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5バーコードだけを読み取りますが、チェックデジットを読み取ったデータと一緒に送信することはありません。

有効、送信するに設定すると、チェックデジットが印刷されたNEC 2 of 5バーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのチェックデジットを送信します。初期設定値はチェックデジット無効です。



N25CK20.
*チェックデジット無効



N25CK21.
有効、送信なし



N25CK22.
有効、送信する

NEC 2 of 5読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は2～80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



N25MIN.
最小読取桁数



N25MAX.
最大読取桁数

Code93

【Code93設定をすべて初期化】



C93DFT.

Code93有効/無効



C93ENA1.

*有効



C93ENA0.

無効

Code93読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0~80、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は80です。



C93MIN.

最小読取桁数



C93MAX.

最大読取桁数

Code93連結機能

この機能を使用すると、複数のCode93バーコードをホストデバイスに送信する前に複数のCode93バーコードからデータを連結させることができます。スペースで始まるCode93（スタート/ストップシンボルを除く）を読み取った順に保存し、各バーコードからスペースを削除します。スペース以外で始まるCode93バーコードを読み取ると、スキャナは結合したデータをホストデバイスに送信します。*初期設定は無効です。*



C93APP1.

有効



C93APP0.

*無効

Code93コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



C93DCP.
Code93コードページ

Straight 2 of 5 Industrial (3バースタート/ストップ)

【Straight of 5 Industrial設定をすべて初期化】



R25DFT.

Straight 2 of 5 Industrial有効/無効



R25ENA1.
有効



R25ENA0.
*無効

Straight 2 of 5 Industrial読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~48 最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



R25MIN.
最小読取桁数



R25MAX.
最大読取桁数

Straight 2 of 5 IATA (2バースタート/ストップ)

【IATA設定をすべて初期化】



A25DFT.

Straight 2 of 5 IATA有効/無効



A25ENA1.

有効



A25ENA0.

*無効

Straight 2 of 5 IATA読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~48、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



A25MIN.

最小読取桁数



A25MAX.

最大読取桁数

Matrix 2 of 5

【Matrix 2 of 5設定をすべて初期化】



X25DFT.

Matrix 2 of 5有効/無効



X25ENA1.

有効



X25ENA0.

*無効

Matrix 2 of 5読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。

詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。

設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



X25MAX.

最小読取桁数



X25MIN.

最大読取桁数

Code11

【Code11設定をすべて初期化】



C11DFT.



C11ENA1.

有効



C11ENA0.

*無効

チェックデジットの要求

Code11バーコードに必要なチェックデジットを1つまたは2つに設定します。初期設定はチェックデジット2つです。



C11CK20.

チェックデジット1つ



C11CK21.

*チェックデジット2つ

Code11読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



C11MIN.

最小読取桁数



C11MAX.

最大読取桁数

Code128

【Code128設定をすべて初期化】



128DFT.

Code128有効/無効



128ENA1.

*有効



128ENA0.

無効

ISBT128連結機能

1994年、国際輸血学会（ISBT）は、血液の重要情報を一定の方法でやり取りするための基準を定めました。ISBTフォーマットを使用するには、有料ライセンスが必要です。ISBT128のアプリケーション仕様では、次の内容を規定しています。1) 血液製品にラベル表示をするための重要なデータ要素、2) セキュリティが高度で設計のスペース効率が良いことからCode128の使用を現在は推奨すること、3) 隣接シンボルの連結をサポートするCode128のバリエーション、4) 血液製品ラベルのバーコードの標準レイアウト。次のバーコードを用いて連結をオン/オフします。初期設定は無効です。



ISBENA1.

有効



ISBENA0.

*無効

Code128読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は0~80、最短の初期設定値は0、最長の初期設定値は80です。



128MIN.

最小読取桁数



128MAX.

最大読取桁数

Code128連結機能

この機能では、複数のCode128バーコードをホストデバイスに送信する前に連結して送信することが可能です。スキャナが連結を示すキャラクタを含んだCode128バーコードを読み取ると、連結を示すキャラクタを含まないバーコードを読み取るまでCode128バーコードのデータを一時的に保存します。バーコードデータは読み取った順に出力されます（FIFO）。初期設定は有効です。



128APP1.

*有効



128APP0.

無効

Code128コードページ

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



128DCP.

Code128コードページ

GS1-128

【GS1-128設定をすべて初期化】



GS1DFT.

GS1-128 有効/無効



GS1ENA1.

有効



GS1ENA0.

無効

GS1-128 読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は1~80、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は80です。



GS1MIN.

最小読取桁数



GS1MAX.

最大読取桁数

UPC-A

UPC-A有効/無効

【UPC-A設定をすべて初期化】



UPADFT.



UPAENA1.

有効



UPAENA0.

無効

注意：UPC-AバーコードをEAN-13に変換するには、[UPC-AからEAN-13への変換](#)ページを参照してください。

UPC-Aチェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



UPC-Aシステム番号

通常は読み取ったデータの最初にUPCシンボルのシステム番号を送信しますが、送信なしのように設定できます。初期設定は有効です。



UPC-Aアドオン

読み取ったすべてのUPC-Aデータの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。

初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。



UPC-Aアドオンの要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるUPC-Aバーコードだけを読み取ります。

2桁または5桁のアドオンを有効にする必要があります。初期設定は要求しないです。



UPC-Aアドオンセパレーター

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にするとスペースは入りません。初期設定は有効です。



UPAADS1.

*有効



UPAADS0.

無効

拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13

次のバーコードを使用し、拡張クーポンコード付きUPC-AおよびEAN-13を有効または無効にします。もし初期設定（無効）のままにしておくと、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを一つのバーコードと見なします。

連結許可コードを読み取ると、スキャナがクーポンコードと拡張クーポンコードを一つの読み取りで認識した場合、どちらも別々のシンボルとして送信します。それ以外の場合は、読み取った最初のクーポンコードを送信します。

連結必須コードを読み取ると、スキャナはクーポンコードと拡張クーポンコードを一つとして読み取り、データを送信します。両方のコードが読めない限り、データは出力されません。初期設定は無効です。



CPNENA0.

*無効



CPNENA1.

連結許可



CPNENA2.

連結必須

クーポンGS1データバー出力

もしUPCとGS1データバー両方のバーコードを含んだクーポンを読み取った場合、GS1データバーのデータのみ読み取り、出力したい場合もあるかもしれません。**GS1データバーのみ出力有効**を読み取ると、GS1データバーバーコードだけを読み取り、そのデータだけを出力します。初期設定はGS1データバーのみ出力無効です。



CPNGS10.

*GS1データバーのみ出力無効



CPNGS11.

GS1データバーのみ出力有効

UPC-E0

【UPC-E0設定をすべて初期化】



UPEDFT.

UPC-E0有効/無効

ほとんどのUPCバーコードは、「0」のナンバーシステムコードで始まります。これらのバーコードには、UPC-E0の設定を使用します。「1」のナンバーシステムコードで始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、[UPC-E1](#)を使用します。初期設定は有効です。



UPEEN01.

*UPC-E0有効



UPEEN00.

UPC-E0無効

UPC-E0の拡張

UPC-Eバーコードを12桁のUPC-Aフォーマットに拡張します。初期設定は無効です。



UPEEXP1.

有効



UPEEXP0.

*無効

UPC-E0アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるUPC-Eバーコードだけを読み取ります。初期設定は要求しないです。



UPEARQ1.

要求する



UPEARQ0.

*要求しない

UPC-E0アドオンセパレーター

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンデータとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は有効です。



UPEADS1.

*有効



UPEADS0.

無効

UPC-E0チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



UPC-E0システム番号

UPC-Aシンボルのシステム番号は通常読み取ったデータの最初に送信されますが、UPC-Eの拡張を使用している場合、送信しないように設定されます。送信を防ぐには無効をスキャンします。初期設定は有効です。



UPC-E0アドオン

読み取ったすべてのUPC-Eデータの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のデジット追加で禁止です。



UPC-E1

ほとんどのUPCバーコードは、「0」のシステム番号で始まります。これらのバーコードには、[UPC-E0](#)を使用します。「1」のシステム番号で始まるバーコードを読み取る必要がある場合は、**UPC-E1有効**を選択してください。初期設定は無効です。



EAN/JAN-13

【EAN/JAN-13設定をすべて初期化】



EAN/JAN-13有効/無効



UPC-AからEAN-13への変換

UPC-AからEAN-13への変換が選択されると、UPC-AバーコードはEAN-13コードの前に0を付加し、13桁に変換されます。
UPC-Aの変換禁止が選択されると、UPC-AコードはUPC-Aとして読まれます。



EAN/JAN-13チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



EAN/JAN-13アドオン

読み取ったすべてのEAN/JAN-13データの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。





E13AD51.
アドオン5桁許可



E13AD50.
*アドオン5桁禁止

EAN/JAN-13アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるEAN/JAN-13バーコードだけを読み取ります。初期設定は要求しませんです。



E13ARQ1.
要求する



E13ARQ0.
*要求しない

EAN/JAN-13アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は無効です。



E13ADS1.
有効



E13ADS0.
*無効

注意：拡張クーポンコード付きEAN13を有効または無効にしたい場合は、[拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13](#)を参照してください。

ISBN変換

ISBNはEAN-13バーコードを用いて本にプリントされているものです。EAN-13 Booklandシンボルを同等のISBN番号フォーマットに変換するには、下の有効バーコードを読み取ってください。初期設定は無効です。



E13ISB1.
有効



E13ISB0.
*無効

EAN/JAN-8

【EAN/JAN-8設定をすべて初期化】



EA80FT.

EAN/JAN-8有効/無効



EABENA1.

*有効



EABENA0.

無効

EAN/JAN-8チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は有効です。



EABCKX1.

*有効



EABCKX0.

無効

読み取ったすべてのEAN/JAN-8データの最後に2桁または5桁のアドオンを追加します。初期設定は2桁と5桁の両方のアドオン追加禁止です。



EABAD21.

アドオン2桁許可



EABAD20.

*アドオン2桁禁止



EABAD51.

アドオン5桁許可



EABAD50.

*アドオン5桁禁止

EAN/JAN-8アドオン要求

要求するバーコードを読み取ると、スキャナはアドオンのあるEAN/JAN-8バーコードだけを読み取ります。初期設定は要求しません。



EABARQ1.

要求する



EABARQ0.

*要求しない

EAN/JAN-8アドオンセパレータ

この機能を有効にすると、バーコードデータとアドオンとの間にスペースが入ります。無効にすると、スペースは入りません。初期設定は有効です。



EABADS1.

*有効



MSI

【MSI設定をすべて初期化】



MSI有効/無効



MSIチェックキャラクタ

MSIバーコードにはいろいろな種類のチェックキャラクタが使用されています。タイプ10のチェックキャラクタのあるMSIバーコードを読み取るようにスキャナを設定できます。初期設定はタイプ10有効、送信なしです。

タイプ10/11有効、送信するに設定すると、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷されたMSIバーコードだけを読み取り、読み取ったデータの最後にこのキャラクタを送信します。

タイプ10/11有効、送信なしに設定した場合は、指定のタイプのチェックキャラクタが印刷されたMSIバーコードだけを読み取りますが、チェックキャラクタは読み取ったデータといっしょに送信しません。





MSCHK6.

MSIチェックキャラクタ無効

MSI読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は4~48、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



MSIMIN.

最小読取桁数



MSIMAX.

最大読取桁数

GS1データバー標準型（オムニディレクショナル）

【GS1データバー標準型設定をすべて初期化】



RSSDFT.

GS1データバー標準型 有効/無効



RSSENA1.

*有効



RSSENA0.

無効

GS1データバー限定型（リミテッド）

【GS1データバー限定型設定をすべて初期化】



RSLDFT.

GS1データバー限定型 有効/無効



RSLENA1.

*有効



RSLENA0.

無効

GS1データバー拡張型（エクспанデッド）

【GS1データバー拡張型設定をすべて初期化】



RSEDFT.

GS1データバー拡張型 有効/無効



RSEENA1.

*有効



RSEENA0.

無効

GS1データバー拡張型 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。設定可能桁数は4～74、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は74です。



RSEMIN.

最小読取桁数



RSEMAX.

最大読取桁数

CodablockA

【CodablockA設定をすべて初期化】



CBADFT.

CodablockA 有効/無効



CBAENA1.

有効



CBAENA0.

*無効

CodablockA 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1～600、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は600です。



CBAMIN.

最小読取桁数



CBAMAX.
最大跳取桁数

CodablockF

【CodablockF設定をすべて初期化】



CBFDFI.

CodablockF有効無効



CBFENA1.

有効



CBFENA0.

*無効

CodablockF読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~2048、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は2048です。



CBFMIN.

最小跳取桁数



CBFMAX.

最大跳取桁数

PDF417

【PDF417設定をすべて初期化】



PDFDFI.

PDF417 有効/無効



PDFENA1.

*有効



PDFENA0.

無効

PDF417読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~2750、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は2750です。



PDFMIN.
最小読取桁数



PDFMAX.
最大読取桁数

MacroPDF417

MacroPDF417は、複数のPDF417コードに含まれている非常に大量のデータをエンコードできるよう改良されたPDF417コードです。この機能を有効にすると、複数のコードを集めて1つのデータストリングに仕立てます。初期設定は有効です。



PDFMAC1.
*有効



PDFMAC0.
無効

MicroPDF417

【MicroPDF417設定をすべて初期化】



MPDDFT.

MicroPDF417 有効/無効



MPDENA1.
有効



MPDENA0.
*無効

MicroPDF417 読取桁数

メッセージ長を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~366、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は366です。



MPDMIN.
最小読取桁数



MPDMAX.
最大読取桁数

GS1コンポジットシンボル

リニアコードと固有の2D合成成分とが複合され、GS1コンポジットシンボルと呼ばれる新たなクラスを形成します。GS1コンポジットシンボルにより、すでに使用されているシンボルとの共存が可能になります。初期設定は無効です。



COMENA1.

有効



COMENAD.

*無効

UPC/EANバージョン

UPCまたはEANリニアバーコードを含むGS1コンポジットシンボルをデコードするときは、**UPC/EANバージョン有効**を読み取ります。(GS1-128、もしくはGS1バーコードを含むGS1コンポジットシンボルには影響しません。)初期設定はUPC/EANバージョン無効です。



COMUPC1.

UPC/EANバージョン有効



COMUPC0.

*UPC/EANバージョン無効

注意：クーポンがUPCコードとGS1データバーコード両方を含んでいて、GS1データバーのバーコードデータのみを出力したい場合があるかもしれません。そういった場合は、[クーポンGS1データバー出力](#)を参照してください。

GS1コンポジットシンボル 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~2435、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値=2435です。



COMMIN.

最小読取桁数



COMMAX.

最大読取桁数

GS1エミュレーション

スキャナは任意のGS1データキャリアからの出力を自動的にフォーマットし、同等のGS1-128もしくはGS1データバーシンボルでデコードされる内容をエミュレートすることができます。GS1データキャリアにはUPC-A、UPC-E、EAN-13ならびにEAN-8、ITF-14、GS1-128ならびにGS1-128データバーとGS1コンポジットがあります。(GS1データに対応するアプリケーションは、データキャリアのタイプを1つ認識するだけでよいためすべて単純化できます。)

GS1-128エミュレーションを読み取ると、すべての小売コード(U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13)が16桁に拡張されて出力されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-128 AIM ID、]C1となります。([シンボルチャート](#) ページ参照)

GS1データバーエミュレーションを読み取ると、すべての小売コード(U.P.C.、UPC-E、EAN8、EAN13)が16桁に拡張されて出力されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-DataBar AIM ID、]emとなります。([シンボルチャート](#) ページ参照)

GS1コード拡張無効を読み取ると、小売コード拡張が無効となり、UPC-E拡張は[UPC-E0の拡張](#)設定によって制御されます。AIM IDが有効な場合、その値はGS1-128 AIM ID、]C1となります。([シンボルチャート](#) ページ参照)

EAN8からEAN13へ変換を読み取ると、すべてのEAN8バーコードはEAN13フォーマットに変換されます。

初期設定はGS1エミュレーション無効です。



EANEMU1.

GS1-128エミュレーション



EANEMU3.

GS1データバーエミュレーション



EANEMU0.

*GS1エミュレーション無効



EANEMU2.

GS1コード拡張無効



EANEMU4.

EAN8からEAN13へ変換

TCIF Linked Code39 (TLC39)

このバーコードは、Code39のバーコード部分とMicroPDF417のスタックコード部分による複合コードになっています。どのバーコードスキャナにもCode39バーコードを読み取る能力がありますが、MicroPDF417の成分をデコードできるのは、**TLC39有効**に設定したときだけです。リニア成分は、TLC39が無効でもCode39としてデコードできます。*初期設定は無効です。*



T39ENA1.

有効



T39ENA0.

*無効

QRコード

【QRコード設定をすべて初期化】



QRCDFT.

QRコード 有効/無効

この選択は、QRコードとMicroQRコードの両方に適用されます。



QRCEA1.

*有効



QRCEA0.

無効

QRコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最

短=1~7089、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は7089です。



QRCMIN.
最小読取桁数



QRCMAX.
最大読取桁数

QRコード連結機能

この機能では、複数のQRコードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだQRコードを読み取ると、QRコードに含まれた情報に従って決められた数のQRコードをバッファに入れます。適切な数のQRコードを読み取ると、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。この連結昨日は以下の種類の設定が行えます。

- **1回スキャン**：トリガーを1回引くと、同じ画像に入っているQRコード全てがデコードされます。
- **スワイプ**：トリガーを押したまま、連結するすべてのQRコードをスキャンします。スキャナは、それぞれのバーコードが読み取られ、データがバッファリングされる度に短いビープ音を発します。最後のQRコードがスキャンされ、データが完了すると長いビープ音が1回鳴ります。この機能はプレゼンテーションモードでは機能しません。
- **ポイントとシュート**：トリガーを画像ごとに1回引きます。スキャナは、それぞれのバーコードが読み取られ、データがバッファリングされる度に短いビープ音を発します。最後のQRコードがスキャンされ、データが完了すると長いビープ音が1回鳴ります。この機能はプレゼンテーションモードでは機能しません。

初期設定は1回スキャンです。



QRCAPP1.
*1回スキャン



QRCAPP2.
スワイプ



QRCAPP3.
ポイントとシュート



QRCAPP0.
無効

QRコード コードページ

QRコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



QRCDP.
QRコードコードページ

Data Matrix

【Data Matrix設定をすべて初期化】



Data Matrix 有効無効



Data Matrix 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~3116、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は3116です。



Data Matrix コードページ

Data Matrixコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



Maxiコード

【Maxiコード設定をすべて初期化】



Maxiコード 有効/無効



Maxiコード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~150、最短の初期設定は1、最長の初期設定は150です。



Aztecコード

【Aztecコード設定をすべて初期化】



Aztecコード有効/無効



Aztecコード読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~3832、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は3832です。



Aztec 連結機能

この機能では、複数のAztecコードのデータをホストデバイスに送信する前に連結させることが可能です。連結開始のキャラクタを含んだAztecコードを読み取ると、Aztecコードに含まれた情報に従って決められた数のAztecコードを一バッファに入れます。適切な数のAztecコードを読み取ったら、コード内の情報で定義された順番でデータが出力されます。**1回スキャン**：トリガーを1回引くと、同じ画像に入っているAztecコード全てがデコードされます。

- **スワイプ**：トリガーを押したまま、連結するすべてのAztecコードをスキャンします。スキャナは、それぞれのバーコードが読み取られ、データがバッファリングされる度に短いビープ音を発します。最後のAztecコードがスキャンされ、データが完了すると長いビープ音が1回鳴ります。この機能はプレゼンテーションモードでは機能しません。
- **ポイントとシュート**：トリガーを画像ごとに1回引きます。スキャナは、それぞれのバーコードが読み取られ、データがバッファリングされる度に短いビープ音を発します。最後のAztecコードがスキャンされ、データが完了すると長いビープ音が1回鳴ります。この機能はプレゼンテーションモードでは機能しません。

初期設定は1回スキャンです。



AZTAPP1.

*1回スキャン



AZTAPP2.

スワイプ



AZTAPP3.

ポイントとシュート



AZTAPP0.

無効

Aztec コードページ

Aztecコードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが正しいキャラクタを表示しない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するのとは別のコードページで作られている可能性があります。その場合は、次のバーコードを読み取り、バーコードが作成されたときのコードページを選択し（[ISO 2022/ISO 646キャラクタ変参照](#)）、本書にある[プログラミングチャート](#)から値と保存のバーコードを読み取ります。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずですが。



AZTDCP.

Aztecコードページ

中国漢信 (Han Xin) コード

【漢信コード設定をすべて初期化】



HX_DFT.

漢信コード 有効無効



HX_ENA1.

有効



HX_ENA0.

*無効

漢信コード 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)を参照してください。最長と最短=1~7833、最短の初期設定値は1、最長の初期設定値は7833です。



HX_MIN.

最小読取桁数



HX_MAX.

最大読取桁数

2次元郵便コード

以下は、読み込み可能な2次元郵便コードと認識可能な2次元郵便コードの組み合わせです。1つの2次元郵便コードしか有効にできません。2つ目の郵便コード設定を有効にすると、初めの設定は上書きされます。初期設定は2次元郵便コード無効です。



POSTAL0.

*2次元郵便コード無効

2次元郵便コード (単独)



POSTAL1.

オーストラリア郵便有効



POSTAL30.

カナダ郵便有効



POSTAL5.

日本郵便有効



POSTAL3.

Planetコード有効

[Planetコードチェックデジット](#)参照



POSTAL6.

Postnet有効

[Postnetチェックデジット](#)参照



POSTAL2.

InfoMail有効



POSTAL7.

イギリス郵便有効



POSTAL10.

インテリジェントメール有効



POSTAL4.

KIX有効



POSTAL9.

Postal-4i有効



POSTAL11.

Postnet BおよびB'フィールド有効

2次元郵便コード（組み合わせ）



POSTAL8.

Infomailおよびイギリス郵便有効



POSTAL14.

PostnetおよびPostal-4i有効



POSTAL17.

Postal-4iおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL12.

PlanetコードおよびPostnetコード有効



POSTAL13.

PlanetコードおよびPostal-4i有効



POSTAL21.

Planetコード、PostnetおよびPostal-4i有効



POSTAL23.

Planetコード、Postal-4iおよびIntelligent Mail
バーコード有効



POSTAL20.

Intelligent Mailバーコード、Postnet Bおよび
B'フィールド有効



POSTAL16.

PostnetおよびIntelligent Mailバーコード有効



POSTAL19.

Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド
有効



POSTAL18.

Planetコード、Postnet BおよびB'フィールド
有効



POSTAL15.

Planetコード、Intelligent Mailバーコード有効



POSTAL22.

Planetコード、PostnetおよびIntelligent Mail
バーコード有効



POSTAL24.

Postnetコード、Postal-4iおよびIntelligent
Mailバーコード有効



POSTAL25.

Planetコード、Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL26.

Planetコード、Intelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL27.

Postal-4i、Intelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効



POSTAL28.

PlanetコードPostal-4iおよびIntelligent Mailコード、Postnet有効



POSTAL29.

Planetコード、Postal-4iおよびIntelligent Mailコード、Postnet BおよびB'フィールド有効

Planetコードチェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



PLNCKX1.

チェックデジットを送信



PLNCKXD.

*チェックデジットを送信なし

Postnetチェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



NETCKX1.

チェックデジットを送信



NETCKXD.

*チェックデジットを送信なし

オーストラリア郵便 判読

この機能では、オーストラリア郵便で使用されている4-Stateバーコードに含まれている顧客フィールドにどのような判読が適用されるかを制御します。

バー出力はバーコードのパターンを「0123」フォーマットで一覧にします。

数字NテーブルはNテーブルを使用して、フィールドを数字データとして判読します。

英数字CテーブルはCテーブルを使用して、フィールドを英数字データとして判読します。オーストラリアの仕様表を参照してください。

CおよびNコンビネーションテーブルはCテーブルまたはNテーブルを使用して、フィールドを判読します。



AUSINT0.

*バー出力



AUSINT2.

英数字 : Cテーブル



AUSINT1.

数字 : Nテーブル



AUSINT3.

CおよびNテーブルコンビネーション

1次元郵便コード

1次元の郵便コードを以下に挙げます。任意の1次元郵便コードの組み合わせを同時に有効にすることが可能です。

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5)

【中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 設定をすべて初期化】



CPCDFT.

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 有効/無効



CPCENA1.

有効



CPCENA0.

*無効

中国郵便コード (Hong Kong 2 of 5) 読取桁数

読取桁数を変更するときは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数について](#)のページを参照してください。最小と最大は1~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は80です。



CPCMIN.

最小読取桁数



CPCMAX.

最大読取桁数

韓国郵便

【韓国郵便コード設定をすべて初期化】



韓国郵便



韓国郵便読取桁数

読取桁数を変更するとは、次のバーコードを読み取ります。詳細については[読取桁数についてのページ](#)を参照してください。設定可能桁数は2~80、最短の初期設定値は4、最長の初期設定値は48です。



韓国郵便 チェックデジット

読み取ったデータの最後にチェックデジットを送信するかどうかを指定できます。初期設定は送信なしです。



インターフェースキー

キーボードファンクションの関係

以下のキーボードファンクションコード、16進数/ASCII値、およびフルASCIIの「CTRL」+の関係は、スキヤナで使用可能なすべての端末に適用します。

ファンクションコード	16進数/ASCII値	フルASCII (CTRL + Xモード)
NUL	00	@
SOH	01	A
STX	02	B
ETX	03	C
EOT	04	D
ENQ	05	E
ACK	06	F
BEL	07	G
BS	08	H
HT	09	I
LF	0A	J
VT	0B	K
FF	0C	L
CR	0D	M
SO	0E	N
SI	0F	O
DLE	10	P
DC1	11	Q
DC2	12	R
DC3	13	S
DC4	14	T
NAK	15	U
SYN	16	V
ETB	17	W
CAN	18	X
EM	19	Y
SUB	1A	Z
ESC	1B	[
FS	1C	\
GS	1D]
RS	1E	^
US	1F	_

「フルASCII「CTRL」+」の列にある最後の5つの文字 ([\]6-) は、アメリカのみに適用されます。次の表は、国ごとにこれらの5つのキャラクタに相当するキャラクタを示します。

国	コード				
アメリカ	[\]	6	-
ベルギー	[<]	6	-
スカンジナビア	8	<	9	6	-
フランス	^	8	\$	6	=
ドイツ		Ã	+	6	-
イタリア		\	+	6	-
スイス		<	..	6	-
イギリス	[ø]	6	-
デンマーク	8	\	9	6	-
ノルウェー	8	\	9	6	-
スペイン	[\]	6	-

サポートされているインターフェースキー

ASCII	16進数	IBM PC/ATおよび 互換機、USB PCキーボード	Apple Mac/iMac サポートキー
NUL	00	Reserved	Reserved
SOH	01	Enter (KP)	Enter/Numpad Enter
STX	02	Cap Lock	CAPS
ETX	03	ALT make	ALT make
EOT	04	ALT break	ALT break
ENQ	05	CTRL make	CNTRL make
ACK	06	CTRL break	CNTRL break
BEL	07	CR/Enter	RETURN
BS	08	Reserved	APPLE make
HT	09	Tab	TAB
LF	0A	Reserved	APPLE break
VT	0B	Tab	TAB
FF	0C	Delete	Del
CR	0D	CR/Enter	RETURN
SO	0E	Insert	Ins Help
SI	0F	Escape	ESC
DLE	10	F11	F11
DC1	11	Home	Home
DC2	12	Print	Prnt Scrn
DC3	13	Back Space	BACKSPACE
DC4	14	Back Tab	LSHIFT TAB
NAK	15	F12	F12
SYN	16	F1	F1
ETB	17	F2	F2
CAN	18	F3	F3
EM	19	F4	F4
SUB	1A	F5	F5
ESC	1B	F6	F6
FS	1C	F7	F7
GS	1D	F8	F8
RS	1E	F9	F9
US	1F	F10	F10
DEL	7F		BACKSPACE

ユーティリティ

テストコードIDプレフィックスを全てのシンボルに追加

これを選択すると、デコードされたシンボルの前にコードIDを送信することができます。（各シンボルを識別する単独のシンボルキャラクタコードについては、[シンボルチャート](#)ページに記載されたシンボルチャートを参照してください。）ここでは、まず現在のプレフィックスをすべて消去し、その後すべてのシンボルについてコードIDプレフィックスを設定します。これは、電源を入れなおすと削除される一時設定です。



PRECA2,BK2995C80!

コードIDプレフィックスをすべてのシンボルに追加（一時）

デコーダーリビジョン表示

次のバーコードを読み取るとデコーダーのリビジョンを出力します。



REV_DR.

ドライバリビジョンの表示

スキャンドライバリビジョン表示

次のバーコードを読み取るとドライバのリビジョンを出力します。読み取りドライバは画像の取り込みを制御します。



REV_SD.

ドライバの改訂情報の表示

ソフトウェアリビジョン表示

次のバーコードを読み取るとスキャナとベースの現在のソフトウェアのリビジョン、シリアルナンバー、およびその他の製品情報を出力します。



REVINF.

リビジョン表示

データフォーマットの表示

次のバーコードを読み取ると現在のデータフォーマット設定を表示します。



DFMBK3?.

データフォーマット設定

テストメニュー

テストメニューの有効バーコードを読み取り、次に本書のプログラミングコードを読み取ると、スキャナはプログラミングコードの内容を表示します。プログラミングファンクションはまだ存在しますが、さらにそのプログラミングコードの内容も端末に出力されます。

注意：この機能は、通常の操作では使用しないでください。



EZConfigについて

EZConfigはPCのCOMポートにスキャナを接続することにより、多様なPCベースのプログラミング機能を提供することができます。EZConfigを用いると、スキャナのアップグレードの為にファームウェアをダウンロードしたり、設定済みのパラメータを変更したり、プログラミングバーコードを作成して印刷することができます。さらに、スキャナのプログラミングパラメータを保存したり開いたりすることもできます。この保存ファイルは電子メールで送信でき、必要であれば、カスタマイズされたプログラミングパラメータをすべて含む単一のバーコードを作成し、どこへでもメールやファックスで送信することもできます。他の場所にいるユーザーは、そのバーコードを読み取り、カスタマイズされたプログラミングに組み込むことができます。

スキャナとの通信のため、EZConfigではコンピュータに少なくとも1つの空きシリアル通信ポートか、または物理的なUSBポートを使用したシリアルポートのエミュレーションが必要です。シリアルポートとRS232ケーブルを使用している場合は、外部電源が必要です。USBシリアルポートのエミュレーションを使用しているときには、USBケーブルのみ必要です。

EZConfigの操作

EZConfigソフトウェアでは、以下の操作を実行します。

Scan Data (データ読み取り)

バーコードを読み取って、ウィンドウにバーコードデータを表示することができます。また、シリアルコマンドをスキャナに送信したり、スキャナからの応答を受信したりでき、スキャンデータウィンドウでこれらを確認することができます。スキャンデータウィンドウに表示されるデータは、ファイルに保存することもできれば、印刷することもできます。

Configure (環境設定)

環境設定は、スキャナのプログラミングと環境設定データを表示します。スキャナのプログラミングと環境設定データは、異なるカテゴリに分類されます。各カテゴリは、アプリケーションエクスプローラの「Configure」ツリーノードの下にツリーアイテムとして表示されます。これらのツリーノードの1つをクリックすると、その特定のカテゴリに所属するパラメータのフォームが右側に表示されます。「Configure」ツリーオプションには、スキャナ用に指定したプログラミングと環境設定パラメータのすべてが含まれています。これらのパラメータは、必要に応じて設定または変更できます。変更した設定値を後でスキャナに書き込んだり、dcfファイルに保存したりできます。

ウェブサイトからのEZConfigのインストール

注意：EZConfigには.NETソフトウェアが必要です。お使いのPCに.NETがインストールされていない場合、EZConfigのインストール時に.NETのインストールを促すメッセージが表示されます。

1. www.honeywellaidc.comからハネウェルのウェブサイトアクセスします。
2. 製品タブをクリックしソフトウェアからデバイス管理を選択します。
3. スキャン用EZConfigクラウドをクリックします。
4. ページ下部までスクロールし、**無料登録でアクセスできます!**をクリックし登録してください。

初期設定の再設定



注意：本章ではすべての設定を消去し、スキャナを工場出荷時にリセットを行います。またすべてのプラグインを無効にします。

スキャナにどのプログラムオプションが有効かわからない場合、またはいくつかのオプションを変更し、工場出荷時の設定に復元したい場合、**カスタムデフォルトの削除**バーコードをスキャンし、次に**デフォルトの有効化**をスキャンしてください。これでスキャナは工場出荷時の設定にリセットされます。



DEFOVR.

カスタムデフォルトの削除



DEFAULT.

デフォルトの有効化

注意：コードレスシステムを使用している場合、**デフォルトの有効化**バーコードをスキャンすることでスキャナとベースの両方、またはアクセスポイントにリセットを実行し、リンクが解除されます。設定コードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコード読み取ってください。詳細は[コードレスシステムの操作](#)ページを参照してください。

[メニューコマンド](#)ページでは、各コマンドの工場出荷時の初期設定を示しています（プログラミングページではアスタリスク（*）で表示）。

シリアルプログラミングコマンド

シリアルプログラミングコマンドをプログラミングバーコードの代わりに使用できます。シリアルコマンドとプログラミングバーコードの両方がスキャナをプログラム設定します。各シリアルプログラミングコマンドの詳細と例については、本書の対応するプログラミングバーコードを参照してください。

機器は、RS232インターフェース用に設定する必要があります（7ページ参照）。以下のコマンドは、端末エミュレーションソフトウェアを用いてPC COMポート経由で送信できます。

記述上の語句

メニューとクエリコマンドの記述には、以下の取り決めが用いられています。

Parameter コマンドの一部として送信する実際の値

[option] コマンドのオプション部分

{Data} コマンド内の選択股

Bold 画面に表示されるメニュー、メニューコマンド、ボタン、ダイアログボックス、およびウィンドウの名前

メニューコマンドシンタックス（構文）

メニューコマンドのシンタックスは以下のとおりです。（スペースを用いているのは、単にわかりやすくするためです。）

Prefix [:Name:]Tag SubTag {Data} [, SubTag {Data}] [: Tag SubTag {Data}] [...] Storage

Prefix 3つのASCIIキャラクタ：**SYN M CR**（ASCII 22,77,13）

:Name: このコマンドはコードレスデバイスでのみ使用します。ベースまたはスキャナと通信するかどうかを特定するために使用します。スキャナ（ホストに連結したベースと共に）に情報を送信するために、:Voyager_1472g:を使用します。工場出荷時のVoyager 1472gスキャナの初期設定はVoyager_1472スキャナです。この設定は英数字を許可するBT_NAMコマンドを使用して設定します。名前がわからない場合は、ワイルドカード「*」を*: の形で使用できます。

注意：ベースはすべてのワークグループの設定を保存し、接続されるとすぐにスキャナに転送します。変更はベースに対してのみ行われ、スキャナには行われません。

Tag メニューコマンドグループを識別する大文字小文字の区別しない3キャラクタのフィールド。例えば、すべてのRS232の環境設定は、232というTagで識別されます。

SubTag タググループの中のメニューコマンドグループを識別する大文字・小文字の区別しない3キャラクタのフィールド。例えば、RS232ポーレートのSubTagはBADになります。

Data メニュー設定の新しい値。TagとSubTagで識別されます。

Storage コマンドを適用するストレージテーブルを指定する1つのキャラクタ。感嘆符（!）は、機器の揮発性メモリ上でコマンド操作を実行します。ピリオド（.）の場合は、機器の不揮発性メモリ上でコマンド操作を実行します。不揮発性テーブルは、電源サイクル時に保存したい半永続的な変更の場合だけに使用します。

クエリコマンド

いくつかの特殊キャラクタを使用して、デバイスの設定を確認できます。

^ 設定の初期値

? 機器の現在の設定値

* 設定で可能な範囲（機器のレスポンスでは、ダッシュ（-）で値の連続範囲を示し、パイプ（|）で非連続値の一覧の項目を区切ります。

:Name: フィールドの使い方（オプション）

このコマンドを用いると、スキャナからのクエリ情報を返します。

Tagフィールドの使い方

Tagフィールドに代わってクエリを使用すると、コマンドのStorageフィールドで示された特定のストレージテーブルで使用可能なコマンドのセット全体に質問します。この場合、機器には無視されるのでSubTagおよびDataフィールドは使用しないでください。

SubTagフィールドの使い方

SubTagフィールドに代わってクエリを使用すると、クエリはTagフィールドに一致する使用可能なコマンドのサブセットにのみ適用されます。この場合、Dataフィールドは機器によって無視されるので、使用しないでください。

Dataフィールドの使い方

Dataフィールドに代わってクエリを使用すると、クエリはTagおよびSubTagフィールドで識別される特定コマンドだけに適用されます。

複数コマンドの連結機能

複数のコマンドを1つのPrefix/Storageシーケンス内で使用できます。シーケンス内のコマンドごとに繰り返す必要があるのは、Tag、SubTag、およびDataフィールドだけです。同じTagでコマンドを追加する場合は、新しいコマンドシーケンスをコンマ(,)で区切り、追加コマンドのSubTagおよびDataフィールドだけを記述します。追加コマンドで異なるTagフィールドが必要な場合は、そのコマンドをセミコロン(;)で前のコマンドと区切ります。

レスポンス

機器は、次の3つのレスポンスのいずれか1つでシリアルコマンドに応答します。

ACK 処理された適切なコマンドを示します。

ENQ 無効なTagまたはSubTagコマンドを示します。

NAK コマンドは正しいが、Dataフィールドの入力がこのTagおよびSubTagの組み合わせの許容範囲外。例えば、フィールドが2キャラクタしか受け付けられないときに最小読取桁数の入力が100になっている場合。

応答するとき、機器はコマンドの各句読点（ピリオド、感嘆符、コンマ、またはセミコロン）の直前にステータスキャラクタを挿入したコマンドシーケンスを返します。

クエリコマンドの例

以下の例では、角カッコ[]は非表示レスポンスを示します。

例： Codabar Coding Enableで可能な値の範囲は？

入力： **cbrena***

レスポンス： **CBRENA0-1[ACK]**

Codabar Coding Enable (CBRENA) の値の範囲が0~1 (オフとオン) であることを示します。

例： Codabar Coding Enableの初期設定値は？

入力： **cbrena^**

レスポンス： **CBRENA1[ACK]**

Codabar Coding Enable (CBRENA) の初期設定値が1またはオンであることを示します。

例： Codabar Coding Enableの現在の設定値は？

入力： **cbrena?.**

レスポンス： CBRENA1[ACK]

機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1またはオンであることを示します。

例： すべてのCodabar選択項目に対する機器の設定は？

入力： cbr?.

レスポンス： CBRENA1[ACK],

SSX0[ACK],

CK20[ACK],

CCT1[ACK],

MIN2[ACK],

MAX60[ACK],

DFT[ACK].

このレスポンスは、機器のCodabar Coding Enable (CBRENA) が1またはオンに設定されていることを示しています。スタート/ストップキャラクタ (SSX) は0または送信しないに設定され、チェックキャラクタ (CK2) は0または必要なしに設定され、連結機能 (CCT) は1または有効に設定され、最小読取桁数 (MIN) は2キャラクタに設定され、最大読取桁数 (MAX) は60キャラクタに設定され、またデフォルト設定 (DFT) には値が無いことを示しています。

トリガーコマンド

シリアルトリガーコマンドでスキャナを起動または停止できます。まず、[マニュアルトリガーモード](#)のバーコードを読み取りマニュアルトリガーモードにするか、[シリアルメニューコマンド](#)を送ります。スキャナがいったんシリアルトリガーモードになると、以下のコマンドを送ってトリガーをアクティブ/非アクティブにできます。

起動する： SYN T CR

停止する： SYN U CR

スキャナはバーコードを読み取るか、非アクティブ化コマンドが送信されるか、シリアルタイムアウトになるまで読み取りを実行します。(説明については「[読み取りタイムアウト](#)」ページを、また[シリアルコマンド](#)を参照してください。)

標準の製品初期設定へのリセット

ご使用のスキャナでカスタムデフォルトを修復したい場合、以下の**カスタムデフォルトの起動**バーコードを読み取ってください。これはスキャナの設定をカスタムデフォルト設定に再設定するものです。カスタムデフォルトがない場合は、工場出荷時の初期設定値になります。カスタムデフォルトによって指定されていない設定はすべて工場出荷時設定になります。



DEFAULT.

カスタムデフォルトの起動

注意：。コードレスシステムをご使用の場合、このバーコードを読み取ると、スキャナとベースにもリセットを実行し、リンクが解除されてしまいます。コードを入力する前に、リンクを再確立するためにスキャナをベースに置いてください。アクセスポイントを使用している場合、リンクバーコードを読み取ってください。詳細は[コードレスシステムの操作](#)ページを参照してください

次ページ以降のチャートは、各メニューコマンド（プログラミングページ上アスタリスク (*) で表示）の標準の工場出荷時設定一覧です。

メニューコマンド

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
製品初期設定			
カスタムデフォルトの設定	カスタムデフォルトの設定	MNUCDP	6
	カスタムデフォルトの保存	MNUCDS	6
カスタムデフォルトの再設定	カスタムデフォルトの起動	DEFAULT	6
インターフェースの設定			
プラグ&プレイコード	キーボードウェッジ： IBM PC AT互換機CRサフィックスつき	PAP_AT	7
	ノート型PCとの直接接続、CRサフィックスつき	PAPLTD	7
	RS232インターフェース	PAP232	7
プラグ&プレイ：RS485	IBM Port 5Bインターフェース	PAPP5B	8
	IBM Port 9BHHBCR-1インターフェース	PAP9B1	8
	IBM Port 17インターフェース	PAPP17	8
	IBM Port 9B HHBCR-2インターフェース	PAP9B2	8
	RS485パケットモード有効	RTLPDF1	8
	*RS485パケットモード無効	RTLPDF0	8
	RS485パケット長 (20-256) *40	RTLMP5	8
プラグ&プレイ：IBM SurePos	USB IBM SurePos (USBハンドヘルドスキャナ) インターフェース	PAPSPH	9
	USB IBM SurePos (USBテーブルトップスキャナ) インターフェース	PAPSPT	9
プラグ&プレイ：USB	USBキーボード (PC)	PAP124	9
	USBキーボード (Mac)	PAP125	9
	USB日本語キーボード (PC)	TRMUSB134	9
	USB HIDバーコードスキャナ	PAP131	9
	USBシリアル	TRMUSB130	10
	CTS/RTSエミュレーション有効	USBCTS1	10
	*CTS/RTSエミュレーション無効	USBCTS0	10
	ACK/NAKモード有効	USBACK1	10
	ACK/NAKモード無効*	USBACK0	10
USB用Remote MasterMind	ReM有効	REMIFC0	10
	*ReM無効	REMIFC1	10
プラグ&プレイ	Verifone Ruby端末	PAPRBY	11
	Gilbarco端末	PAPGLB	11
	Honeywell2面式カウンタースキャナ設定	PAPBIO	11
	Datalogic Magellan2面式カウンタースキャナ設定	PAPMAG	11
	NCR2面式カウンタースキャナ	PAPNCR	12
	Wincor Nixdorf端末設定	PAPWNX	12
	Wincor Nixdorf Beetle設定	PAPBTL	12
	Wincor Nixdorf RS232モードA設定	PAPWMA	12

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
国別キーボード	*アメリカ	KBDCTY0	13
	アルバニア	KBDCTY35	13
	アゼリー (キリル文字)	KBDCTY81	13
	アゼリー (ラテン)	KBDCTY80	13
	ベラルーシ	KBDCTY82	13
	ベルギー	KBDCTY1	13
	ボスニア	KBDCTY33	13
	ブラジル	KBDCTY16	13
	ブラジル (MS)	KBDCTY59	13
	ブルガリア (キリル文字)	KBDCTY52	13
	ブルガリア (ラテン)	KBDCTY53	14
	カナダ (フランス語レガシー)	KBDCTY54	14
	カナダ (フランス語)	KBDCTY18	14
	カナダ (多言語)	KBDCTY55	14
	クロアチア	KBDCTY32	14
	チェコ	KBDCTY15	14
	チェコ (プログラマ)	KBDCTY40	14
	チェコ (QWERTY)	KBDCTY39	14
	チェコ (QWERTZ)	KBDCTY38	14
	デンマーク	KBDCTY8	14
	オランダ	KBDCTY11	14
	エストニア	KBDCTY41	14
	フェロー諸島	KBDCTY83	15
	フィンランド	KBDCTY2	15
	フランス	KBDCTY3	15
	ゲール	KBDCTY84	15
	ドイツ	KBDCTY4	15
	ギリシャ	KBDCTY17	15
	ギリシャ (220ラテン語)	KBDCTY64	15
	ギリシャ (220)	KBDCTY61	15
	ギリシャ (319ラテン語)	KBDCTY65	15
	ギリシャ (319)	KBDCTY62	15
	ギリシャ (ラテン)	KBDCTY63	15
	ギリシャ (MS)	KBDCTY66	15
	ギリシャ (ポリティニック)	KBDCTY60	16
	ヘブライ語	KBDCTY12	16
	ハンガリー語 (101キー)	KBDCTY50	16
	ハンガリー	KBDCTY19	16
	アイスランド	KBDCTY75	16
	アイルランド	KBDCTY73	16
	イタリア語 (142)	KBDCTY56	16
	イタリア	KBDCTY5	16
	日本語ASCII	KBDCTY28	16
	カザフスタン	KBDCTY78	16
	キルギスタン (キリル文字)	KBDCTY79	16
	ラテンアメリカ	KBDCTY14	16
	ラトビア	KBDCTY42	17
	ラトビア (QWERTY)	KBDCTY43	17
	リトアニア	KBDCTY44	17
	リトアニア (IBM)	KBDCTY45	17
	マケドニア	KBDCTY34	17
マルタ	KBDCTY74	17	
モンゴル (キリル文字)	KBDCTY86	17	
ノルウェー	KBDCTY9	17	
ポーランド	KBDCTY20	17	
ポーランド語 (214)	KBDCTY57	17	
ポーランド語 (プログラマ)	KBDCTY58	17	
ポルトガル	KBDCTY13	17	
ルーマニア	KBDCTY25	18	
ロシア	KBDCTY26	18	
ロシア (MS)	KBDCTY67	18	
ロシア (タイプライター)	KBDCTY68	18	
SCS	KBDCTY21	18	
セルビア (キリル文字)	KBDCTY37	18	

選択項目	設定	シリアルコマンド	ページ
	*初期設定	非数値入力を示す	
	セルビア (ラテン)	KBDCTY36	18
	スロヴァキア	KBDCTY22	18
	スロヴァキア (QWERTY)	KBDCTY49	18
	スロヴァキア (QWERTZ)	KBDCTY48	18
	スロヴェニア	KBDCTY31	18
	スペイン	KBDCTY10	18
	スペイン語 (バリエーション)	KBDCTY51	19
	スウェーデン	KBDCTY23	19
	スイス (フランス語)	KBDCTY29	19
	スイス (ドイツ語)	KBDCTY6	19
	タタール語	KBDCTY85	19
	トルコF	KBDCTY27	19
	トルコQ	KBDCTY24	19
	ウクライナ	KBDCTY76	19
	イギリス	KBDCTY7	19
	アメリカ (右手用Dvorak)	KBDCTY89	19
	アメリカ (左手用Dvorak)	KBDCTY88	19
	アメリカ (Dvorak)	KBDCTY87	19
	アメリカ (インターナショナル)	KBDCTY30	19
	ウズベキスタン (キリル文字)	KBDCTY77	19
キーボードの変換	*キーボード変換無効	KBDCNV0	21
	すべての文字を大文字に変換	KBDCNV1	21
	すべての文字を小文字に変換	KBDCNV2	21
キーボードスタイル	*レギュラー	KBDSTY0	20
	Caps Lock	KBDSTY1	20
	Shift Lock	KBDSTY2	20
	自動Caps Lock	KBDSTY6	20
	外付けキーボードのエミュレート	KBDSTY5	20
制御キャラクタの出力	*制御文字出力無効	KBDNPE0	21
	*制御文字出力有効	KBDNPE1	21
キーボードの設定	*Control + Xモード無効	KBDCAS0	21
	DosモードのControl + Xモード有効	KBDCAS1	21
	WindowsモードのControl + Xモード有効	KBDCAS2	21
	WindowsモードPrefix/Suffix無効	KBDCAS3	21
	*ターボモード無効	KBDTMD0	22
	ターボモード有効	KBDTMD1	22
	*数字キーパッド無効	KBDNPS0	22
	数字キーパッド有効	KBDNPS1	22
	*自動直接接続無効	KBDADC0	22
	自動直接接続有効	KBDADC1	22
ボーレート	300bps	232BAD0	22
	600bps	232BAD1	22
	1200bps	232BAD2	22
	2400bps	232BAD3	22
	4800bps	232BAD4	22
	9600bps	232BAD5	23
	19200bps	232BAD6	23
	38400bps	232BAD7	23
	57600bps	232BAD8	23
	*115200bps	232BAD9	23
ワード長: データビットストップビットパリティ	7データビット、1ストップビット、偶数	232WRD3	23
	7データビット、1ストップビット、パリティなし	232WRD0	23
	7データビット、1ストップビット、奇数	232WRD6	23
	7データビット、2ストップビット、偶数	232WRD4	23
	7データビット、2ストップビット、パリティなし	232WRD1	23
	7データビット、2ストップビット、奇数	232WRD7	23
	8データビット、1ストップビット、偶数	232WRD5	24
	8データビット、1ストップビット、パリティなし	232WRD2	24
	8データビット、1ストップビット、奇数	232WRD8	24

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
RS232レシーバタイムアウト	0~300	232LPT###	24
RS232ハンドシェイク	*RTS/CTS無効	232CTS0	24
	フロー制御、タイムアウトなし	232CTS1	25
	二方向フロー制御	232CTS2	24
	フロー制御、タイムアウトあり	232CTS3	24
	RS232レシーバタイムアウト	232DEL#####	24
	*XON/XOFF無効	232XON0	25
	XON/XOFF有効	232XON1	25
	*ACK/NAK無効	232ACK0	25
2面式カウンタースキャナパケットモード	ACK/NAK有効	232ACK1	25
	*パケットモード無効	232PKT0	25
2面式カウンタースキャナパケットモード	パケットモード有効	232PKT2	25
	*2面式カウンタースキャナACK/NAK無効	232NAK0	26
ACK/NAKモード	2面式カウンタースキャナACK/NAK有効	232NAK1	26
2面式カウンタースキャナACK/ NAKタイムアウト	ACK/NAK タイムアウト *5100	232DLK#####	26
コードレスシステムの操作 注意：本項はコードレスシステムのみを対象としています。コードつきスキャナには適用できませんので、ご注意ください。			
ベースパワー通信インジケータ	*有効	:::BASRED1	31
	無効	:::BASRED0	32
スキャナのリセット	スキャナのリセット	RESET_	32
ベースユニット上での読み取り	ベースに置いた状態での読取禁止	BT_SIC0	32
	*ベースに置いた状態での読取許可	BT_SIC1	32
	ベースに置いてスキャナをシャットダウン	BT_SIC2	32
ベースチャージモード	ベースチャージ無効	BASCHG0	32
	*外部またはインターフェースケーブル電源	BASCHG1	33
	外部電源のみ	BASCHG2	33
ページングモード	*ページングモード有効	BEPPGE1	33
	ページングモード無効	BEPPGE0	33
ページング音の音程	*低 (1000Hz)	BEPPFQ1000	33
	中 (3250Hz)	BEPPFQ3250	33
	高 (4200Hz)	BEPPFQ4200	33
ブザー音の音程：ベースユニットのエラー発生時	*低 (250) (最小200Hz)	BASFQ2250	33
	中 (3250Hz)	BASFQ23250	33
	高 (4200Hz) (最大9000Hz)	BASFQ24200	34
ブザー音の回数：ベースユニットのエラー発生時	ベース：エラー発生時のブザー回数およびLED点滅 *1 (1-9)	BASERR#	34
スキャナレポート	スキャナレポート	RPTSCN	34
スキャナのアドレス	スキャナのアドレス	BT_LDA	34
ベースアドレス	ベースアドレス	:::BASLDA	34
スキャナモード	充電限定モード	:::BASLNK0	35
	*充電および通信モード	:::BASLNK1	35
	通信固定モード	BASCON0,DNG1	35
	*通信オープンモード	BASCON1,DNG1	35
	スキャナとの通信解除	BT_RMV	36
	通信固定されたスキャナの上書き	BT_RPL1	36
通信範囲外警告	ベースアラームの鳴動時間 (範囲1-3000ミリ秒) *0	BASORD#####	36
	スキャナアラームの鳴動時間 (範囲1-3000ミリ秒) *0	BT_ORD#####	36
警告ブザーの種類	ベースアラームの種類 (0-7) *0	BASORW	36
	スキャナアラームの種類 (0-7) *0	BT_ORW	37
スキャナパワータイムアウトタイマー	0秒	BT_LPT0	37
	200秒	BT_LPT200	37
	400秒	BT_LPT400	37
	900秒	BT_LPT900	37
	*3600秒	BT_LPT3600	37
	7200秒	BT_LPT7200	37

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
出力管理	*フルパワー (100%)	BT_TXP100	38
	出力 - 中 (35%)	BT_TXP35	38
	出力 - 中低 (5%)	BT_TXP5	38
	出力 - 低 (1%)	BT_TXP1	38
バッチモード	自動バッチモード	BATENA1	38
	*バッチモード無効	BATENA0	38
	インベントリバッチモード	BATENA2	38
	持続バッチモード	BATENA3	38
バッチモード：ブザー音	無効	BATBEP0	39
	*有効	BATBEP1	39
バッチモード：保存形式	*フラッシュメモリに保存	BATNVS1	39
	RAMメモリに保存	BATNVS0	39
バッチモード：個数	*無効	BATQTY0	39
	有効	BATQTY1	39
個数コード	0	BATNUM0	40
	*1	BATNUM1	40
	2	BATNUM2	40
	3	BATNUM3	40
	4	BATNUM4	40
	5	BATNUM5	40
	6	BATNUM6	41
	7	BATNUM7	41
	8	BATNUM8	41
	9	BATNUM9	41
バッチモード：出力順序	先入先出	BATLIF0	41
	後入先出	BATLIF1	41
レコードの合計件数	レコードの合計件数	BATNRC	41
最後のコードを削除	最後のコードを削除	BATUND	41
すべてのコードを削除	すべてのコードを削除	BATCLR	41
保存したデータをホストへ送信	インベントリのレコードをホストへ送信	BAT_TX	42
バッチモード：送信ディレイ (間隔)	*無効 (ディレイなし)	BATDLY0	42
	短 (250ミリ秒)	BATDLY250	42
	中 (500ミリ秒)	BATDLY500	42
	長 (1,000ミリ秒)	BATDLY1000	42
複数スキャナ操作モード	複数スキャナ操作モード	BASCON2,DNG3	42
スキャナ名	スキャナ名1~7	BT_NAM#####	43
	リセット	RESET_	43
	スキャナ名	BT_NAM	43
アプリケーションワークグループ選択項目	*グループ0	GRPSEL0	44
	グループ1~6	GRPSEL#	44
初期設定へのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	工場出荷時設定にリセット：すべてのワークグループ	PAPDFT&	44
カスタムデフォルトへのリセット：すべてのアプリケーションワークグループ	カスタムデフォルト設定：すべてのワークグループ	PAPDFT	45
Bluetooth接続	*Bluetooth SPP有効	BT_SSP1	45
	Bluetooth SPP無効	BT_SSP0	45
	Bluetooth HIDキーボード接続	PAPBTH	45
	Bluetooth HID日本語キーボード接続	PAPJKB	45
	Bluetooth HIDキーボード通信切断	PAPSPP	47
	ベースなしBT接続	BT_TRM0;BT_DNG5	47
	PDA/ハンディターミナルBluetooth接続	BT_TRM0;BT_DNG1	47
	Bluetooth暗証コード	BT_PIN	47
自動再接続モード	*自動再接続有効	BT_ACM1	48
	自動再接続無効	BT_ACM0	48
再接続試行最高限度回数	再接続試行最高限度回数	BT_MLA	48
再接続タイムアウト	再接続タイムアウト	BT_RLT	49
ホストコマンドのACK	ホストACK有効	HSTACK1	50
	*ホストACK無効	HSTACK0	50
	ホストACKタイムアウト	HSTATO	50

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
入力・出力設定			
起動ブザー	スキャナ、起動ブザー無効	BEPWRO	52
	*スキャナ、起動ブザー有効	BEPWR1	52
	コードレスペース、起動ブザー無効	BASPWR0	52
	コードレスペース、起動ブザー有効	BASPWR1	52
BELブザー	BELブザー有効	BELBEP1	52
	*BELブザー無効	BELBEP0	52
トリガークリック音	有効	BEPTRG1	52
	*無効	BEPTRG0	52
読取成功時ブザー	無効	BEPBEP0	53
	*有効	BEPBEP1	53
読取成功時ブザー：音量	なし	BEPLVL0	53
	小	BEPLVL1	53
	中	BEPLVL2	53
	*大	BEPLVL3	53
読取成功時ブザー：音程	低 (1600) (最低 400Hz)	BEPFQ11600	53
	*中 (2400Hz)	BEPFQ12400	53
	高 (4200) (最大 9000Hz)	BEPFQ14200	53
読取失敗およびエラー発生時ブザー：音程	*低 (250) (最小 200Hz)	BEPFQ2250	54
	*中 (3250Hz)	BEPFQ23250	54
	高 (4200Hz) (最大 9000Hz)	BEPFQ24200	54
読取成功時ブザー：長さ	*通常	BEPBIP0	54
	短いビーブ音	BEPBIP1	54
読取成功時：LED	無効	BEPLD0	54
	*有効	BEPLD1	54
エラーブザーの回数：	*1	BEPERR3	54
	1~9	BEPERR#	54
読取成功時ブザー：回数	*1	BEPRPT1	54
	1~9	BEPRPT#	54
読取成功ディレイ	*ディレイなし	DLYGRD0	55
	短いディレイ (500ミリ秒)	DLYGRD500	55
	中位のディレイ (1000ミリ秒)	DLYGRD1000	55
	長いディレイ (1500ミリ秒)	DLYGRD1500	55
ユーザー定義の読取成功ディレイ	0~30,000ミリ秒	DLYGRD#####	55
マニュアルトリガーモード	*マニュアルトリガー標準	PAPHHF	55
LED照明：マニュアルトリガーモード	低	PWRNOL7	55
	中	PWRNOL15	55
	*高	PWRNOL150	55
シリアルトリガーモード	読み取りタイムアウト (0~300,000ミリ秒) *30,000	TRGSTO####	56
プレゼンテーションモード	プレゼンテーションモード	PAPTPR	56
アイドル照明：プレゼンテーションモード	低	PWRIDL7	56
	中	PWRIDL15	56
	*高	PWRIDL50	56
プレゼンテーション感度	0-20(*1)	TRGPMS##	57
プレゼンテーションセンタリングウィンドウ	プレゼンテーションセンタリング有効	PDCWIN1	58
	*プレゼンテーションセンタリング無効	PDCWIN0	58
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ左 (*40%)	PDCLFT###	58
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ右 (*60%)	PDCRGT###	58
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ上 (*40%)	PDCTOP###	58
	プレゼンテーションセンタリングウィンドウ下 (*60%)	PDCBOT###	58

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
スタンド使用時のセンサーモード	センサー有効	TRGSSW1	58
	センサー無効	TRGSSW0	58
低品質コード	低品質1D読取有効	DECLDI1	58
	*低品質1D読取無効	DECLDI0	58
	*低品質PDF読取有効	PDFXPR10	59
	低品質PDF読取無効	PDFXPR0	59
CodeGate®	*スタンド不使用時CodeGate無効	AOSCGD0.	59
	スタンド不使用時CodeGate有効	AOSCGD1.	59
ハンズフリータイムアウト	0~300,000ミリ秒	TRGPTO#####	59
再読取ディレイ	短 (500ミリ秒)	DLYRRD500	60
	*中 (750ミリ秒)	DLYRRD750	60
	長 (1000ミリ秒)	DLYRRD1000	60
	エクストラロング (2000ミリ秒)	DLYRRD2000	60
ユーザー定義の再読取ディレイ	0~30,000ミリ秒	DLYRRD#####	60
2D再読取ディレイ	*2D再読取ディレイ無効	DLY2RR0	60
	短 (1000ミリ秒)	DLY2RR1000	60
	中 (2000ミリ秒)	DLY2RR2000	60
	長 (3000ミリ秒)	DLY2RR3000	60
	エクストラロング (4000ミリ秒)	DLY2RR4000	60
キャラクタ有効化モード	*無効	HSTCEN0	61
	有効	HSTCEN1	61
	キャラクタ有効化	HSTACH###	61
	*読取成功後の終端文字アクティベーション無効	HSTCGD0	61
	読取成功後の終端文字アクティベーション無効	HSTCGD1	61
	キャラクタ有効化タイムアウト (1~65,535) *5,000ms	HSTCDT#####	61
キャラクタ無効化モード	*無効	HSTDEN0	61
	有効	HSTDEN1	62
	キャラクタ無効化	HSTDCH###	62
照明ライト	*ライトオン	SCNLED1	62
	ライトオフ	SCNLED0	62
エイマーディレイ	200ms (ミリ秒)	SCNDLY200	62
	400ms (ミリ秒)	SCNDLY400	62
	*無効	SCNDLY0	62
ユーザー定義のエイマーディレイ	ディレイ時間 0~4,000ミリ秒	SCNDLY#####	62
エイマーモード	常に無効	SCNAIM0	63
	常に有効	SCNAIM3	63
	*パルスモード	SCNAIM5	63
センタリングウィンドウ	センタリング有効	DECWIN1	64
	*センタリング無効	DECWIN0	64
	センタリングウィンドウ左 (*40%)	DECLFT###	64
	センタリングウィンドウ右 (*60%)	DECRGT###	64
	センタリングウィンドウ上 (*40%)	DECTOP###	64
	センタリングウィンドウ下 (*60%)	DECBOT###	64
	ターミネーションストリング	FF	
No Read	有効	SHWNRD1	64
	*無効	SHWNRD0	64
ビデオリバース (反転コード)	反転コードのみ有効	VIDREV1	64
	反転および標準コード有効	VIDREV2	65
	*反転バーコード無効	VIDREV0	65
動作方向	*正面	ROTATN0	65
	垂直、下から上 (反時計回りに90°回転)	ROTATN1	65
	上下逆さ	ROTATN2	65
	垂直、上から下 (時計回りに90°回転)	ROTATN3	65

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
プレフィックス/サフィックスの設定			
CRサフィックスをすべてのシンボルに付加		VSUFRCR	67
プレフィックス	プレフィックスの追加	PREBK2##	67
	プレフィックス1つ削除	PRECL2	68
	すべてのプレフィックス削除	PRECA2	68
サフィックス	サフィックスの追加	SUFBK2##	68
	サフィックス1つ削除	SUFCL2	68
	すべてのサフィックス削除	SUFCA2	68
ファンクションコード送信	*有効	RMVFNC0	68
	無効	RMVFNC1	68
キャラクタ間ディレイ	0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYCHR##	69
ユーザー定義 キャラクタ間ディレイ	ディレイ長: 0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYCRX##	69
	ディレイトリガー文字	DLY_XX##	69
ファンクション間ディレイ	0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYFNC##	69
メッセージ間ディレイ	0~5000ミリ秒 (5ミリ秒ごとの設定)	DLYMSG##	69
データフォーマッタの設定			
データフォーマットエディタ	*データフォーマット初期設定 (なし)	DFMDF3	71
	データフォーマット表示	DFMBK3?	71
	データフォーマットの入力	DFMBK3##	72
	データフォーマット1つ削除	DFMCL3	72
	すべてのデータフォーマットの削除	DFMCA3	72
データフォーマット	データフォーマッタ無効	DFM_EN0	79
	*データフォーマッタ有効、要求しない、プレフィックス/サフィックスあり	DFM_EN1	80
	データフォーマット要求する、プレフィックス/サフィックスあり	DFM_EN2	80
基準・代用データフォーマット	基準データフォーマット	ALTFNM0	80
	データフォーマット1	ALTFNM1	80
	データフォーマット2	ALTFNM2	80
	データフォーマット3	ALTFNM3	80
読み取りシンボル			
すべてのシンボル	すべてのシンボル無効	ALLENA0	81
	すべてのシンボル有効	ALLENA1	81
Codabar	設定をすべて初期化	CBRDFT	82
	無効	CBRENA0	82
	*有効	CBRENA1	82
Codabarスタート/ストップキャラクタ	*送信なし	CBRSSX0	82
	送信する	CBRSSX1	82
Codabarチェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	CBRCK20	83
	モジュラス16検証、送信なし	CBRCK21	83
	モジュラス16検証、送信する	CBRCK22	83
Codabarの連結機能	*無効	CBRCCT0	83
	有効	CBRCCT1	83
	要求する	CBRCCT2	83
Codabar読取桁数	最小読取桁数 (2~60) *4	CBRMIN##	83
	最大読取桁数 (2~60) *60	CBRMAX##	83
Code39	設定をすべて初期化	C39DFT	83
	無効	C39ENA0	84
	*有効	C39ENA1	84
Code39スタートストップキャラクタ	*送信なし	C39SSX0	84
	送信する	C39SSX1	84
Code39チェックキャラクタ	*チェックキャラクタなし	C39CK20	84
	有効、送信なし	C39CK21	84
	有効、送信する	C39CK22	84
Code39読取桁数	最小読取桁数 (0~48) *0	C39MIN##	84
	最大読取桁数 (0~48) *48	C39MAX##	84
Code39の連結機能	*無効	C39APP0	85
	有効	C39APP1	85
Code32 Pharmaceutical (PARAF)	*無効	C39B320	85
	有効	C39B321	86

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
Code39 FullASCII	*無効	C39ASC0	86
	有効	C39ASC1	85
	Code39コードページ	C39DCP	86
Interleaved 2 of 5	Interleaved 2 of 5設定をすべて初期化	I25DFT	86
	無効	I25ENA0	86
	*有効	I25ENA1	86
Interleaved 2 of 5チェックデジット	*チェックデジット無効	I25CK20	86
	有効、送信なし	I25CK21	86
	有効、送信する	I25CK22	86
Interleaved 2 of 5読取桁数	最小読取桁数 (2~80) *4	I25MIN##	87
	最大読取桁数 (2~80) *80	I25MAX##	87
NEC 2 of 5	NEC 2 of 5設定をすべて初期化	N25DFT	87
	無効	N25ENA0	87
	*有効	N25ENA1	87
NEC 2 of 5チェックデジット	*チェックデジット無効	N25CK20	87
	有効、送信なし	N25CK21	87
	有効、送信する	N25CK22	87
NEC 2 of 5読取桁数	最小読取桁数 (2~80) *4	N25MIN##	88
	最大読取桁数 (2~80) *80	N25MAX##	88
Code93	Code93設定をすべて初期化	C93DFT	88
	無効	C93ENA0	88
	*有効	C93ENA1	88
Code93読取桁数	最小読取桁数 (0~80) *0	C93MIN##	88
	最大読取桁数 (0~80) *80	C93MAX##	88
Code93連結機能	有効	C93APP1	88
	*無効	C93APP0	88
Code93コードページ	Code93コードページ	C93DCP	89
Straight 2 of 5 Industrial (3バースタート/ストップ)	設定をすべて初期化	R25DFT	89
	*無効	R25ENA0	89
	有効	R25ENA1	89
Straight 2 of 5 Industrial読取桁数	最小読取桁数 (1~48) *4	R25MIN##	89
	最大読取桁数 (1~48) *48	R25MAX##	89
Straight 2 of 5 IATA	Straight 2 of 5 IATA設定をすべて初期化	A25DFT	89
	*無効	A25ENA0	90
Straight 2 of 5 IATA (2バースタート/ストップ)	有効	A25ENA1	90
	最小読取桁数 (1~48) *4	A25MIN##	90
Straight 2 of 5 IATA読取桁数	最大読取桁数 (1~48) *48	A25MAX##	90
	Matrix 2 of 5設定をすべて初期化	X25DFT	90
Matrix 2 of 5	*無効	X25ENA0	90
	有効	X25ENA1	90
	最小読取桁数 (1~80) *4	X25MIN##	90
Matrix 2 of 5読取桁数	最大読取桁数 (1~80) *80	X25MAX##	90
	Code11設定をすべて初期化	C11DFT	91
Code11	*無効	C11ENA0	91
	有効	C11ENA1	91
	1チェックデジット	C11CK20	91
Code11チェックデジットの要求	*2チェックデジット	C11CK21	91
	最小読取桁数 (1~80) *4	C11MIN##	91
Code11読取桁数	最大読取桁数 (1~80) *80	C11MAX##	91
	Code128設定をすべて初期化	128DFT	91
Code128	無効	128ENA0	91
	*有効	128ENA1	91
	ISBTの連結機能	ISBENA0	92
ISBTの連結機能	有効	ISBENA1	92
	最小読取桁数 (0~80) *0	128MIN##	92
Code128読取桁数	最大読取桁数 (0~80) *80	128MAX##	92
	*有効	128APP1	92
Code128連結機能	無効	128APP0	92
	Code128コードページ (*2)	128DCP##	92

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
GS1-128	GS1-128設定をすべて初期化	GS1DFT	93
	*有効	GS1ENA1	93
	無効	GS1ENA0	93
GS1-128読取桁数	最小読取桁数 (1~80) *1	GS1MIN##	93
	最大読取桁数 (0~80) *80	GS1MAX##	93
UPC-A	UPC-A設定をすべて初期化	UPADFT	93
	無効	UPAENA0	93
	*有効	UPAENA1	93
UPC-Aチェックデジット	無効	UPACKX0	94
	*有効	UPACKX1	94
UPC-Aシステム番号	無効	UPANSX0	94
	*有効	UPANSX1	94
UPC-A2桁のアドオン	*無効	UPAAD20	94
	有効	UPAAD21	94
UPC-A5桁のアドオン	*無効	UPAAD50	94
	有効	UPAAD51	94
UPC-Aアドオンの要求	*要求しない	UPAARQ0	94
	要求する	UPAARQ1	94
UPC-Aアドオンセパレータ	無効	UPAADS0	95
	*有効	UPAADS1	95
拡張クーポンコード付きUPC-A/EAN-13	*無効	CPNENA0	95
	連結許可	CPNENA1	95
	連結必須	CPNENA2	95
クーポンGS1データバー出力	*GS1出力無効	CPNGS10	95
	GS1出力有効	CPNGS11	95
UPC-E0	UPC-E0設定をすべて初期化	UPEDFT	95
	無効	UPEEN00	96
	*有効	UPEEN01	96
UPC-E0拡張	*無効	UPEEXP0	96
	有効	UPEEXP1	96
UPC-E0アドオンの要求	要求する	UPEARQ1	96
	*要求しない	UPEARQ0	96
UPC-E0アドオンセパレータ	*有効	UPEADS1	96
	無効	UPEADS0	96
UPC-E0チェックデジット	無効	UPECKX0	97
	*有効	UPECKX1	97
UPC-E0システム番号	無効	UPENSX0	97
	*有効	UPENSX1	97
UPC-E0アドオン	2桁のアドオン許可	UPEAD21	97
	*2桁のアドオン禁止	UPEAD20	97
	5桁のアドオン許可	UPEAD51	97
	*5桁のアドオン禁止	UPEAD50	97
UPC-E1	*無効	UPEEN10	97
	有効	UPEEN11	97
EAN/JAN-13	EAN/JAN-13設定をすべて初期化	E13DFT	98
	無効	E13ENA0	98
	*有効	E13ENA1	98
UPC-AからEAN-13への変換	UPC-AからEAN-13への変換	UPAENA0	98
	UPC-Aの変換禁止	UPAENA1	98
EAN/JAN-13チェックデジット	無効	E13CKX0	98
	*有効	E13CKX1	98
EAN/JAN-13アドオン	2桁のアドオン許可	E13AD21	98
	*2桁のアドオン禁止	E13AD20	98
	5桁のアドオン許可	E13AD51	99
	*5桁のアドオン禁止	E13AD50	99
EAN/JAN-13アドオンの要求	*要求しない	E13ARQ0	99
	要求する	E13ARQ1	99
EAN/JAN-13アドオンセパレータ	無効	E13ADS0	99
	*有効	E13ADS1	99
ISBN変換	*無効	E13ISB0	99
	有効	E13ISB1	99

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
EAN/JAN-8	EAN/JAN-8設定をすべて初期化	EA8DFT	99
	無効	EA8ENA0	100
	*有効	EA8ENA1	100
EAN/JAN-8チェックデジット	無効	EA8CKX0	100
	*有効	EA8CKX1	100
EAN/JAN-8アドオン	*2桁のアドオン禁止	EA8AD20	100
	2桁のアドオン許可	EA8AD21	100
	*5桁のアドオン禁止	EA8AD50	100
	5桁のアドオン許可	EA8AD51	100
EAN/JAN-8アドオンの要求	*要求しない	EA8ARQ0	100
	要求する	EA8ARQ1	100
EAN/JAN-8アドオンセパレータ	無効	EA8ADS0	101
	*有効	EA8ADS1	100
MSI	MSI設定をすべて初期化	MSIDFT	101
	*無効	MSIENA0	101
	有効	MSIENA1	101
MSIチェックキャラクタ	*タイプ10有効、送信なし	MSICHK0	101
	タイプ10有効、送信あり	MSICHK1	101
	タイプ10有効、2キャラクタ、送信なし	MSICHK2	101
	タイプ10有効、2キャラクタ、送信する	MSICHK3	101
	タイプ10、そしてタイプ11有効、送信なし	MSICHK4	101
	タイプ10、そしてタイプ11有効、送信する	MSICHK5	102
	MSIチェックキャラクタ無効	MSICHK6	101
MSI読取桁数	最小読取桁数 (4~48) *4	MSIMIN##	102
	最大読取桁数 (4~48) *48	MSIMAX##	102
GS1データバー標準型	GS1データバー標準型設定をすべて初期化	RSSDFT	102
	無効	RSEENA0	102
	*有効	RSEENA1	102
GS1データバー限定型	GS1データバー限定型設定をすべて初期化	RSLDFT	102
	無効	RSLENA0	102
	*有効	RSLENA1	102
GS1データバー拡張型	GS1データバー拡張型設定をすべて初期化	RSEDFT	103
	無効	RSEENA0	103
	*有効	RSEENA1	103
GS1データバー拡張型読取桁数長	最小読取桁数 (4~74) *4	RSEMIN##	103
	最大読取桁数 (4~74) *74	RSEMAX##	103
Codablock A	Codablock A設定をすべて初期化	CBADFT	103
	*無効	CBAENA0	103
	有効	CBAENA1	103
Codablock A読取桁数長	最小読取桁数 (1~600) *1	CBAMIN###	103
	最大読取桁数 (1~600) *600	CBAMAX###	104
Codablock F	Codablock F設定をすべて初期化	CBFDFT	104
	*無効	CBFENA0	104
	有効	CBFENA1	104
Codablock F読取桁数長	最小読取桁数 (1~2048) *1	CBFMIN####	104
	最大読取桁数 (1~2048) *2048	CBFMAX####	104
PDF417	PDF417設定をすべて初期化	PDFDFT	104
	*有効	PDFENA1	104
	無効	PDFENA0	104
MicroPDF417読取桁数長	最小読取桁数 (1-2750) *1	PDFMIN####	105
	最大読取桁数 (1-2750) *2750	PDFMAX####	105
MacroPDF417	*有効	PDFMAC1	105
	無効	PDFMAC0	105
MicroPDF417	MicroPDF417設定をすべて初期化	MPDDFT	105
	有効	MPDENA1	105
	*無効	MPDENA0	105
MicroPDF417読取桁数長	最小読取桁数 (1-366) *1	MPDMIN###	105
	最大読取桁数 (1-366) *366	MPDMAX###	105
GS1コンポジットシンボル	有効	COMENA1	106
	*無効	COMENA0	106

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
UPC/EANバージョン	有効	COMUPC1	106
	*無効	COMUPC0	106
GS1コンジットシンボル読取桁数長	最小読取桁数 (1-2435) *1	COMMIN####	106
	最大読取桁数 (1-2435) *2435	COMMAX####	106
GS1エミュレーション	GS1-128エミュレーション	EANEMU1	107
	GS1データバーエミュレーション	EANEMU2	107
	GS1コード拡張無効	EANEMU3	107
	EAN8からEAN13へ変換	EANEMU4	107
	*GS1エミュレーション無効	EANEMU0	107
TCIF Linked Code39 (TLC39)	有効	T39ENA1	107
	*無効	T39ENA0	107
QRコード	QRコード設定をすべて初期化	QRCDFT	107
	*有効	QRCENA1	107
	無効	QRCENA0	107
QRコード読取桁数長	最小読取桁数 (1-7089) *1	QRCMIN####	108
	最大読取桁数 (1-7089) *7089	QRCMAX####	108
QRコード連結機能	*1回スキャン	QRCAPP1	108
	スワイプ	QRCAPP2	108
	ポイントとシュート	QRCAPP3	108
	無効	QRCAPP0	108
QRコードコードページ	QRコードコードページ (*3)	QRCDCP##	108
Data Matrix	Data Matrix設定をすべて初期化	IDMDFT	109
	*有効	IDMENA1	109
	無効	IDMENA0	109
Data Matrix読取桁数長	最小読取桁数 (1-3116) *1	IDMMIN####	109
	最大読取桁数 (1-3116) *3116	IDMMAX####	109
Data Matrixコードページ	Data Matrixコードページ (*51)	IDMDCP##	109
MaxiCode	MaxiCode設定をすべて初期化	MAXDFT	109
	有効	MAXENA1	109
	*無効	MAXENA0	110
MaxiCode読取桁数長	最小読取桁数 (1-150) *1	MAXMIN###	110
	最大読取桁数 (1-150) *150	MAXMAX###	110
Aztecコード	Aztec設定をすべて初期化	AZTDFT	110
	*有効	AZTENA1	110
	無効	AZTENA0	110
Aztecコード読取桁数	最小読取桁数 (1-3832) *1	AZTMIN####	110
	最大読取桁数 (1-3832) *3832	AZTMAX####	110
Aztec連結機能	*1回スキャン	AZTAPP1	111
	スワイプ	AZTAPP2	111
	ポイントとシュート	AZTAPP3	111
	無効	AZTAPP0	111
Aztecコードページ	Aztecコードページ (*51)	AZTDCP##	111
中国漢信 (Han Xin) コード	漢信コード設定をすべて初期化	HX_DFT	111
	有効	HX_ENA1	111
	*無効	HX_ENA0	111
中国郵便コード (漢信コード) 読取桁数長	最小読取桁数 (1-7833) *1	HX_MIN####	111
	最大読取桁数 (1-7833) *7833	HX_MAX####	111
2次元郵便コード			
2次元郵便コード (単独)	*無効	POSTAL0	112
2次元郵便コード (単独)	オーストラリア郵便有効	POSTAL1	112
	イギリス郵便有効	POSTAL7	112
	カナダ郵便有効	POSTAL30	112
	インテリジェントメール有効	POSTAL10	112
	日本郵便有効	POSTAL3	112
	KIX有効	POSTAL4	112
	Planetコード有効	POSTAL5	112
	Postal-4i有効	POSTAL9	112
	Postnetコード有効	POSTAL6	112
	Postnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL11	112
	InfoMail有効	POSTAL2	112

選択項目	設定 *初期設定	シリアルコマンド 非数値入力を示す	ページ
2次元郵便コード（組み合わせ）	Infomailおよびイギリス郵便有効	POSTAL8	113
	インテリジェントメールバーコードおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL20	113
	PostnetおよびPostal- 4i有効	POSTAL14	113
	Postnetおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL16	113
	Postal-4iおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL17	113
	Postal-4iおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL19	113
	PlanetおよびPostnet 有効	POSTAL12	113
	PlanetおよびPostnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL18	113
	PlanetおよびPostal-4i 有効	POSTAL13	113
	Planetおよびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL15	113
	Planet、Postnet、およびPostal-4i有効	POSTAL21	113
	Planet、Postnet、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL22	113
2次元郵便コード（組み合わせ） （続き）	Planet、Postal-4i、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL23	113
	Postnet、Postal-4i、およびインテリジェントメールバーコード有効	POSTAL24	113
	Planet、Postal-4i、Postnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL25	114
	Planet、インテリジェントメールバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL26	114
	Postal-4i、インテリジェントメールバーコード、Postnet BおよびB'フィールド有効	POSTAL27	114
	Planet、Postal-4i、インテリジェントメールバーコード、Postnet有効	POSTAL28	114
Planetコードチェックデジット	送信する	PLNCKX1	114
	送信なし	PLNCKX0	114
Postnetチェックデジット	送信する	NETCKX1	114
	*送信なし	NETCKX0	114
オーストラリア郵便	バー出力	AUSINT0	115
	数字Nテーブル	AUSINT1	115
	英数字Cテーブル	AUSINT2	115
	NおよびCの組み合わせ	AUSINT3	115
1次元郵便コード			
中国郵便コード（香港 2 of 5）	中国郵便コード（香港 2 of 5）設定をすべて初期化	CPCDFT	115
	*無効	CPCENA0	115
	有効	CPCENA1	115
中国郵便コード（香港 2 of 5）読取桁数長	最小読取桁数（2～80）*4	CPCMIN##	115
	最大読取桁数（2～80）*80	CPCMAX##	115
韓国郵便コード	韓国郵便コード設定をすべて初期化	KPCDFT	116
	*無効	KPCENA0	116
	有効	KPCENA1	116
韓国郵便コード読取桁数長	最小読取桁数（2～80）*4	KPCMIN##	116
	最大読取桁数（2～80）*48	KPCMAX##	116
韓国郵便コードチェックデジット	送信チェックデジット	KPCCHK1	116
	*チェックデジット送信なし	KPCCHK0	116
ユーティリティ			
コードIDプレフィックスをすべてのシンボルに追加（一時）		PRECA2,BK2995C80!	119
デコーダーリビジョン表示		REV_DR	119
スキャンドライバリビジョン表示		REV_SD	119
ソフトウェアリビジョン表示		REVINF	119
テストメニュー	有効	TSTMNU1	120
	*無効	TSTMNU0	120
初期設定の再設定	カスタムデフォルトの削除	DEFOVR	121
	デフォルトの有効化	DEFALT	121

製品仕様

Voyager1470gスキャナ製品仕様

パラメータ	仕様
機械仕様	
高さ	82mm (3.23インチ)
長さ	62mm (2.45インチ)
幅	169mm (6.65インチ)
重量	130g (4.6oz)
電気仕様	
入力電圧	4.0 - 5.5VDC
動作電源	2W (400mA @ 5VDC)
スタンバイ電源	.45W (90mA @ 5VDC)
照明 LED	白色発光 (CCT 2700K)
エイミング	赤色624nm ピーク波長
環境仕様	
動作温度	0°C~50°C
保管温度	-40°C~60°C
湿度	5~95% (結露無きこと)
落下	1.8mからコンクリートへ30回落下後動作
保護等級	IP40
ライトレベル	0~100,000ルクス (9,290 foot-candles)
耐静電気	15kV直接空気、8kV間接的結合面
画像	
イメージサイズ	1,040 x 720ピクセル
読取性能	
ピッチ、スキュー	+65°、+70°
移動読み取り： プレゼンテーションモード	最大70cm/秒 (13mil UPC)
印字コントラスト	25%

Voyager1472hコードレススキャナ製品仕様

パラメータ	仕様
機械仕様	
高さ	17.3cm (6.8 インチ)
長さ	8.2cm (3.2 インチ)
幅	6.2cm (2.5 インチ)
重量	210g (7.3 oz)
電気仕様	
バッテリー リチウムイオン	2400 mAh リチウムイオン
読み取り回数	1 回の完全充電で 5 万回
想定動作時間	14
想定充電時間	4.5 時間
照明 LED	白色発光 (CCT 2700K)
エイミング	赤色624nm ピーク波長
無線	
周波数	2.4~2.5GHz (ISMバンド)
範囲	10m (標準)
データレート	1MBps まで
環境仕様	
動作温度	0°C~50°C
保存温度*バッテリーあり	-20°C~35°Cで 90 日 -20°C~20°Cで 1 年
保存温度バッテリー無し	-40°C~60°C
湿度	5~95% (結露無きこと)
落下	1.8mからコンクリートへ30回落下後動作
保護等級	IP42
耐振動	5~300Hzで最大5Gに耐えること
耐静電気	12kV直接空気、8kV間接的結合面
画像	
イメージサイズ	1,040 x 720ピクセル
読取性能	
ピッチ、スキュー	+65°、+70°
移動読み取り： プレゼンテーションモード	最大70cm/秒 (13mil UPC)
印字コントラスト	25%

*保存温度範囲外の温度で保存した場合、バッテリーの寿命に有害な影響をもたらす可能性があります。

CCB01-010BT-V1Nチャージャーベース製品仕様

パラメータ	仕様
外形寸法（代表値）： 高さ 長さ 幅 重量	81.3mm（3.2インチ） 131.8mm（3.2インチ） 101.1mm（3.2インチ） 6.3 oz（179g）
電圧	4.5～5.5V
電流引き込み ホスト端末ポート AUX（補助）電力ポート	500mA 1A
充電時間	5時間
無線 周波数 範囲 データレート	2.4～2.5GHz（ISMバンド）FH方式 Bluetooth V2.1 10m（標準） 1Mbps まで
温度範囲： 動作時 充電中 保存時 バッテリなし	0℃～50℃ 5℃～40℃ -40℃～70℃
湿度	0～95%（結露無きこと）
耐落下	1m（3.28フィート）からコンクリート面に50回落下して動作すること
耐振動	22～300Hz5Gピークに耐えること
耐静電気	直接空気の場合、15kV 間接的結合面の場合、8kV
保護等級	IP41

読取深度 (DoFチャート)

通常動作

焦点			
シンボル		近距離	遠距離
5mil Code39	in.	.8	8.1
	mm	20	205
10mil Code39	in.	.2	14.4
	mm	5	365
13mil UPC-A	in.	.7	15.7
	mm	18	400
20mil Code39	in.	1	24.2
	mm	25	615
6.7mil PDF417	in.	.6	7.3
	mm	15	185
10mil PDF417	in.	.8	11
	mm	20	280
10mil DataMatrix	in.	.4	6.5
	mm	10	165
10mil QRCode	in.	.2	6.9
	mm	5	175
20mil QRCode	in.	.2	12.8
	mm	5	325
NYS DL	in.	3.1	8.7
	mm	80	220

Resolution (Code39)	3 mil	(.076mm)
Resolution (PDF-417)	4 mil	(.102mm)
Resolution (QR)	6 mil	(.152mm)
Resolution (DM)	6 mil	(.152mm)

保証値

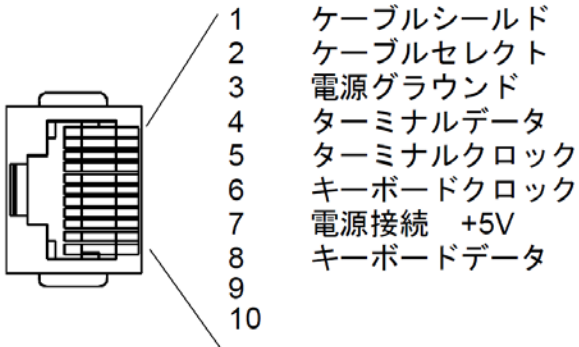
焦点			
シンボル		近距離	遠距離
5mil Code39	in.	1	7.9
	mm	25	200
10mil Code39	in.	.2	13
	mm	5	330
13mil UPC-A	in.	.8	14.6
	mm	20	370
20mil Code39	in.	1.2	17.9
	mm	30	455
6.7mil PDF417	in.	1	6.9
	mm	25	175
10mil PDF417	in.	1	10.2
	mm	25	260
10mil DataMatrix	in.	.6	6.1
	mm	15	155
10mil QRCode	in.	.4	6.3
	mm	10	160
20mil QRCode	in.	.4	12
	mm	10	305
NYS DL	in.	3.1	7.9
	mm	80	220

標準ケーブルのピン配列

注意：ピンの配列はハネウェルのレガシー製品と互換性がありません。不適切なピン配列ケーブルの使用は機器に損傷を与える可能性があります。メーカー提供のものではないケーブルの使用による損傷は保証対象となりません。

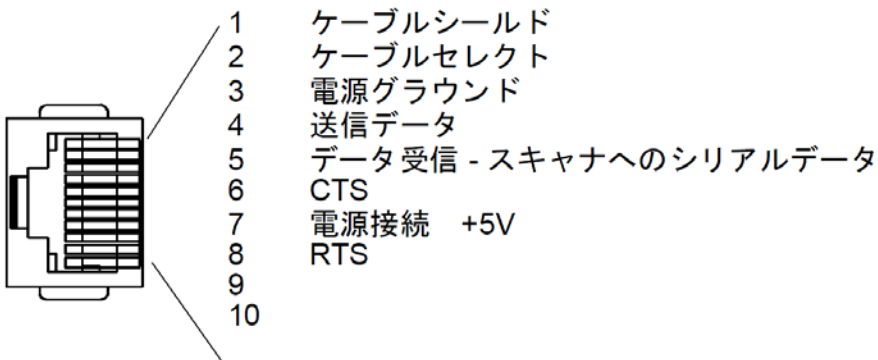
キーボードウェッジ

10ピンのRJ41モジュラープラグ



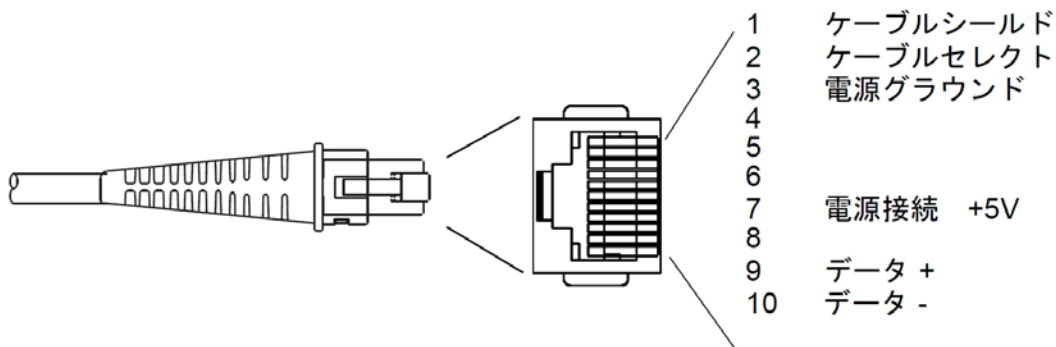
シリアル出力

10ピンのRJ41モジュラープラグ



USB

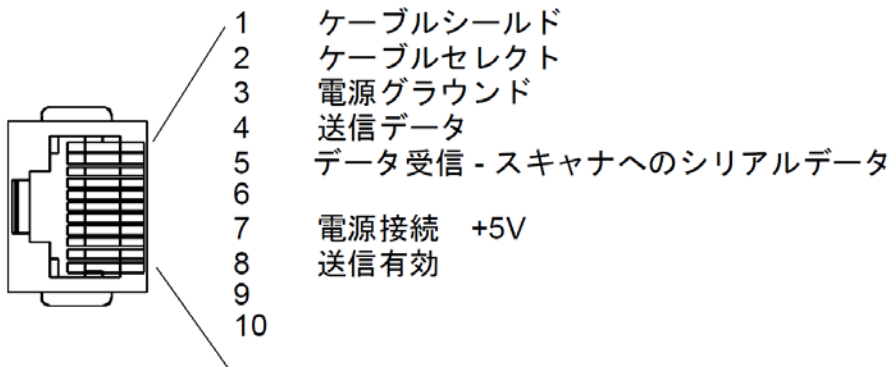
10ピンのモジュラープラグ



RS485アウトプット

10ピンのRJ41モジュラープラグ

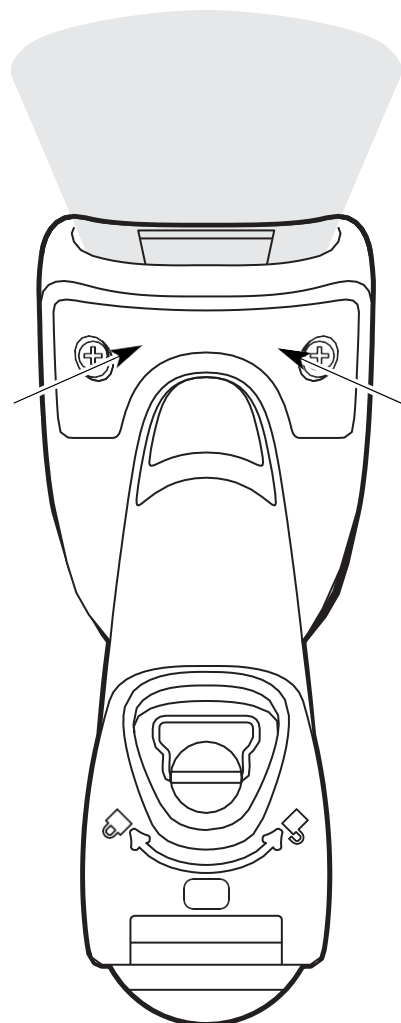
注意：RS485信号変換はケーブルで行われます。



必要な安全ラベル

Voyager 1470g/1472gスキャナ

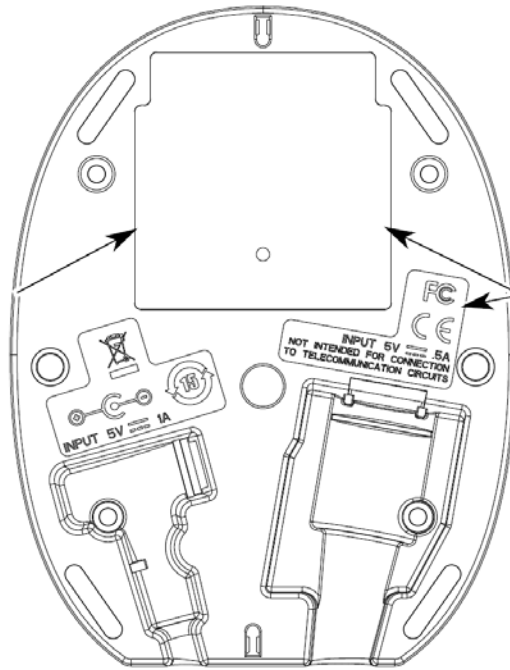
品番、シリアルナンバー、
レーザーラベル、および改訂情報の位置



レーザー光安全情報

CCB01-010BT-V1Nベース

品番、シリアルナンバー、
および改訂情報の位置



適合ラベルの位置

保守とトラブルシューティング

修理

修理およびアップグレードはこの製品に付属していません。これらのサービスは、必ず正規のサービスセンターで受けてください。（カスタマーサポートページの[テクニカルサポート](#)参照）

保守

本機器は、最低限のお手入れで確実に効率的な動作を提供します。特別な保守は不要ですが、以下の定期点検によって信頼性の高いスキャナの動作を確保できます。

機器の清掃

スキャナまたはベースの筐体が汚れている場合、柔らかい布やレンズ用ティッシュを水（または水で薄めた中性洗剤）で拭いてください。中性洗剤を使用する場合は、水だけで濡らしたきれいなレンズ用ティッシュでスキャナまたはベースを拭いて、洗剤の残留物を拭き取ってください。



注意：スキャナを水に浸けないでください。スキャナ筐体に耐水性はありません。研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。スキャナの読取ウィンドウを傷つける事があります。スキャナの筐体や読取ウィンドウにアルコールやアセトンなどの溶剤を絶対に使用しないでください。スキャナにダメージを与える可能性があります。

注意：スキャナを充電アクセサリやその他の周辺機器と接続する前に、すべてのコンポーネントが乾いていることを確認してください。濡れた機器を接続すると、保証の対象外となる損傷が発生する可能性があります。

ウィンドウの清掃

スキャナのウィンドウが汚れていると、スキャナの読み取り性能を低下させる原因になる場合があります。スキャナのウィンドウが明らかに汚れている場合、またはスキャナが正常に動作していない場合は、水で湿らせた柔らかい布でウィンドウを拭いてください。



注意：スキャナのウィンドウに研磨剤入りの布やティッシュを使用しないでください。研磨布でウィンドウを傷つける可能性があります。ウィンドウにアルコールやアセトンなどの溶剤を使用しないでください。溶剤はウィンドウを損傷する可能性があります。

ヘルスケアハウジング（消毒可能筐体モデル）について

Voyager XPスキャナの一部には殺菌洗浄可能ハウジングオプションがあり、医療の現場で使用されている強力な化学物質に耐えるよう、外部のプラスチックハウジングを備えています。これらのスキャナには、医療および汎用市場向けの消毒対応ハウジング（DRH）が装備されています。

消毒対応筐体のVoyager XPスキャナをクリーニングする方法の詳細については、Honeywell Safety and Productivity Solutions Webサイトを参照してください。

これらの特殊製品の手入れに関する役立つ情報は、次の記事にあります。

- Honeywell Healthcareの消毒可能な製品の洗浄方法を学ぶ
- ハネウェル社の汎用消毒剤対応ハウジングデバイスのクリーニング手順

ケーブルとコネクタの点検

インターフェースケーブルとコネクタに摩耗やその他損傷の兆候が無い点検してください。ひどく摩耗したケーブルや損傷したコネクタを使用していると、スキャナの動作を妨げることがあります。ケーブル交換については、お問い合わせいただいた販売

店にお問い合わせください。

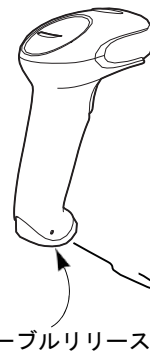
スキャナのインターフェースケーブルの交換

10ピンのモジュラコネクタの標準インターフェースケーブルが付属しています。適切に設置された場合、コネクタはフレキシブルリテンションタブによってスキャナのハンドルに収まります。インターフェースケーブルは現場で交換できるように設計されています。

- 交換用ケーブルはハネウェル社もしくは正規販売店よりお求めください。
- 交換用ケーブルをご注文の際は、元々のインターフェースケーブルのケーブル部品番号をご指定ください。

コード付きスキャナのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. スキャナのケーブルを端末またはコンピュータから外します。
3. スキャナのハンドルの裏側にある小さな穴を確認します。これはケーブルリリースです。
4. ペーパークリップの片方の先端をまっすぐにします。
5. 真っ直ぐにしたペーパークリップの先端を小さな穴に差し込んで押します。これによってリテンションタブを押し、コネクタのロックが解除されます。ペーパークリップを押しのままコネクタを引き抜き、その後クリップをはずします。
6. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタは一方向だけに入るように設計されており、所定の位置でカチッと音がします。

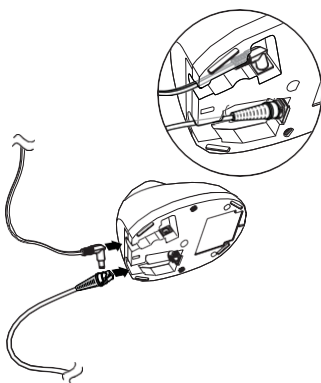


コードレスシステムのケーブルおよびバッテリーの交換

ベースユニットのインターフェースケーブルの交換

1. ホストシステムの電源を切ります。
2. ベースユニットのケーブルをホストデバイスから外してください。
3. ベースユニットを裏返しにしてください。
4. ケーブルコネクタのリリースクリップを押しながら、ケーブルをゆっくりと引き抜いてください。

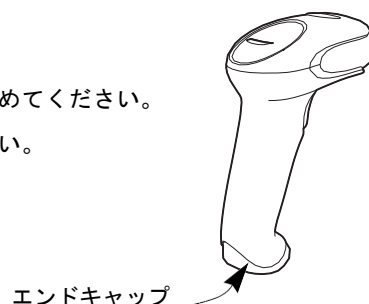
CCB01-010BT-V1N ベース



5. 新しいケーブルと交換します。コネクタを穴に差し込んで確実に押し込みます。コネクタは一方向だけに入るように設計されており、所定の位置でカチッと音がします。

スキャナバッテリーの交換

1. スキャナのエンドキャップ（持ち手端部分）にあるネジをドライバで回し緩めてください。
2. エンドキャップ外し、バッテリーを持ち手部分からゆっくり取り外してください。
3. 新しいバッテリーを同じ箇所差し込んでください。
4. エンドキャップをかぶせ、ネジをドライバで締めて下さい。



スキャナのトラブルシューティング

電源を入れると、スキャナはその都度セルフテストを自動的に実行します。お使いのスキャナが正常に機能していない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題を特定してください。

電源が入っていますか？レーザーエイマーがオンになっていますか？

レーザーエイマーが点灯していない場合は、以下の点をチェックしてください。

- ケーブルが正しく接続されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっているか。（外部電源を使用しない場合。）
- トリガーが動作しているか。

スキャナでシンボルの読み取りに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、スキャナウィンドウが汚れていないか、またシンボルについて以下の点をチェックしてください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- シンボルがスキャナまたはスキャナが接続されているデコーダーで有効になっているか。

バーコードが表示されても入力されませんか？

バーコードはホスト機器で正常に表示されていますが、入力するためにはキーを押す必要があります。（Enter/リターンキーやTabキーなど。）

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、イメージャーはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。詳細については、[プレフィックス/サフィックスについて](#)を参照してください。

スキャナがバーコードを間違えて読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- スキャナが適切な端末インターフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストは「@es%」と表示する場合など。
- 正しいプラグ&プレイバーコードまたは端末設定バーコードでスキャナを設定してください。[インターフェースの設定](#)ページを参照してください。
- スキャナがバーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストは「A12345B」と表示する場合など。

正しいシンボルを選択してイメージャーを再設定してください。[7章](#)を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

- 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナでサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください（[7章](#)を参照。）
- それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[すべてのシンボル](#)を読み取ってください。
- スキャナで設定されているプログラミングオプションが不明の場合、または出荷時初期設定を復元したい場合は、[初期設定の再設定](#)ページを参照してください。

コードレスシステムのトラブルシューティング

ベースユニットのトラブルシューティング

注意：スキャナならびにベースユニットの最新ファームウェアについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス&サポートセクションにアクセスください。

お使いのベースが正常に機能しない場合は、以下のトラブルシューティングガイドに従って問題点を明らかにしてください。

赤色LEDライトが点灯していますか？

赤色LEDライトが点灯していない場合は、以下の点をご確認ください。

- 電源ケーブルが正しく接続されており、電源に電力が投入されているか。
- ホストシステムの電源がオンになっている。（外部電源を使用しない場合。）

緑色LEDライトが点灯していますか？

緑色LEDライトが点灯していない場合は、以下の点をご確認ください。

- スキャナがベースにきちんと置かれているか。
- 外部電源またはホストデバイスから12Vの電力が供給されているか。
- 充電モードが有効になっているか。
- バッテリーに異常がないか、過度の充電不足ではないか。この場合は、スキャナの許容レベルまでバッテリーのトリクル充電を行い、その後、一般の充電サイクルに移行します。

コードレススキャナのトラブルシューティング

注意：スキャナのバッテリーが充電されていることをご確認ください。

スキャナやベースの最新ファームウェアについては、ウェブサイト (www.honeywellaidc.com) のサービス&サポートセクションにアクセスください。

スキャナでシンボルの読み取りに問題がありますか？

シンボルを正しく読み取らない場合は、以下の項目を確認してください。

- シンボルに汚れ、荒れ、傷、あるいは欠けがないか。
- シンボルの表面に霜や水滴が付いていないか。
- スキャナと接続されているベースもしくはアクセスポイントが有効か。

バーコードが表示されたものの、入力されませんか？

ホストシステムによっては、バーコードデータを入力するためにはキーを押す必要があります。(Enter/リターンキーやTabキーなど。)

- サフィックスを設定する必要があります。サフィックスを設定すると、イメージャーはバーコードデータと必要なキー（「CR」など）を出力し、アプリケーションにデータを入力することができます。

スキャナがバーコードを間違っ読み取っていませんか？

スキャナがバーコードを読み取っても、データがホスト画面に正しく表示されない場合は

- ベースまたはアクセスポイントが適切な端末インターフェース用に設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取っても、ホストは「@es%」と表示する場合など。
- 正しいプラグ&プレイバーコードまたは端末選択バーコードでベースまたはアクセスポイントを設定してください。
- ベースまたはアクセスポイントは、バーコードデータを正しく出力するように設定されていない可能性があります。例えば、「12345」を読み取ってもホストは「A12345B」と表示する場合など。

正しいシンボルを選択してベースまたはアクセスポイントを再設定してください。[7章](#)を参照してください。

スキャナがバーコードをまったく読み取らない。

- 本書の後ろにあるサンプルバーコードを読み取ります。スキャナがサンプルバーコードを読み取る場合は、お使いのバーコードが読み取り可能か確認してください。

お使いのバーコードシンボルが有効になっているか確認してください ([7章](#)を参照。)

それでもサンプルバーコードを読み取れない場合は、[すべてのシンボル](#)を読み取ってください。

カスタマーサポート

テクニカルサポート

インストールやトラブルシューティングに関するサポートが必要な場合は、以下の方法でご連絡ください。

サポート情報 : www.hsmknowledgebase.com

サポート情報には多くの解決方法がございます。サポート情報で解決しない場合は、テクニカルサポート（以下参照）を使用して問題を報告したり質問をしたりすることができます。

テクニカルサポートポータル : www.hsmsupportportal.com

テクニカルサポートポータルでは問題を報告するだけでなく、サポート情報から技術的な問題を検索することで解決方法を提供します。ポータルを使用すると、オンラインで質問の提出や追跡、ファイルの送受信が可能です。

ウェブフォーム : www.hsmcontactsupport.com

オンラインサポートフォームに入力することで、テクニカルサポートチームに直接連絡することができます。お客様の情報と質問や問題の詳細を入力してください。

拠点情報 : www.honeywellaidc.com/locations

最新の問い合わせ先については、上記のウェブサイトを確認してください。

製品のサービスと修理

Honeywell社は、世界中のサービスセンターを通して全製品に対するサービスを提供しています。保証期間内または保証期間後の修理を受けるためにはwww.honeywellaidc.comからSupport > Contact Service and Repairに進んでいただき、ご使用の地域でのRMA番号を入手する方法を確認してください。製品を返送する前に、この手順に従ってください。

条件付き保証

Honeywell International Inc.（以下ハネウェル社）は、出荷時にはその製品とアクセサリの材料および製造品質に欠陥がなく、お買い上げいただいた製品に適用されるの公式な仕様に適合することを保証いたします。この保証は、以下の場合にはハネウェル社の製品であっても対象外となります。（i）設置または使用方法が不適切。（ii）正しい保守、サービス、および清掃手順に従わなかった場合を含めて事故や不注意で損傷。または（iii）以下の結果損傷した場合：（A）お客様または第三者が変更や改造を行った。（B）インターフェース接続に過大な電圧や電流がかかったり流れたりした。（C）静電気または静電気放電。（D）指定の動作パラメータを超える条件で使用した。（E）ハネウェル社または正規代理店以外が製品の修理や整備を行った。

この保証期間は、ハネウェル社の出荷時点から、ご購入時に製品に対して公式に示した期間（「保証期間」）とします。欠陥品は、点検のために保証期間内にハネウェル社の工場または正規サービスセンターに必ず返却してください。RMA（Return Material Authorization）が無ければ、ハネウェル社はどんな製品も受け付けません。RMAは、ハネウェル社に連絡すれば取得できます。保証期間内にハネウェル社または正規サービスセンターに製品が返却され、材料または製造品質の欠陥によって製品が故障したことを確認した場合、ハネウェル社はその選択によって製品を無償で修理または交換いたします。ただし、ハネウェル社への返却送料はご負担ください。

該当する法律によって規定されている場合を除き、上記の保証は、明示的であっても暗黙のものであっても、また口頭であっても書面であっても限定されることなく、特定の目的に対する商品性や適合のあらゆる暗黙の保証を含む他のあらゆる契約に代わるものです。

この保証によるハネウェル社の賠償責任とお客様が受けられる唯一の補償は、欠陥品の修理または交換に限られます。いかなる場合も、ハネウェル社は、直接的、間接的、あるいは結果的な損害には一切責任を負いません。また、ここでお買い上げいただいた製品に関して生じたハネウェル社の賠償額は（そうした賠償責任が契約、保証、不法行為などに基づく請求によるものであっても関係なく）、その製品のためにハネウェル社にお支払いいただいた実際の金額を限度とします。これらの賠償責任の限度は、そのような、けが、損失、損害などの可能性についてハネウェル社が知らされていた場合であってもまったく有効です。一部の州、地区、あるいは国などでは、偶発的または結果的な損害の除外または制限を認めていません。その場合、上記の制限または除外がお客様に適用されない場合があります。

この条件付保証項目はすべて区分されており、分離が可能です。つまり、いずれかの条項が無効のまま実施できない場合でも、

その決定は他の項目を実施する有効性には関係ありません。製造元提供以外の周辺機器を使用して故障した場合、保証の対象外です。この周辺装置には、ケーブル、電源、クレードル、およびドッキングステーションが含まれます。ハネウエル社は、これらの保証を製品の最初のエンドユーザーにのみ適用します。これらの保証は譲渡できません。

Voyager1470gスキャナの保証期間は、5年とします。

Voyager1472gスキャナの保証期間は、3年とします。

CCB01-010BT-V1Nチャージベースの保証期間は、3年とします。

Voyager1452のバッテリーの保証期間は、1年とします。。

付録チャート

シンボルチャート

注意：「m」は、AIMモディファイアのキャラクタを示します。AIMモディファイアキャラクタの詳細については、国際技術仕様のSymbology Identifiersを参照してください。

特定のシンボルに対するプレフィックス/サフィックスの入力は、汎用（全シンボル、16進数は99）入りに優先します。

コードIDとAIM IDの使用方法については、[データ編集](#)ページと[データフォーマット](#)ページを参照してください。

リニアシンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbologies (全シンボル)				99
Codabar	JFm	0-1	a	61
Code 11	JH3		h	68
Code 128	JCm	0, 1, 2, 4	j	6A
Code32 Pharmaceutical (PARAF)	JX0		<	3C
Code39 (FullASCII モード対応)	JAm	0, 1, 3, 4, 5, 7	b	62
TCIF Linked Code39 (TLC39)	JL2		T	54
Code93and 93i	JGm	0-9, A-Z, a-m	i	69
EAN	JEm	0, 1, 3, 4	d	64
EAN-13 (Bookland EAN を含む)	JE0		d	64
EAN-13 with Add-On (アドオン付き EAN-13)	JE3		d	64
EAN-13 with Extended Coupon Code (拡張クーポンコード付き EAN-13)	JE3		d	64
EAN-8	JE4		D	44
EAN-8 with Add-On (アドオン付き EAN-13)	JE3		D	44
GS1				
GS1 DataBar (GS1データバー)	Jem	0	y	79
GS1 Limited (GS1限定型)	Jem		{	7B
GS1 Expanded (GS1データバー拡張型)	Jem		}	7D
GS1-128	JC1		l	49
2 of 5				
中国郵便コード (香港 2 of 5)	JX0		Q	51
Interleaved 2 of 5	Jlm	0, 1, 3	e	65
Matrix 2 of 5	JX0		m	6D
NEC 2 of 5	JX0		Y	59
Straight 2 of 5 IATA	JRm	0, 1, 3	f	66
Straight 2 of 5 Industrial	JS0		f	66
MSI	JMm	0, 1	g	67
UPC		0, 1, 2, 3, 8, 9, A, B, C		
UPC-A	JE0		c	63
UPC-Awith Add-On (アドオン付き UPC-A)	JE3		c	63
UPC-Awith Extended Coupon Code (拡張コード付き UPC-A)	JE3		c	63
UPC-E	JE0		E	45
UPC-E with Add-On (アドオン付き UPC-E)	JE3		E	45
UPC-E1	JX0		E	45
Honeywell Code ID 追加				5C80
AIM Code ID 追加				5C81
Backslash 追加				5C5C
Batch mode quantity			5	35

2次元シンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbolologies (全シンボル)				99
Aztec Code]zm	0-9, A-C	z	7A
Chinese Sensible Code (漢信コード)]X0		H	48
Codablock A]O6	0, 1, 4, 5, 6	V	56
Codablock F]Om	0, 1, 4, 5, 6	q	71
Code 49]Tm	0, 1, 2, 4	l	6C
Data Matrix]dm	0-6	w	77
GS1]em	0-3	y	79
GS1 Composite (GS1コンポジット)]em	0-3	y	79
GS1 Ominidirectional (GS1データバー標準型)]em	0-3	y	79
MaxiCode]Um	0-3	x	78
PDF417]Lm	0-2	r	72
MicroPDF417]Lm	0-5	R	52
QR Code]Qm	0-6	s	73
Micro QRコード]Qm		s	73

郵便シンボル

シンボル	AIM		Honeywell	
	ID	モディファイア (m)	ID	16進数
All Symbolologies (全シンボル)				99
Australian Post (オーストラリア郵便)]X0		A	41
British Post (イギリス郵便)]X0		B	42
Canadian Post (カナダ郵便)]X0		C	43
China Post (中国郵便)]X0		Q	51
InfoMail]X0		,	2c
Intelligent Mail Bar Code]X0		M	4D
Japanese Post (日本郵便)]X0		J	4A
KIX (Netherlands) Post (オランダ郵便)]X0		K	4B
Korea Post (韓国郵便)]X0		?	3F
Planetコード]X0		L	4C
Postal-4i]X0		N	4E
Postnet]X0		P	50

ASCII変換チャート (コードページ1252)

キーボードアプリケーションで、ASCII制御文字は以下のように3つの異なる方法で表現されます。CTRL+XファンクションキーはOSとアプリケーションによって異なります。以下のテーブルはMicrosoftで使用される共通の機能のリストです。この表は、アメリカ方式のキーボードに適用されます。特定のキャラクタは、国コード/PCの地域設定によって異なる場合があります。

印刷不可能なASCIIコントロールキャラクタ			キーボードコントロール+ASCII (CTRL+X) モード		
10進数	16進数	Char	*コントロール+Xモードオフ (KBDCASO)	Windows モードコントロール+Xモードオン (KBDCAS2)	
				CTRL + X	CTRL + X function
0	00	NUL	Reserved	CTRL+ @	
1	01	SOH	NP Enter	CTRL+ A	Select all
2	02	STX	Caps Lock	CTRL+ B	Bold
3	03	ETX	ALT Make	CTRL+ C	Copy
4	04	EOT	ALT Break	CTRL+ D	Bookmark
5	05	ENQ	CTRL Make	CTRL+ E	Center
6	06	ACK	CTRL Break	CTRL+ F	Find
7	07	BEL	Enter/Ret	CTRL+ G	
8	08	BS	(Apple Make)	CTRL+ H	History
9	09	HT	Tab	CTRL+ I	Italic
10	0A	LF	(Apple Break)	CTRL+ J	Justify
11	0B	VT	Tab	CTRL+ K	hyperlink
12	0C	FF	Delete	CTRL+ L	list, left align
13	0D	CR	Enter/Ret	CTRL+ M	
14	0E	SO	Insert	CTRL+ N	New
15	0F	SI	ESC	CTRL+ O	Open
16	10	DLE	F11	CTRL+ P	Print
17	11	DC1	Home	CTRL+ Q	Quit
18	12	DC2	PrtScn	CTRL+ R	
19	13	DC3	Backspace	CTRL+ S	Save
20	14	DC4	Back Tab	CTRL+ T	
21	15	NAK	F12	CTRL+ U	
22	16	SYN	F1	CTRL+ V	Paste
23	17	ETB	F2	CTRL+ W	
24	18	CAN	F3	CTRL+ X	
25	19	EM	F4	CTRL+ Y	
26	1A	SUB	F5	CTRL+ Z	
27	1B	ESC	F6	CTRL+ [
28	1C	FS	F7	CTRL+ \	
29	1D	GS	F8	CTRL+]	
30	1E	RS	F9	CTRL+ ^	
31	1F	US	F10	CTRL+ -	
127	7F	n	NP Enter		

下位ASCIIリファレンステーブル

注意：Windowsコードページ1252および下位ASCIIは同じキャラクターを使用します。

印刷可能なキャラクター								
10進数	16進数	キャラクター	10進数	16進数	キャラクター	10進数	16進数	キャラクター
32	20	<SPACE>	64	40	@	96	60	`
33	21	!	65	41	A	97	61	a
34	22	"	66	42	B	98	62	b
35	23	#	67	43	C	99	63	c
36	24	\$	68	44	D	100	64	d
37	25	%	69	45	E	101	65	e
38	26	&	70	46	F	102	66	f
39	27	'	71	47	G	103	67	g
40	28	(72	48	H	104	68	h
41	29)	73	49	I	105	69	i
42	2A	*	74	4A	J	106	6A	j
43	2B	+	75	4B	K	107	6B	k
44	2C	,	76	4C	L	108	6C	l
45	2D	-	77	4D	M	109	6D	m
46	2E	.	78	4E	N	110	6E	n
47	2F	/	79	4F	O	111	6F	o
48	30	0	80	50	P	112	70	p
49	31	1	81	51	Q	113	71	q
50	32	2	82	52	R	114	72	r
51	33	3	83	53	S	115	73	s
52	34	4	84	54	T	116	74	t
53	35	5	85	55	U	117	75	u
54	36	6	86	56	V	118	76	v
55	37	7	87	57	W	119	77	w
56	38	8	88	58	X	120	78	x
57	39	9	89	59	Y	121	79	y
58	3A	:	90	5A	Z	122	7A	z
59	3B	;	91	5B	[123	7B	{
60	3C	<	92	5C	\	124	7C	
61	3D	=	93	5D]	125	7D	}
62	3E	>	94	5E	^	126	7E	~
63	3F	?	95	5F	_	127	7F	␣

拡張ASCII キャラクター					
10進数	16進数	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 Scan Code
128	80	€	Ç	up arrow ↑	0x48
129	81		ü	down arrow ↓	0x50
130	82	,	é	right arrow →	0x4B
131	83	f	â	left arrow ←	0x4D
132	84	„	ä	Insert	0x52
133	85	...	à	Delete	0x53
134	86	†	â	Home	0x47
135	87	‡	ç	End	0x4F
136	88	^	ê	Page Up	0x49
137	89	%o	ë	Page Down	0x51
138	8A	Š	è	Right ALT	0x38
139	8B	‘	ï	Right CTRL	0x1D
140	8C	œ	î	Reserved	n/a
141	8D		ì	Reserved	n/a
142	8E	Ž	À	Numeric Keypad Enter	0x1C
143	8F		Á	Numeric Keypad/	0x35
144	90		É	F1	0x3B
145	91	‘	æ	F2	0x3C
146	92	’	Æ	F3	0x3D
147	93	“	ô	F4	0x3E
148	94	”	ö	F5	0x3F
149	95	•	ò	F6	0x40
150	96	–	û	F7	0x41
151	97	—	ù	F8	0x42
152	98	~	ÿ	F9	0x43
153	99	™	Ó	F10	0x44
154	9A	š	Ú	F11	0x57
155	9B	›	ø	F12	0x58
156	9C	œ	£	Numeric Keypad +	0x4E
157	9D		¥	Numeric Keypad -	0x4A
158	9E	ž	Ŧ	Numeric Keypad *	0x37
159	9F	ÿ	f	Caps Lock	0x3A

160	A0		á	Num Lock	0x45
161	A1	¡	í	Left Alt	0x38
162	A2	¢	ó	Left Ctrl	0x1D
163	A3	£	ú	Left Shift	0x2A
164	A4	¤	ñ	Right Shift	0x36
165	A5	¥	Ñ	Print Screen	n/a
166	A6	¦	ª	Tab	0x0F
167	A7	§	º	Shift Tab	0x8F
168	A8	¨	¿	Enter	0x1C
169	A9	©	¬	Esc	0x01
170	AA	ª	¬	Alt Make	0x36
171	AB	«	½	Alt Break	0xB6
172	AC	¬	¼	Control Make	0x1D
173	AD		¡	Control Break	0x9D
174	AE	®	«	Alt Sequence with 1 Character	0x36
175	AF	-	»	Ctrl Sequence with 1 Character	0x1D
176	B0	°			
177	B1	±			
178	B2	²			
179	B3	³			
180	B4	´			
181	B5	µ			
182	B6	¶			
183	B7	·			
184	B8	¸			
185	B9	¹			
186	BA	º			
187	BB	»			
188	BC	¼			
189	BD	½			
190	BE	¾			
191	BF	¿			
192	C0	À			
193	C1	Á			
194	C2	Â			
195	C3	Ã			
196	C4	Ä			
197	C5	Å			
198	C6	Æ			
199	C7	Ç			
200	C8	È			
201	C9	É			
202	CA	Ê			
203	CB	Ë			
204	CC	Ì			
205	CD	Í			
206	CE	Î			
207	CF	Ï			
208	D0	Ð			
209	D1	Ñ			
210	D2	Ò			
211	D3	Ó			
212	D4	Ô			
213	D5	Õ			
214	D6	Ö			
215	D7	×			
216	D8	Ø			
217	D9	Ù			
218	DA	Ú			
219	DB	Û			
220	DC	Ü			
221	DD	Ý			
222	DE	Þ			
223	DF	ß			
224	E0	à	α		
225	E1	á	β		
226	E2	â	Γ		
227	E3	ã	π		
228	E4	ä	Σ		
229	E5	å	σ		
230	E6	æ	μ		

拡張ASCII キャラクタ (続き)					
10進数	16進数	CP 1252	ASCII	代替拡張	PS2 Scan Code
231	E7	ç	ı		
232	E8	è	ø		
233	E9	é	Ù		
234	EA	ê	Ω		
235	EB	ë	ö		
236	EC	ì	∞		
237	ED	í	φ		
238	EE	î	ε		
239	EF	ï	∩		
240	F0	ð	≡		
241	F1	ñ	±		
242	F2	ò	≥		
243	F3	ó	≤		
244	F4	ô	∫		
245	F5	õ	∫		
246	F6	ö	∴		
247	F7	÷	≈		
248	F8	ø	°		
249	F9	ù	·		
250	FA	ú	·		
251	FB	û	√		
252	FC	ü	n		
253	FD	ý	²		
254	FE	þ	■		
255	FF	ÿ			

ISO 2022/ISO 646 キャラクタ変換

コードページでは、キャラクタコードのキャラクタへの割当てを定義します。受信したデータが適切な文字で表示されない場合は、読み取ったバーコードが、ホストプログラムが期待するものとは別のコードページを使用して作成されている可能性があります。その場合は、バーコードが作成されたコードページを選択してください。これでデータキャラクタが正しく表示されるはずです。

コードページ選択方法/国	標準	国別キーボード	Honeywellコードページオプション
アメリカ (標準ASCII)	ISO/IEC 646-IRV	n/a	1
自動国キャラクタ置換	ISO/IEC 2022	n/a	2 (デフォルト)
バイナリコードページ	n/a	n/a	3
デフォルトの「自動国キャラクタ置換」は以下のCode128、Code39、Code93用Honeywellコードページオプションを選択します。			
アメリカ	ISO/IEC 646-06	0	1
カナダ	ISO/IEC 646-121	54	95
カナダ	ISO/IEC 646-122	18	96
日本	ISO/IEC 646-14	28	98
中国	ISO/IEC 646-57	92	99
イギリス (UK)	ISO/IEC 646-04	7	87
フランス	ISO/IEC 646-69	3	83
ドイツ	ISO/IEC 646-21	4	84
スイス	ISO/IEC 646-CH	6	86
スウェーデン/フィンランド (拡張Annex C)	ISO/IEC 646-11	2	82
アイルランド	ISO/IEC 646-207	73	97
デンマーク	ISO/IEC 646-08	8	88
ノルウェー	ISO/IEC 646-60	9	94
イタリア	ISO/IEC 646-15	5	85
ポルトガル	ISO/IEC 646-16	13	92
スペイン	ISO/IEC 646-17	10	90
スペイン	ISO/IEC 646-85	51	91

10進数			35	36	64	91	92	93	94	96	123	124	125	126
16進数			23	24	40	5B	5C	5D	5E	60	7B	7C	7D	7E
US	0	1	#	\$	@	[\]	^	`	{		}	~
CA	54	95	#	\$	à	â	ç	ê	î	ô	é	ù	è	û
CA	18	96	#	\$	à	â	ç	ê	É	ô	é	ù	è	û
JP	28	98	#	\$	@	[¥]	^	`	{		}	—
CN	92	99	#	¥	@	[\]	^	`	{		}	—
GB	7	87	£	\$	@	[\]	^	`	{		}	~
FR	3	83	£	\$	à	°	ç	§	^	μ	é	ù	è	..
DE	4	84	#	\$	§	Ä	Ö	Ü	^	`	ä	ö	ü	ß
CH	6	86	ù	\$	à	é	ç	ê	î	ô	ä	ö	ü	û
SE/FI	2	82	#	¤	É	Ä	Ö	À	Ü	é	ä	ö	å	ü
DK	8	88	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	~
NO	9	94	#	\$	@	Æ	Ø	Å	^	`	æ	ø	å	-
IE	73	97	£	\$	Ó	É	Í	Ú	Á	ó	é	í	ú	á
IT	5	85	£	\$	§	°	ç	é	^	ù	à	ò	è	ì
PT	13	92	#	\$	§	Ã	Ç	Õ	^	`	ã	ç	õ	°
ES	10	90	#	\$	§	í	Ñ	¿	^	`	°	ñ	ç	~
ES	51	91	#	\$	·	í	Ñ	Ç	¿	`	´	ñ	ç	..
圖	メーカー メーカー	Honeywell ハネウェル	ISO/IEC 646 国別キャラクタ変換											

キーボードキーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B				5C	61	66		
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39	53	5D	62	67				6C	
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					

104キー アメリカスタイルキーボード

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	2B	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2A				5C	61	66		
2C	2D	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39	53	5D	62	67				6C
3A	3B	3C	3D				3E	3F	38	40	4F	54	59	63	68					

105キー ヨーロッパスタイルキーボード

サンプルシンボル

UPC-A



0 123456 7890

Interleaved 2 of 5



01234567890

EAN-13



9 780330 290951

Code 128



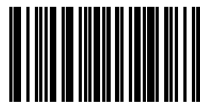
Code 128

Code 39



BC321

Codabar



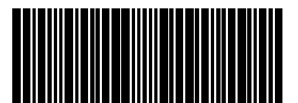
A13579B

Code 93



123456-9\$

Straight 2 of 5 Industrial



123456

Matrix 2 of 5



6543210

RSS-14



(01) 00123456789012

PDF417



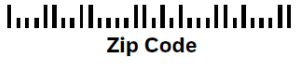
Car Registration

Code 49



1234567890

Postnet



Zip Code

Data Matrix



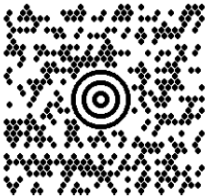
Test Symbol

QR Code



Numbers

MaxiCode



Test Message

Micro PDF417



Test Message

4-CB (4-State Customer Barcode)



01,234,567094,987654321,01234567891

ID-tag (UPU 4-State)



J18CUSA8E6N062315014880T

プログラミングチャート



K0K
0



K2K
2



K4K
4



K6K
6



K8K
8



K1K
1



K3K
3



K5K
5



K7K
7



K9K
9



KAK
A



KCK
C



KEK
E



MNUSAV.
保存



RESET_
リセット



KBK
B



KDK
D



KFK
F



MNUABT.
破棄

注意：（保存を読み取る前に）文字または数字をスキャンしてもエラーとなった場合は、**破棄**を読み取り、正確に文字または数字をもう一度スキャンして、**保存**を読み取ってください。

日本ハネウェル株式会社
セーフティ & プロダクティビティ ソリューションズ
〒105-0022 東京都港区海岸1-16-1
ニューピア竹芝サウスタワー20階
電話 : 03-6730-7344
FAX : 03-6730-7224
MAIL : HSMJapanInquiry@Honeywell.com
WEB : <https://honeywell.co.jp>